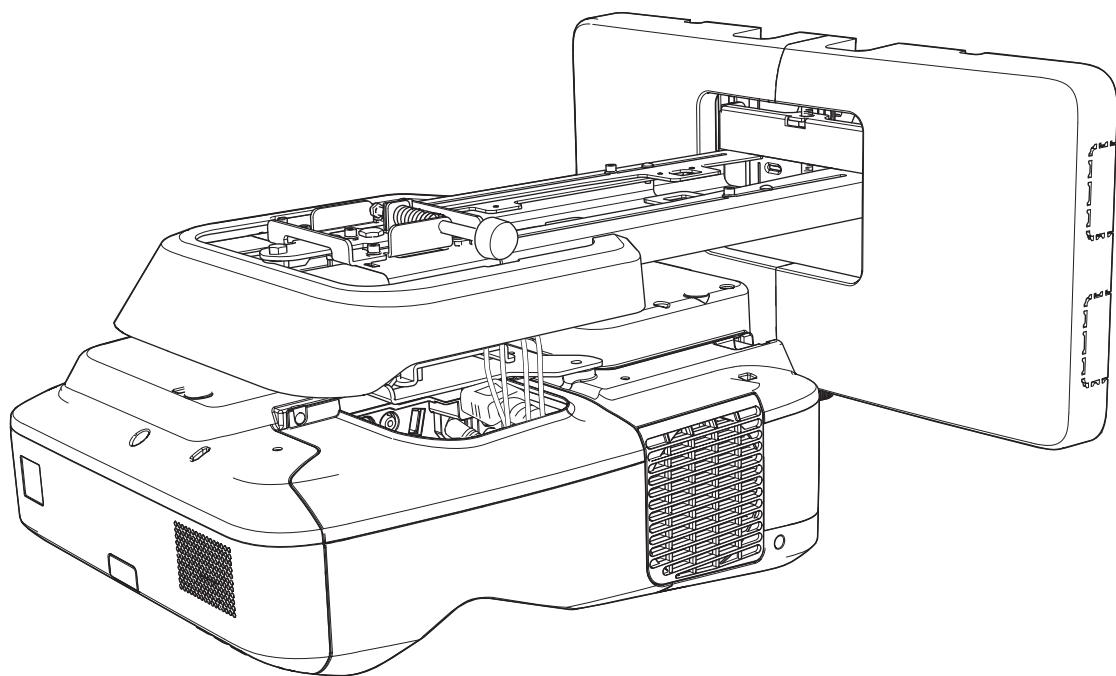


EB-695WT / EB-685WT

設置工事説明書



○ 安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、お使いになる前には必ず本書をお読みください。本書の内容に反した取り扱いは故障や事故の原因となります。本書は、製品の不明点を一つでも解決できるように、手元に置いてお使いください。

プロジェクターの『取扱説明書』と『安全にお使いいただくために』をご確認いただき、取り扱いの注意事項をお守りください。

安全に関する表示

取扱説明書および本製品には、本製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよくご理解いただいた上で本文をお読みください。

表示	意味
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

記号の意味

記号	意味
	行為を禁止する記号
	行為を指示する記号
	関連する情報や知っておくと便利な情報

設置上のご注意

⚠ 警告	
セッティングプレートはプロジェクターの壁掛け設置専用品です。プロジェクター以外のものを取り付けるとその重さによっては破損することがあります。	
本製品が壊れて落下すると、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。	
壁への取り付け（壁掛け設置）工事は、特別な技術が必要です。正しく工事が行われないと、落下によりけがや事故の原因となります。	
本製品は、本書の記載に沿って設置してください。	
記載事項を守らないと、本製品が落下し、けがや事故の原因となります。	

 警告	
電源コードの取り扱いには注意してください。	
取り扱いを誤ると、火災・感電の原因となります。取り扱いの際には、次の点を守ってください。	
<ul style="list-style-type: none"> • 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない。 • 破損や加工した電源コードを使用しない。 • 電源コードをセッティングプレートに通すときは、強い力で引っ張らない。 	
振動や衝撃が伝わる不安定な場所には設置しないでください。	
本製品や設置面が破損するおそれがあります。また、本製品が落下して人が死亡または重傷を負うおそれがあります。	
壁に取り付ける際は、プロジェクターとセッティングプレートの質量および横揺れにも十分耐えられるようにプレートを取り付けてください。ナット・ボルト等はM10を使用してください。	
M10より小さいと落下事故の原因となります。取り付けの強度不足等による落下事故につきましては、当社は一切責任を負いませんのでご了承ください。	
本製品は必ず二人以上の専門業者で設置してください。設置中にネジ類を緩めるとときは、本製品が落下しないように取り扱ってください。	
本製品が落下して、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。	
本製品を壁に取り付けるときは、プロジェクターとセッティングプレートを支えるために壁には十分な強度が必要です。	
本製品はコンクリートの壁に取り付けてください。プロジェクターとセッティングプレートの最大総重量は、約13.5kgです（ケーブル類含まず）。本製品を壁に設置する前に、壁の強度を確保してください。強度不足のときは、十分に補強してから設置してください。	
定期的に、破損箇所やネジ類の緩みがないか点検してください。	
破損箇所があるときはすぐに使用を中止してください。本製品が落下して、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。	
本製品の分解・改造は絶対にしないでください。	
内部には電圧の高い部分が数多くあり、火災・感電・事故の原因となります。	
本製品にぶら下がらないでください。また、重い物をぶら下げないでください。	
本製品が壊れて落下すると、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。	
壁掛け設置やセッティングプレートの調整を行うときは、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。	
プロジェクターのスライドプレート固定部にネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などが付着するとケースが割れ、プロジェクターが落下して事故やけがの原因となります。	
調整後はすべてのネジを完全に締め直してください。	
十分に締めないと落下によりけがや事故の原因となります。	
設置後は、ボルト・ナットを絶対に緩めないでください。	
また、定期的にネジ類の緩みがないことを確認してください。万一、緩みがあるときは、確実に締め直してください。十分に締めないと落下によりけがや事故の原因となります。	
ケーブルはネジやボルトを避けて配線してください。	
ケーブルの取り扱いを誤ると、火災・感電の原因となります。	

 警告

プロジェクターの電源を入れるときは、絶対に投写窓をのぞかないでください。	
強い光で目を痛めるなどの原因となります。小さなお子様のいる場所では特に注意してください。離れた場所からリモコンを使ってプロジェクターの電源を入れるときは、投写窓をのぞいている人がいないことを確認してから電源を入れてください。	
プロジェクターを使用するときは、プロジェクターの投写窓にものを置いたり、手を近づけたりしないでください。	
投写光が集束するため高温になり危険です。	
プロジェクターの吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。	
暖房器具の付近など高温になる場所は避け、壁と排気口の間を50cm以上空けてください。	
可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在するおそれのある場所で使用しないでください。	
プロジェクター内部ではランプが高温になっているため、引火による火災の原因となります。	
本製品に異常が発生したときは、すぐに本製品に接続しているケーブルを抜いて、お買い上げの販売店またはエプソンサービスコールセンターにご相談ください。	
そのまま使用を続けると、火災・感電・視力障害の原因となります。	

 注意

ご使用になるプロジェクター機種の使用温度範囲を超える場所には設置しないでください。	
故障の原因となります。	
レンズや内部の光学部品に汚れが付着しないように、ホコリや湿気の少ないところに設置してください。	
本製品を調整するときは無理な力を加えないでください。	
本製品が壊れてけがの原因となることがあります。	

タッチユニットに関するご注意 (EB-695WTのみ)

 警告

タッチユニットの分解・改造は絶対にしないでください。	
タッチユニットの内部には高出力のレーザー製品が組み込まれており、火災・感電・事故の原因となります。	
タッチユニットをEB-695WT以外のプロジェクターや他の機器に接続しないでください。	
機器の故障や制限以上のレーザー光が放出される可能性があります。	
心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方は、タッチユニットに近づかないでください。また、タッチユニットを取り扱うときは、近くに心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方がいないことを確認してください。	
マグネットの磁力が強力なため電磁妨害が生じ、医療機器が誤動作する可能性があります。	



注意

磁気カードなどの磁気記憶媒体や、コンピューター、電子腕時計、携帯電話などの精密電子機器をタッチユニットに近づけないでください。



マグネットの磁力が強力なためデータの破損や故障の原因となる可能性があります。

本書について

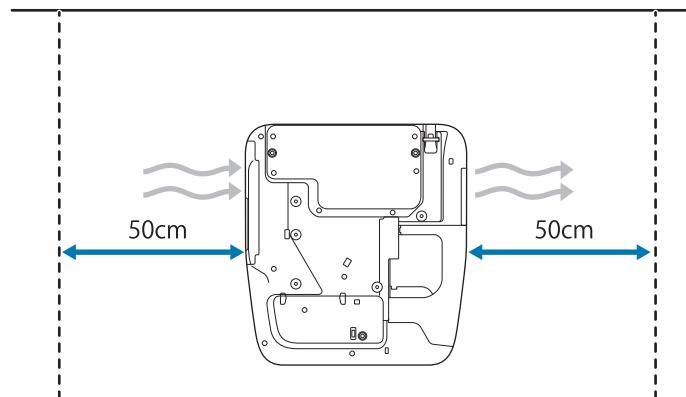
本書では、オプションのセッティングプレート (ELPMB46) を使って、超短焦点プロジェクター EB-695WT/EB-685WT を壁掛け設置するための手順を説明しています。

また、壁掛け設置後にタッチユニットを設置するための手順を説明しています (EB-695WTのみ)。

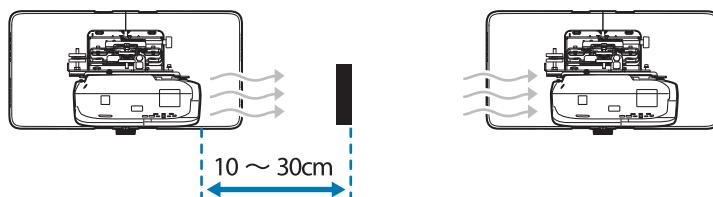
○ 設置場所について

プロジェクターの設置場所

- セッティングプレートを設置する場所に、あらかじめ電源工事を済ませておいてください。
- プロジェクターを設置する場所は、蛍光灯・エアコンなど他の電気製品から離してください。蛍光灯の種類によっては、プロジェクターを操作するリモコンが誤動作することがあります。
- プロジェクターを設置するときは、プロジェクターの左右にある排気口や吸気口を壁などから約50cm以上離してください。



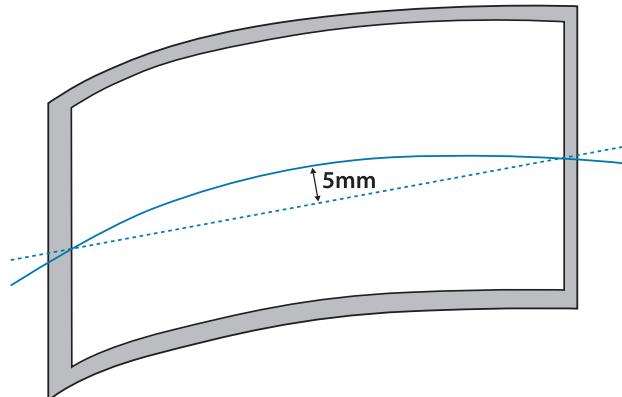
- 2台以上のプロジェクターを並べて設置するときは、35°C以下の環境に設置してください。
高温の環境で使用すると、プロジェクターが高温になり突然電源が切れことがあります。35°C以上の環境で使用するときは、排気口から出た熱を遮るために仕切りを取り付けます。仕切りは、排気口よりも一回り（縦横それぞれ約2cm）大きくし、排気口から10~30cmの位置に取り付けます。



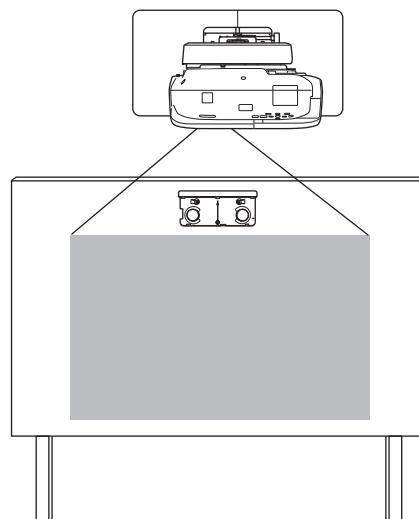
- 外部ノイズの影響を少なくするために、パソコン等と接続するケーブルは20m以下になるようにプロジェクターを配置することをお勧めします。
- 貼付型スクリーン、またはボード型スクリーンの使用をお勧めします。
- プロジェクターの傾きが、スクリーンに対してタテ・ヨコ±3°以内になるように設置してください。
- インタラクティブ機能 (Easy Interactive Function) を使用するときは、手の届く範囲に投写されるように設置してください。
- 太陽光が直接当たる場所には、プロジェクターやスクリーンを設置しないでください。太陽光がプロジェクターやスクリーンに直接当たると、インタラクティブ機能が正しく動作しないことがあります。

タッチユニットの設置場所 (EB-695WTのみ)

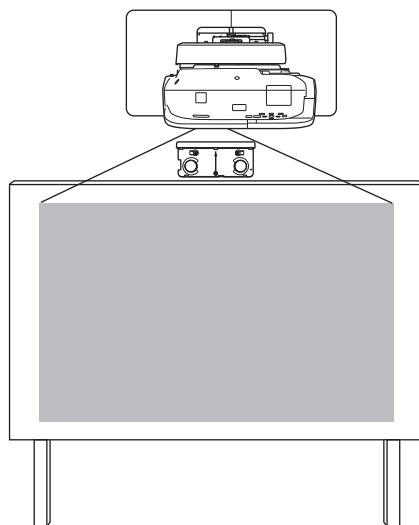
- タッチユニットを使用するときは、次のいずれかの方法でプロジェクターを設置してください。他の方法で設置すると、タッチユニットは使用できません。
 - 壁掛けまたは天吊りして、スクリーンの正面から投写する。
 - 机上に縦置き設置して、机の正面から投写する。(縦置き設置するときは、オプション品のテーブル投写金具 (ELPMB29) が必要です。)
- タッチユニットを設置する前に、設置面にそりやゆがみがなく平らで、スクリーン表面の凹凸が5mm以下であることを確認してください。



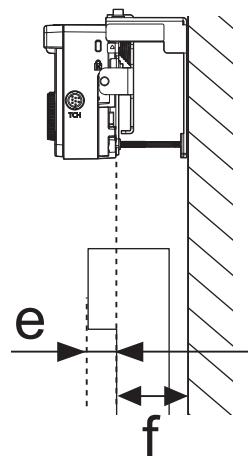
- タッチユニットをホワイトボード内に取り付けるときは、タッチユニットをマグネットまたはネジで固定します。



- タッチユニットをホワイトボードの外に取り付けるときは、同梱のタッチユニット取り付け金具が必要です。



- 壁からスクリーン表面までの長さ (f) が51mmを超える場合は、タッチユニットをホワイトボードの外に取り付けることはできません。
- スクリーンの周りに枠がある場合は、上枠の厚み (e) が3mm以内であることを確認してください。上枠の厚みが3mmを超えると、タッチユニットが正しく動作しません。



安全にお使いいただくために	
安全上のご注意	1
安全に関する表示	1
記号の意味	1
設置上のご注意	1
タッチユニットに関するご注意 (EB-695WTのみ)	3
本書について	4
設置場所について	5
プロジェクターの設置場所	5
タッチユニットの設置場所 (EB-695WTのみ)	6
設置工事説明書	
設置の流れ	10
1台のプロジェクターを設置する	10
2台以上のプロジェクターを並べて設置する	11
同梱品一覧	12
セッティングプレート	12
タッチユニット (EB-695WTのみ)	13
タッチユニット取り付け金具	13
仕様一覧	14
セッティングプレート	14
ウォールプレートカバー	14
ウォールプレート	15
上下スライドの調整範囲	15
水平スライドの調整範囲	16
前後スライドの調整範囲	16
アクセサリー取り付け部	17
タッチユニット (EB-695WTのみ)	17
タッチユニット (外形寸法/質量)	17
タッチユニット取り付け金具 (外形寸法/ 調整範囲/質量)	18
添付のラベルについて	20
レーザー照射口	20
投写距離表	21
取り付け寸法図	21
タッチユニットを取り付ける場合 (EB-695WTのみ)	22

75型未満の画面を投写する場合	25
16:10 投写画面	26
75型以上の画面を投写する場合	27
16:10 投写画面	28
セッティングプレートの取り付け	29
機器との接続	29
必要なケーブル	29
取り付け手順	31
各部を組み立てる	31
ウォールプレートを壁に取り付ける	33
投写距離を決めてセッティングプレート にケーブル類を通す	35
セッティングプレートをウォールプレー トに取り付ける	37
セッティングプレートにプロジェクター を固定する	40
プロジェクターの位置調整	43
赤外線ディフレクターの貼付 (EB-695WTのみ)	49
湾曲補正	51
ペン位置合わせ	52
カバー類の取り付け	56
タッチユニットの取り付け (EB-695WTのみ)	59
ホワイトボードの外に取り付ける場合 (タ ッチユニット取り付け金具を使う)	59
取り付け手順	59
角度調整	65
指タッチ位置合わせ	81
ホワイトボード内に取り付ける場合 (タッ チユニット取り付け金具を使わない)	84
取り付け手順	84
角度調整	88
付録	
本機を複数台並べて設置する (マルチ プロジェクション)	92
マルチプロジェクション設定	92
プロジェクターID の設定	92
マルチプロジェクションの映像調整	95
本機を2台並べてインタラクティブ機能を使 う	96

プロジェクトの同期設定を行う	97
マルチプロジェクトのインターラクティブ設定	98
一括設定機能	105
USBメモリーを使って設定する	106
設定値をUSBメモリーに保存する	106
保存した設定値を他のプロジェクトに反映する	108
コンピューターとプロジェクトをUSBケーブルで接続して設定する	110
設定値をコンピューターに保存する ...	110
保存した設定値を他のプロジェクトに反映する	112
設定がうまくいかないときは	113
セキュリティケーブルの取り付け	114
商標について	115

○ 設置の流れ

1台のプロジェクターを設置する

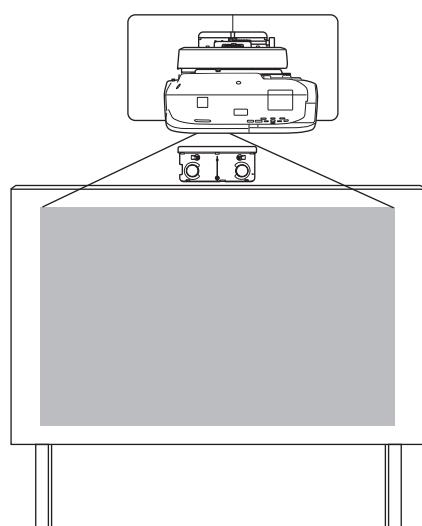
プロジェクターを壁掛け設置するときは、以下の手順で行います。

- 1 セッティングプレートとプロジェクターの取り付け (☞ p.29)
- 2 プロジェクターの位置調整 (☞ p.43)
- 3 インタラクティブペンの位置合わせ (☞ p.52)

タッチユニットを設置するときは、プロジェクターの設置がすべて終わってから以下の手順で行います。(EB-695WTのみ)

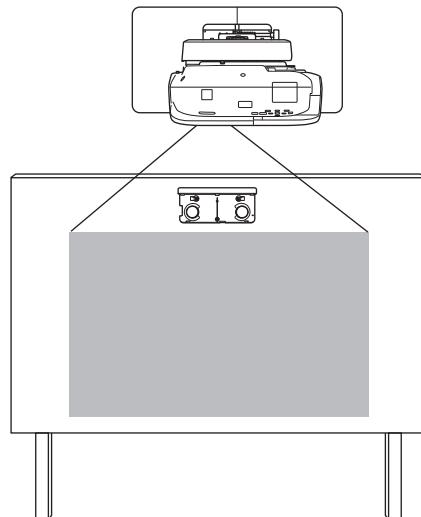
タッチユニットを取り付ける位置によって、手順が異なります。

ホワイトボードの外に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使う）



- 1 タッチユニットの取り付け (☞ p.59)
- 2 レーザー照射の角度調整 (☞ p.65)
- 3 指タッチ位置合わせ (☞ p.81)

ホワイトボード内に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使わない）



- 1** タッチユニットの取り付け (☞ p.84)
- 2** レーザー照射の角度調整 (☞ p.88)
- 3** 指タッチ位置合わせ (☞ p.81)

2台以上のプロジェクターを並べて設置する

マルチプロジェクション機能を使う（複数台のプロジェクターを並べて1つの大きな画面を投写する）ときは、以下の手順で行います。

- 1** セッティングプレートとプロジェクターの取り付け (☞ p.29)
- 2** プロジェクターの位置調整 (☞ p.43)
- 3** プロジェクターIDの設定 (☞ p.92)
- 4** マルチプロジェクションの映像調整 (☞ p.95)

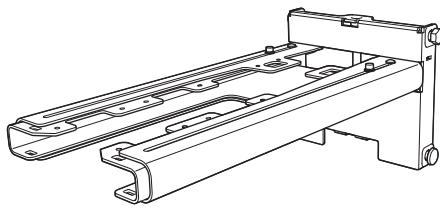
本機を2台並べてインタラクティブ機能を使うときは、続けて以下の設定を行います。設定は1台ずつ行います。

- 1** プロジェクター同期設定 (☞ p.97)
- 2** マルチプロジェクションのインタラクティブ設定 (☞ p.98)

同梱品一覧

セッティングプレート

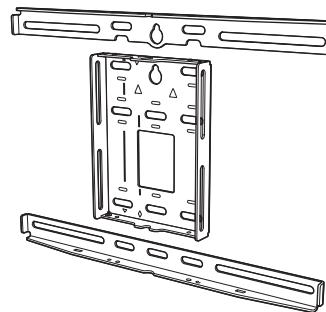
プロジェクターを壁掛け設置するには、オプションのセッティングプレート（ELPMB46）が必要です。以下の同梱品がすべて揃っていることをご確認ください。



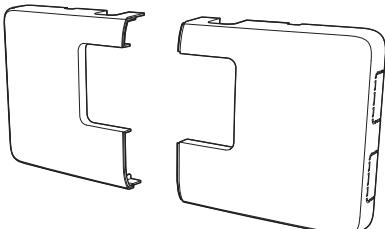
セッティングプレート



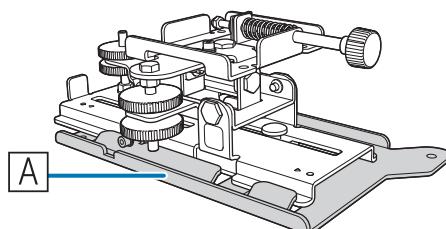
六角軸



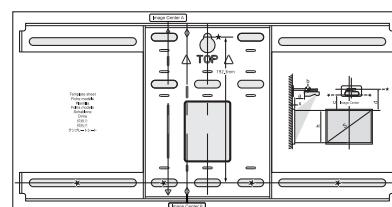
ウォールプレート



ウォールプレートカバー



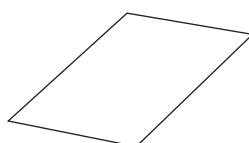
3 軸調整ユニット
※出荷時はスライドプレート
(A) が固定されています。



テンプレートシート
(ウォールプレート取り付け用)



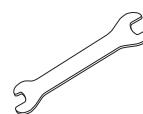
エンドキャップ



目隠しシール



六角レンチ (M4 用)



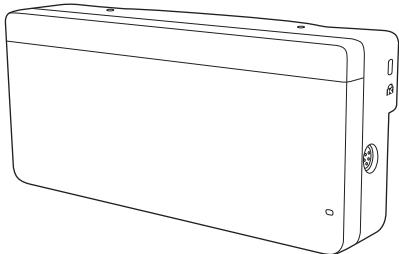
両口スパナ
呼び13 (M8、M6 用)、
呼び6 (六角軸用)

形状	名称	員数	用途
	M4 x 12mm 六角穴付きボルト ワッシャー/スプリングワッシャーあり	5本	ウォールプレート組立用
		4本	3軸調整ユニット/アーム取り付け用
		4本	スライドプレート/プロジェクターボディ取り付け用
	M6 x 20mm 六角段付きボルト ワッシャー/スプリングワッシャーあり	1本	セッティングプレート/ウォールプレート取り付け用
	M6 x 20mm 十字穴付き段付きネジ プラスチックワッシャーあり	3本	

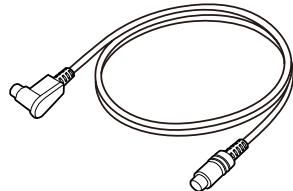
- 金具の取り付けは、必ず本製品に同梱のボルトまたはネジを使用してください。
- ウォールプレートを壁に取り付ける際は、市販のM10 x 60mmアンカーボルト（4本以上）とM10ネジ（1本）を使用してください。
- 工具は必要に応じてご用意ください。

タッチユニット (EB-695WTのみ)

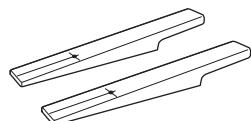
タッチユニットを取り付けるときは、以下の同梱品が必要です。すべて揃っていることをご確認ください。タッチユニット取り付け金具は、タッチユニットをホワイトボードの外に取り付けるときに使用します。



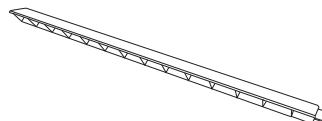
タッチユニット本体



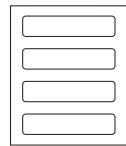
タッチユニット接続ケーブル (約2.8m)



マーカー2個

赤外線ディフレクター
(約28.5cm) 8本

ネジ止め用スペーサー 3個

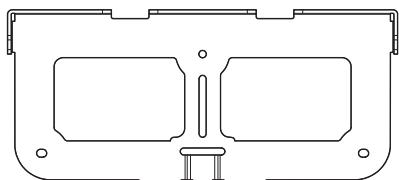


目印ラベル4枚

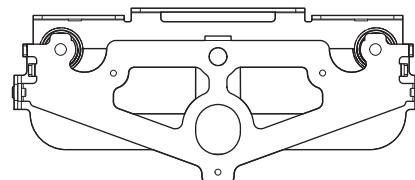
マーカー固定用テープ
(約6cm) 12枚

ホワイトボード内にタッチユニットを取り付ける場合にマグネットを使えないときは、市販のM4ネジ（3本）をご用意ください。

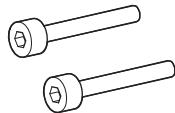
■ タッチユニット取り付け金具



取り付けプレート



固定プレート

六角穴付きボルト M4 x
12mm 2本六角穴付きボルト M4 x
25mm 2本六角穴付きボルト M4 x 55mm 1本
六角穴付きボルト M4 x 70mm 1本

取り付けプレート用に、市販の直径4mm木ネジ（3本）またはM4のアンカーボルト（3本）をご用意ください。

仕様一覧

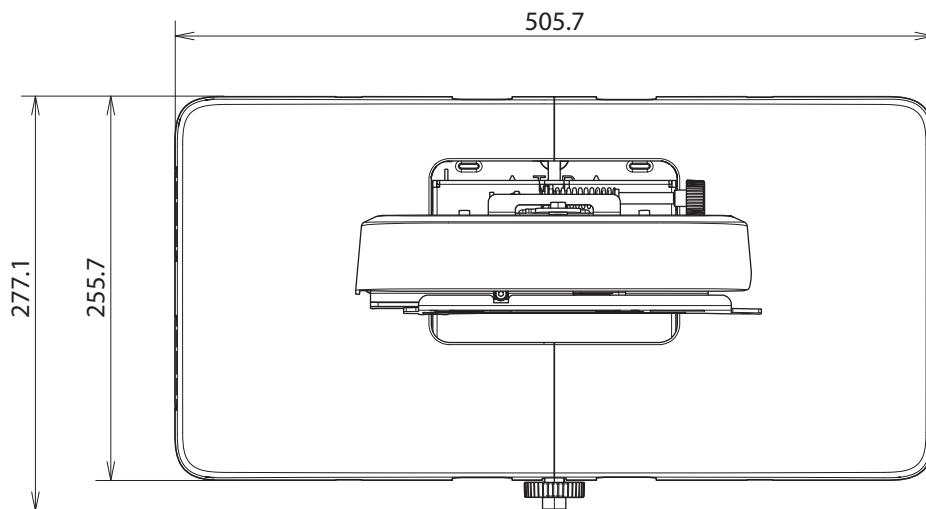
セッティングプレート

項目	仕様	備考	参照ページ
セッティングプレート質量	約7.2kg	セッティングプレート(2.9kg)、3軸調整ユニット(1.0kg)、スライドプレート(0.6kg)、ウォールプレート(2.0kg)、ウォールプレートカバー・エンドキャップ(0.7kg)	
最大荷重	9.5kg		
前後スライド調整範囲	13~350mm	アームスライド調整範囲: 0~263mm 3軸調整ユニットの取り付け位置による調整: 87mm	下図参照
上下スライド調整範囲	±38mm		下図参照
水平ロール調整範囲	±3°	調整ダイヤルによる微調整が可能	 p.43
水平回転調整範囲	±8°	調整ダイヤルによる微調整が可能	 p.43
上下チルト調整範囲	±3°	調整ダイヤルによる微調整が可能	 p.43
水平スライド調整範囲	±45mm		下図参照

ウォールプレートカバー

ウォールプレートカバー装着時の寸法は以下の通りです。

[単位: mm]

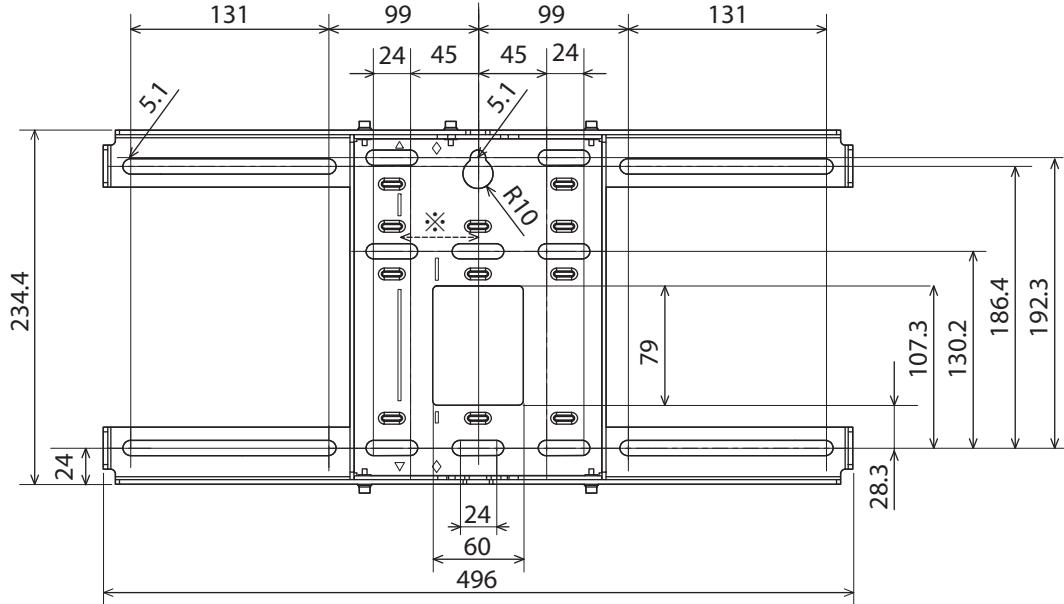


ウォールプレートカバーを取り付けるときは、ウォールプレートの中心から左に約263mm、右に約253mmのスペースが必要です。

■ ウォールプレート

下図はフレーム2本とプレートを1つにつなぎ合わせた状態です（出荷時は別々です）。

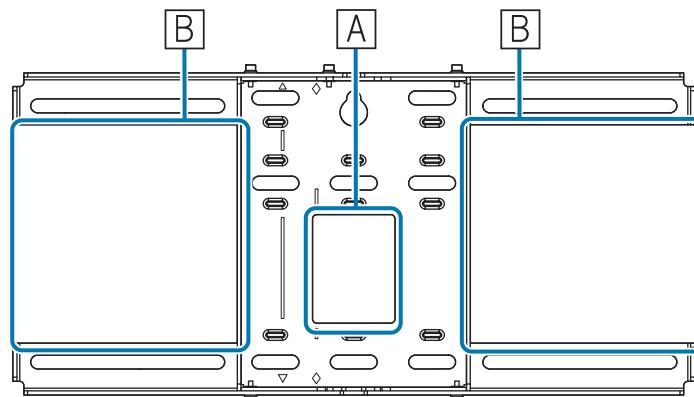
[単位：mm]



※ 投写する画面の中心位置とウォールプレートの中心位置のオフセット値は52mmです。

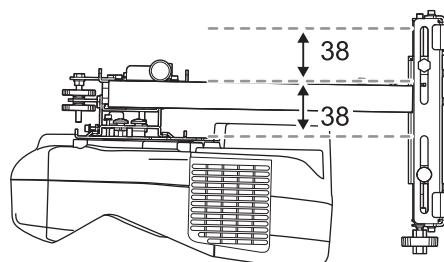
ケーブル配線穴

プロジェクターに接続するケーブルを壁の中に通すときは、下図の（A）と（B）の位置をケーブル配線穴として使用できます。



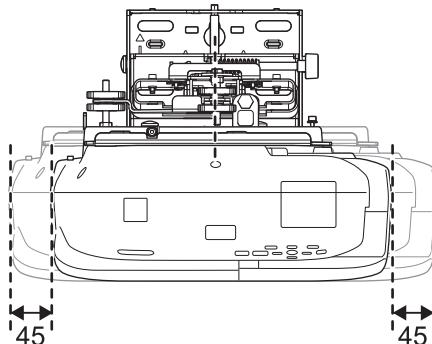
■ 上下スライドの調整範囲

[単位：mm]



■ 水平スライドの調整範囲

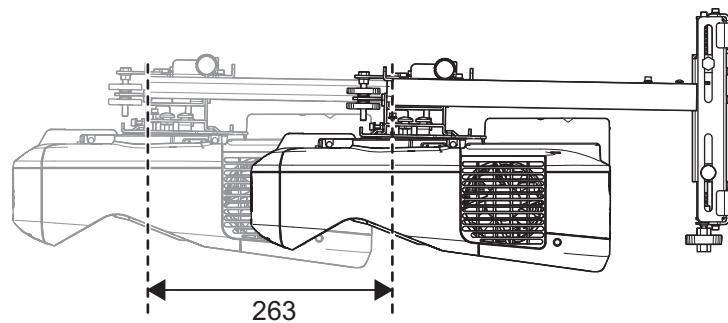
[単位 : mm]



■ 前後スライドの調整範囲

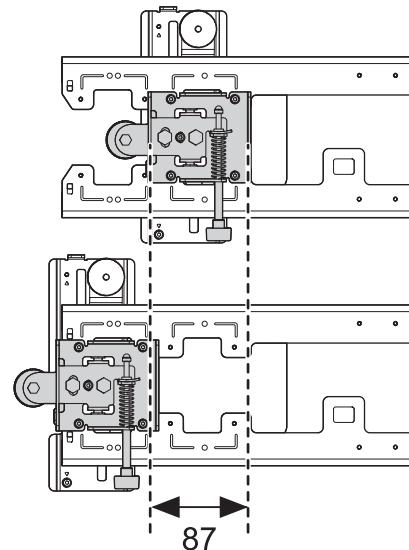
アームスライド調整範囲

[単位 : mm]



3軸調整ユニットの取り付け位置による調整範囲

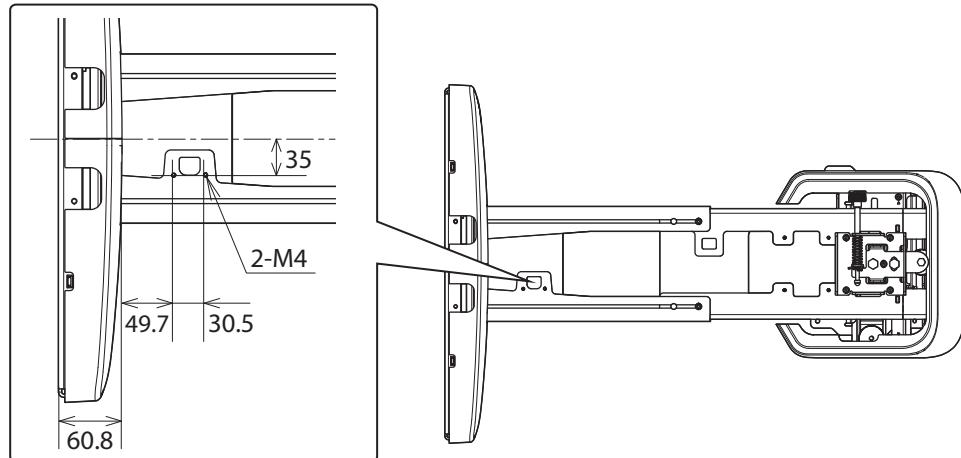
[単位 : mm]



■ アクセサリー取り付け部

外付けチューナーなどの周辺機器やアクセサリーを固定するためのネジ穴です。市販のM4ネジをお使いください。

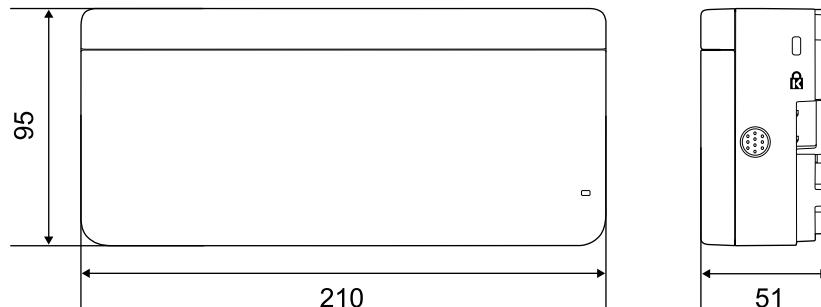
[単位：mm]



タッチユニット (EB-695WTのみ)

■ タッチユニット (外形寸法/質量)

[単位：mm]

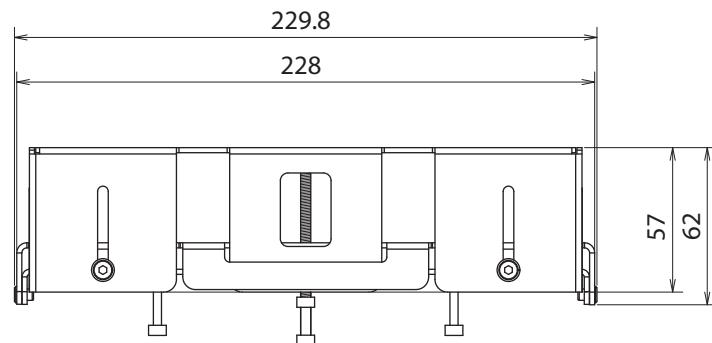


タッチユニットの質量は約450gです。

■ タッチユニット取り付け金具（外形寸法/調整範囲/質量）

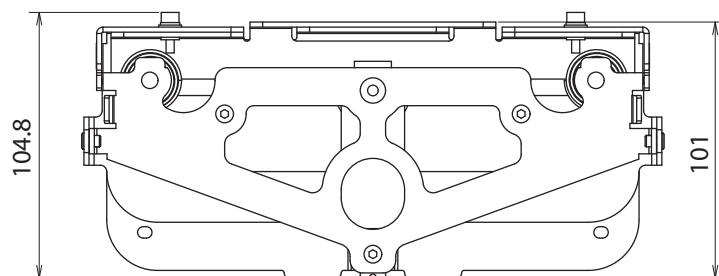
上面

[単位 : mm]



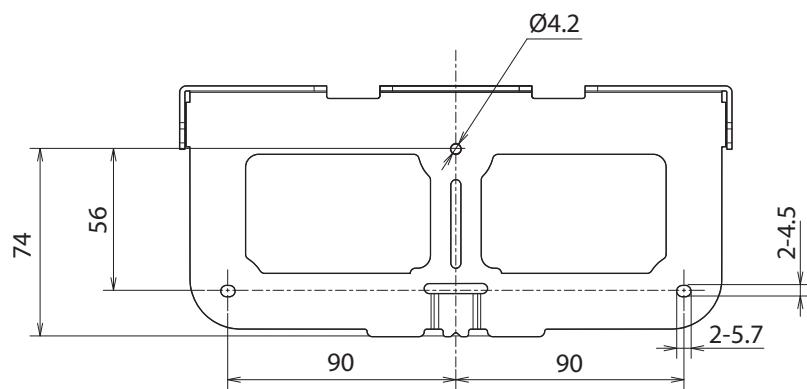
正面

[単位 : mm]



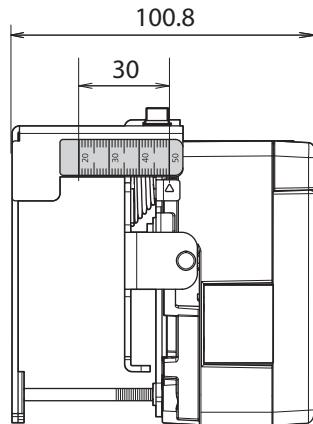
取り付けプレート（正面）

[単位 : mm]



タッチユニット取り付け時（側面）

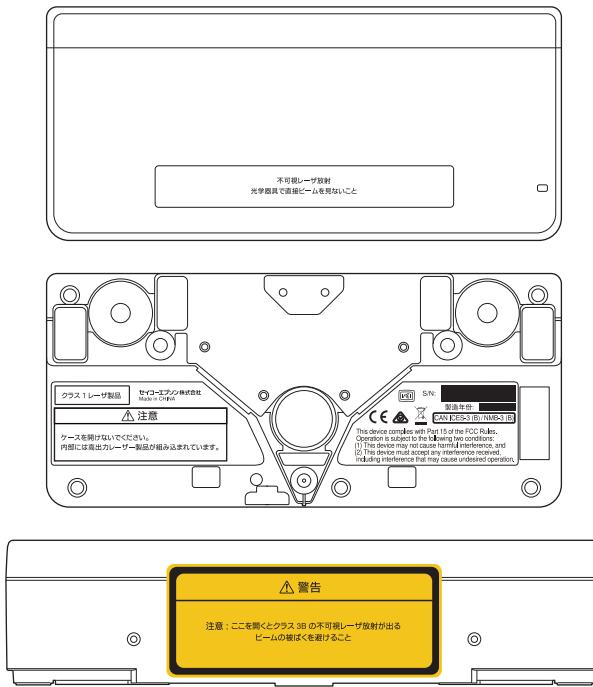
[単位：mm]



タッチユニット取り付け金具の質量は約750gです。

■ 添付のラベルについて

タッチユニットは、JIS C 6802:2011に適合したクラス1レーザー製品です。タッチユニットには、クラス1レーザー製品であることと、警告を示すラベルが貼られています。

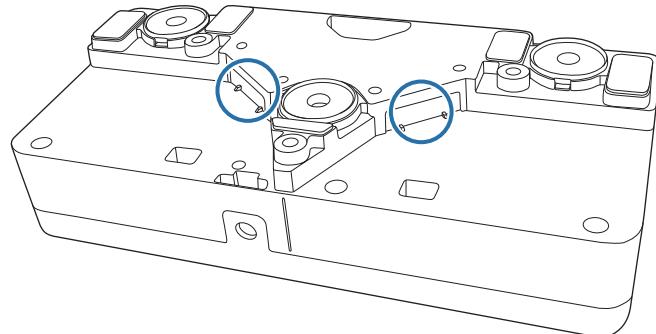


ラベルの内容は次のとおりです。

- クラス1レーザ製品
- 警告：ケースを開けないでください。内部には高出力レーザー製品が組み込まれています。
- 警告：
 - 注意：ここを開くとクラス3Bの不可視レーザー放射が出る
 - ビームの被ばくを避けること

■ レーザー照射口

レーザー光は、タッチユニットの背面にあるレーザー照射口から照射されます。



投写距離表

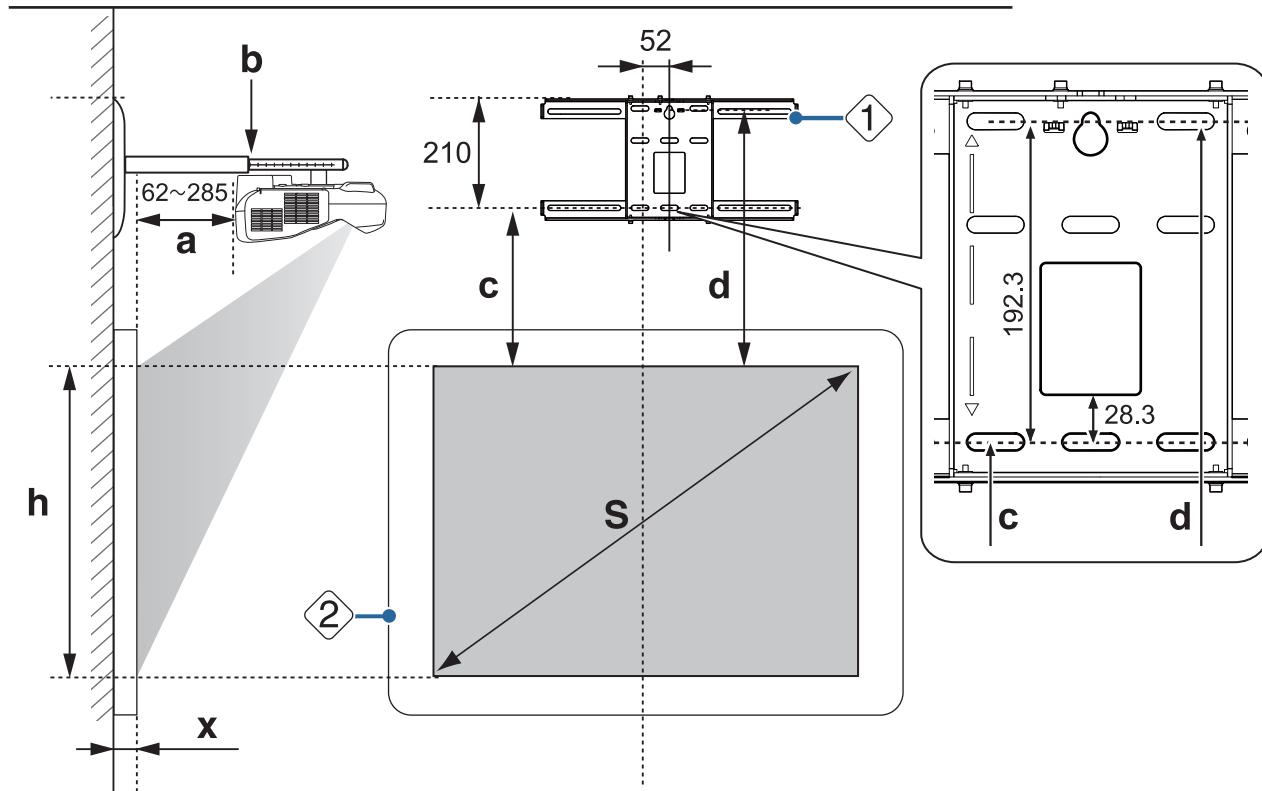
取り付け寸法図

下図を参考にして、映像が最適な大きさでスクリーンに映るように設置してください。値は目安です。
投写する距離 (a) の推奨範囲は、62~285mmです。

投写する画面の中心位置とウォールプレートの中心位置のオフセット値は52mmです。

ウォールプレート中央にあるケーブル配線穴の下端は、投写する画面上端からウォールプレート取り付けネジ穴（下）までの距離 (c) +28.3mmになります。

[単位：mm]



S : 投写する画面サイズ

① : ウォールプレート

a : 投写距離最短（ワイド：ズーム最大）
～最長（テレ：ズーム最小）

② : スクリーン

b : アームスライドの目盛りの数値

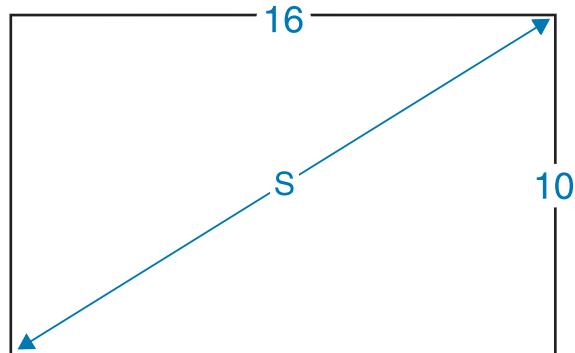
c : 投写する画面上端からウォールプレート取
り付けネジ穴（下）までの距離

d : 投写する画面上端からウォールプレート仮
固定ネジ穴までの距離

h : 投写する画面の高さ

x : スクリーン表面から壁までの距離
(100mm以内)

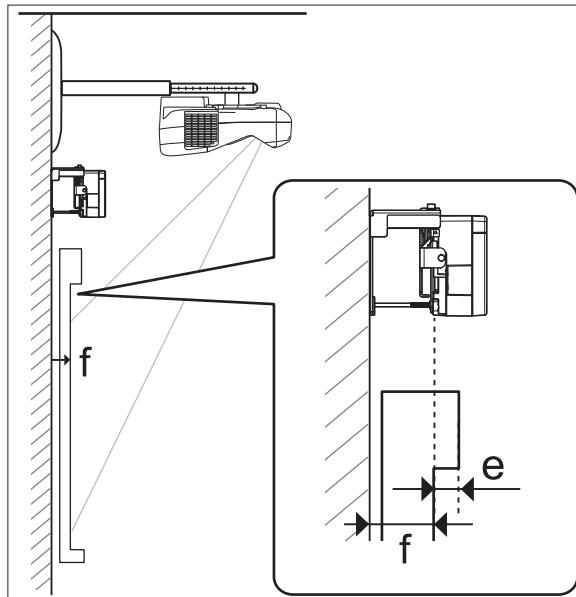
標準投写画面の縦横比



■ タッチユニットを取り付ける場合 (EB-695WTのみ)

同梱のタッチユニット取り付け金具を使用すると、タッチユニットをホワイトボードの外に取り付けることができます。

ホワイトボードの外にタッチユニットを取り付けるときは、タッチユニットを取り付ける面からホワイトボード表面までの長さ（下図（f））を計測します。



- (f) が20mm～50mmの場合は、取り付け金具を使ってタッチユニットを取り付けられます。
- (f) が20mm以下または51mm以上の場合、ホワイトボード内にタッチユニットを取り付けてください。
- 上枠の厚み (e) が3mm以上の場合は、ホワイトボード内にタッチユニットを取り付けてください。

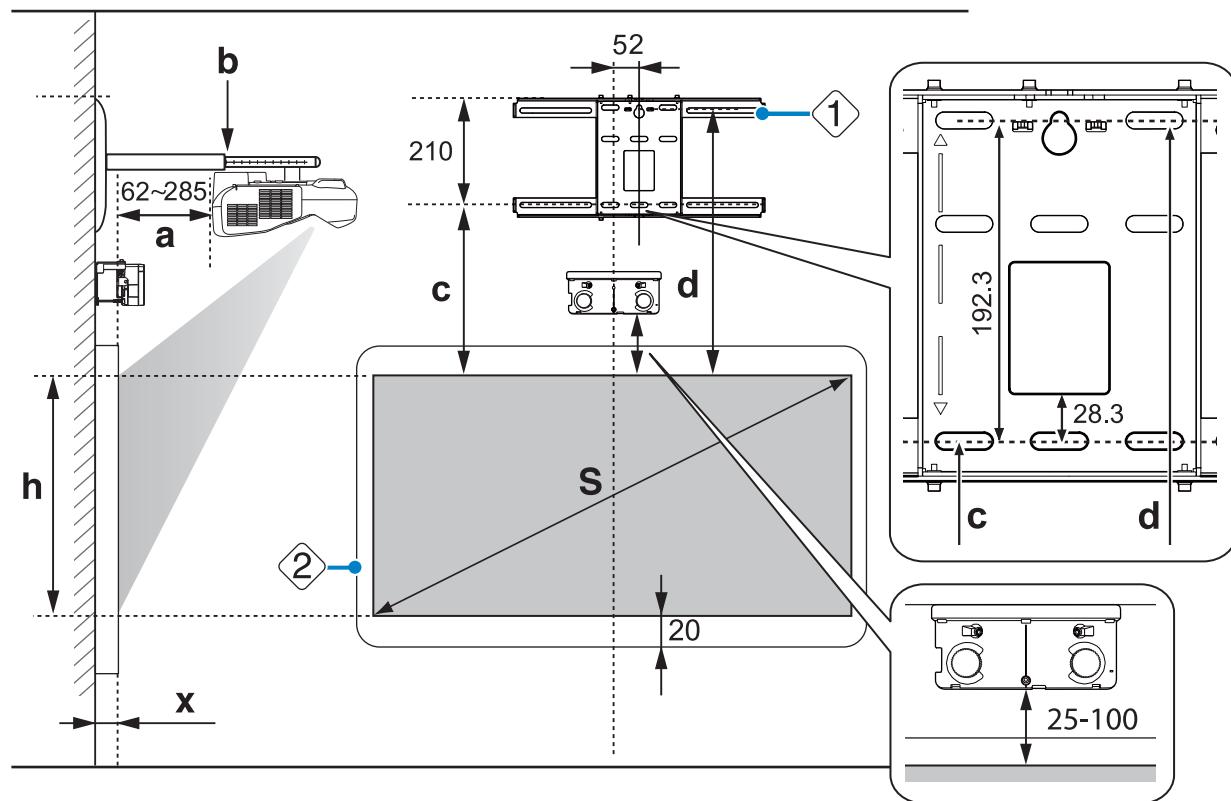
注意

投写する画面上端からタッチユニットの下端までを25mm～100mmにしてください。

投写画面とタッチユニットの間にケーブル類などの障害物や、ホワイトボードのトレイ、ホルダーなどの突起物があると、タッチユニットが正しく動作しません。

ホワイトボードの外に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使う）

[単位：mm]

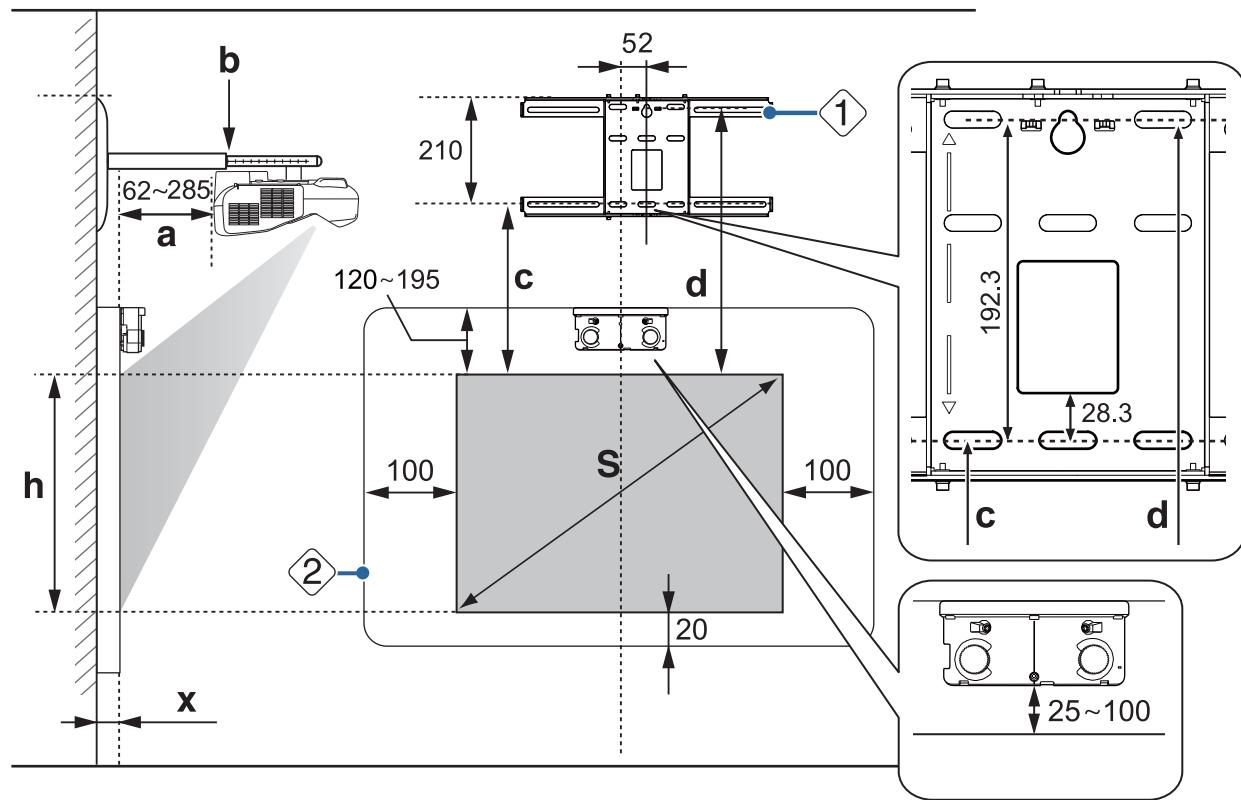


- スクリーンの下部にフレームやトレイなどの突起物があると、指タッチ操作が正しく反応しないことがあります。突起物の位置に合わせて同梱の赤外線ディフレクターを貼ってください (☞ p.49)。赤外線ディフレクターを貼るには、投写する画面の下部と突起物との間に約 20mm のスペースが必要です。
- 壁などに直接投写していて (X) の値が小さい場合は、プロジェクターとウォールプレートバーの距離が近くなるため、63インチ以下の映像が投写できないことがあります。

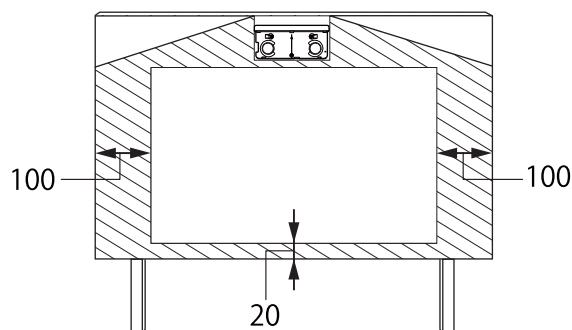
ホワイトボード内に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使わない）

投写する画面上端からスクリーンの上端までは120mm以上 の間隔が必要です。

[単位 : mm]



- スクリーンの下部にフレームやトレイなどの突起物があると、指タッチ操作が正しく反応しないことがあります。突起物の位置に合わせて同梱の赤外線ディフレクターを貼ってください (☞ p.49)。赤外線ディフレクターを貼るには、投写する画面の下部と突起物との間に約20mmのスペースが必要です。
- 下図の斜線部分にケーブル類などの障害物や、ホワイトボードのトレイ、ホルダー、厚みのあるフレームなどの突起物あると、指タッチ操作が正しく反応しないことがあります。

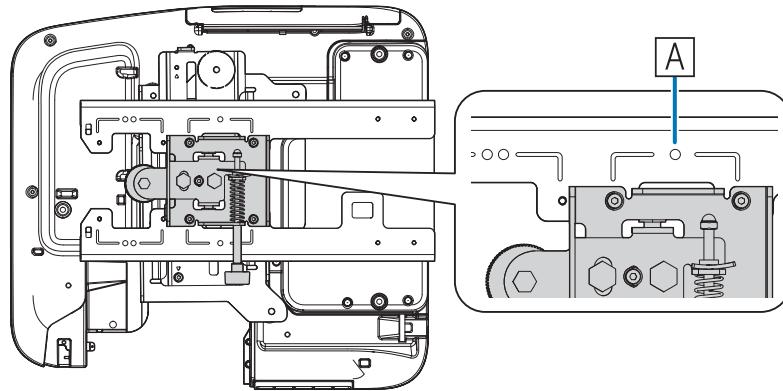


- 壁に直接投写するなど (X) の値が小さい場合は、プロジェクターとウォールプレートカバーの距離が近くなるため、63インチ以下の映像が投写できないことがあります。

75型未満の画面を投写する場合

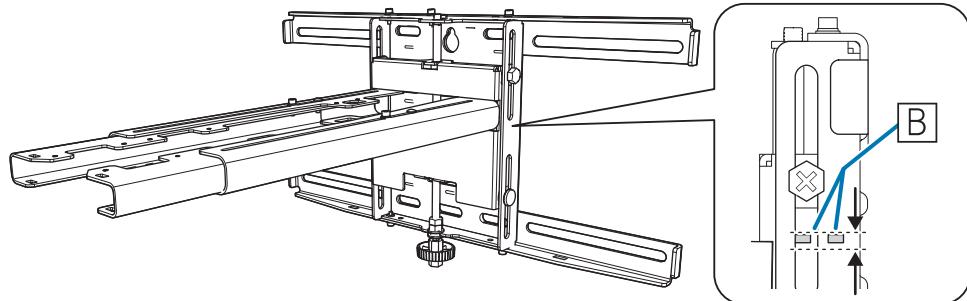
3軸調整ユニットを、○の箇所（A）に取り付けてください。

投写距離表は、3軸調整ユニットを○の箇所（A）に取り付けた場合の数値です。



投写する画面上端からウォールプレート取り付けネジ穴（下）までの距離（c）は、上下スライドを基準位置（B）に合わせた場合の数値です。

セッティングプレートの切り欠きとウォールプレートの刻印の位置を合わせます。



■ 16:10 投写画面

[単位 : cm]

S 投写する画面サイズ	a 投写距離 最短（ワイド）～最長 (テレ)	b アームスライドの目盛りの 数値	c ウォールプレート取り付け ネジ穴（下）までの距離	d 投写する画面 上端からウォールプレート 仮固定ネジ穴 までの距離	h 投写する画面 の高さ
61型	131.4x82.1	4.4～17.6	15.1～28.3	17.8	37.0
62型	133.5x83.5	5.0～18.4	15.7～29.1	18.1	37.3
63型	135.7x84.8	5.6～19.3	16.3～30.0	18.4	37.6
64型	137.9x86.2	6.3～20.1	17.0～30.8	18.6	37.8
65型	140.0x87.5	6.9～20.9	17.6～31.6	18.9	38.1
66型	142.2x88.8	7.5～21.8	18.2～32.5	19.2	38.4
67型	144.3x90.2	8.1～22.6	18.8～33.3	19.5	38.7
68型	146.5x91.5	8.7～23.4	19.4～34.1	19.8	39.0
69型	148.6x92.9	9.3～24.3	20.0～35.0	20.0	39.2
70型	150.8x94.2	10.0～25.1	20.7～35.8	20.3	39.5
71型	152.9x95.6	10.6～25.9	21.3～36.6	20.6	39.8
72型	155.1x96.9	11.2～26.8	21.9～37.5	20.9	40.1
73型	157.2x98.3	11.8～27.6	22.5～38.3	21.2	40.4
74型	159.4x99.6	12.4～28.4	23.1～39.1	21.4	40.6

61型より小さい画面は正しく投写されません。

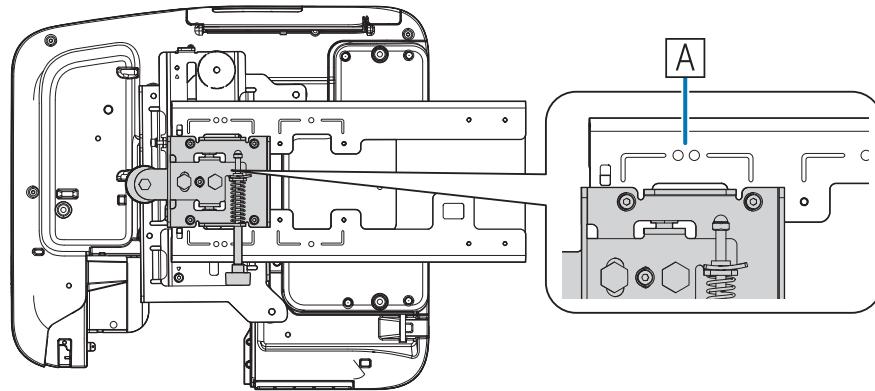


- 値は目安です。設置する場所の条件により、値に差異が生じることがあります。
- テレで投写すると、画質が劣化することがあります。

75型以上の画面を投写する場合

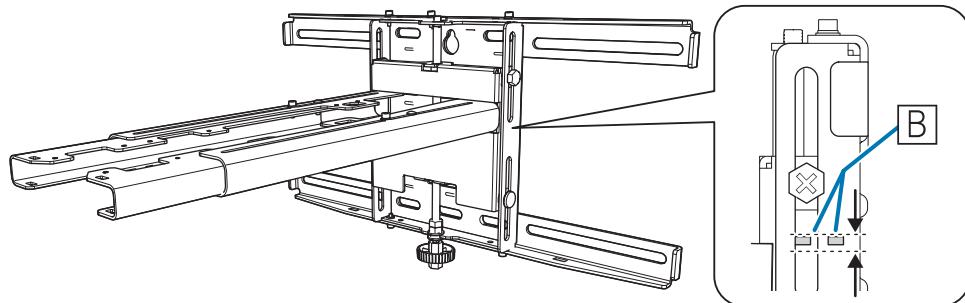
3軸調整ユニットを、○○の箇所（A）に取り付けてください。

投写距離表は、3軸調整ユニットを○○の箇所（A）に取り付けた場合の数値です。



投写する画面上端からウォールプレート取り付けネジ穴（下）までの距離（c）は、上下スライドを基準位置（B）に合わせた場合の数値です。

セッティングプレートの切り欠きとウォールプレートの刻印の位置を合わせます。



■ 16:10 投写画面

[単位 : cm]

S 投写する画面サイズ	a 投写距離 最短（ワイド）～最長 (テレ)	b アームスライドの目盛りの 数値	c ウォールプレート取り付け ネジ穴（下） までの距離	d 投写する画面 上端からウォールプレート 仮固定ネジ穴 までの距離	h 投写する 画面の高 さ
75型	161.5x101.0	13.1~29.3	15.1~31.3	21.7	40.9
76型	163.7x102.3	13.7~30.1	15.7~32.1	22.0	41.2
77型	165.9x103.7	14.3~30.9	16.3~32.9	22.3	41.5
78型	168.0x105.0	14.9~31.8	16.9~33.8	22.6	41.8
79型	170.2x106.3	15.5~32.6	17.5~34.6	22.8	42.0
80型	172.3x107.7	16.1~33.5	18.1~35.5	23.1	42.3
81型	174.5x109.0	16.8~34.3	18.8~36.3	23.4	42.6
82型	176.6x110.4	17.4~35.1	19.4~37.1	23.7	42.9
83型	178.8x111.7	18.0~36.0	20.0~38.0	24.0	43.2
84型	180.9x113.1	18.6~36.8	20.6~38.8	24.2	43.4
85型	183.1x114.4	19.2~37.6	21.2~39.6	24.5	43.7
86型	185.2x115.8	19.9~38.5	21.9~40.5	24.8	44.0
87型	187.4x117.1	20.5~39.3	22.5~41.3	25.1	44.3
88型	189.5x118.5	21.1~39.9	23.1~41.9	25.4	44.6
89型	191.7x119.8	21.7~39.9	23.7~41.9	25.6	44.8
90型	193.9x121.2	22.3~39.9	24.3~41.9	25.9	45.1
91型	196.0x122.5	22.9~39.9	24.9~41.9	26.2	45.4
92型	198.2x123.9	23.6~39.9	25.6~41.9	26.5	45.7
93型	200.3x125.2	24.2~39.9	26.2~41.9	26.8	46.0
94型	202.5x126.5	24.8~39.9	26.8~41.9	27.1	46.3
95型	204.6x127.9	25.4~39.9	27.4~41.9	27.3	46.5
96型	206.8x129.2	26.0~39.9	28.0~41.9	27.6	46.8
97型	208.9x130.6	26.7~39.9	28.7~41.9	27.9	47.1
98型	211.1x131.9	27.3~39.9	29.3~41.9	28.2	47.4
99型	213.2x133.3	27.9~39.9	29.9~41.9	28.5	47.7
					133.2

99型より大きい画面は正しく投写されません。



- 値は目安です。設置する場所の条件により、値に差異が生じることがあります。
- テレで投写すると、画質が劣化することがあります。

○ セッティングプレートの取り付け

機器との接続

■ 必要なケーブル

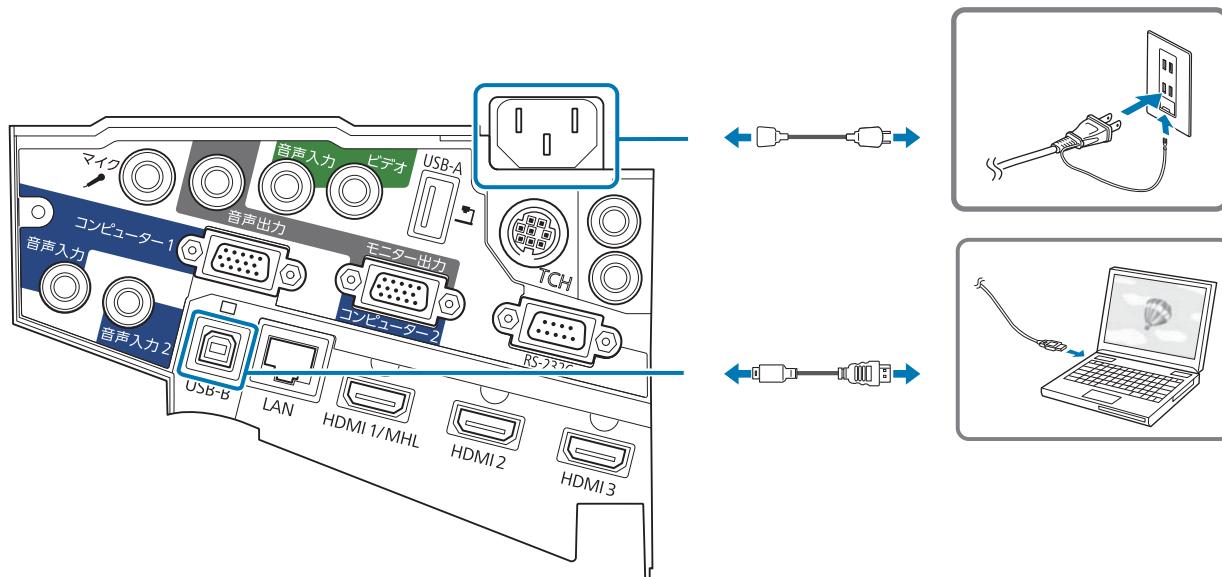
使用する機器に応じて必要なケーブルを用意します。

- ・同梱の電源コード（必須）
- ・同梱のUSBケーブル
- ・同梱のタッチユニット接続ケーブル（EB-695WTのみ）
- ・オプションのコンピューターケーブルなど、その他のケーブル（接続する機器に応じて用意する）

詳細は、プロジェクターの『取扱説明書』（Document CD-ROM内）をご覧ください。

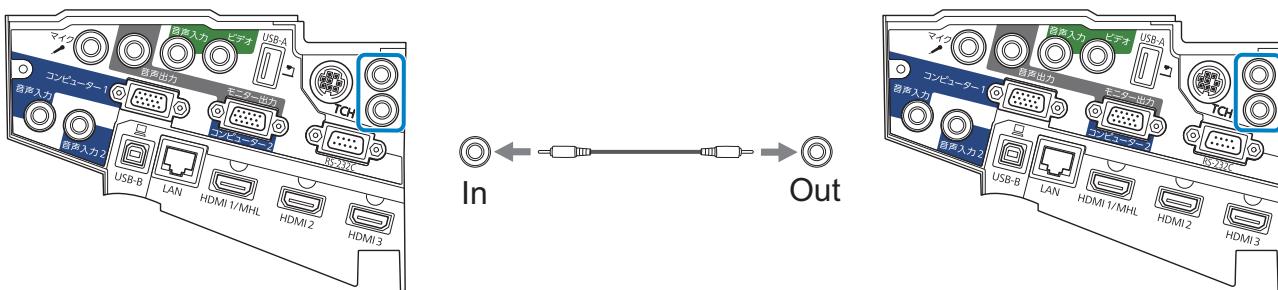
Easy Interactive Functionを使うときに必要なケーブル

Easy Interactive Functionを使ってマウス操作をするときは、電源コードとUSBケーブルが必要です。コンピューターケーブルを使って投写する場合も、マウス操作をするときはUSBケーブルが必要です。



本機を2台並べてEasy Interactive Functionを使うときに必要なケーブル

本機を2台並べてインタラクティブ機能を使用するときは、オプションのワイヤードリモコンケーブル（ELPKC28）が必要です。

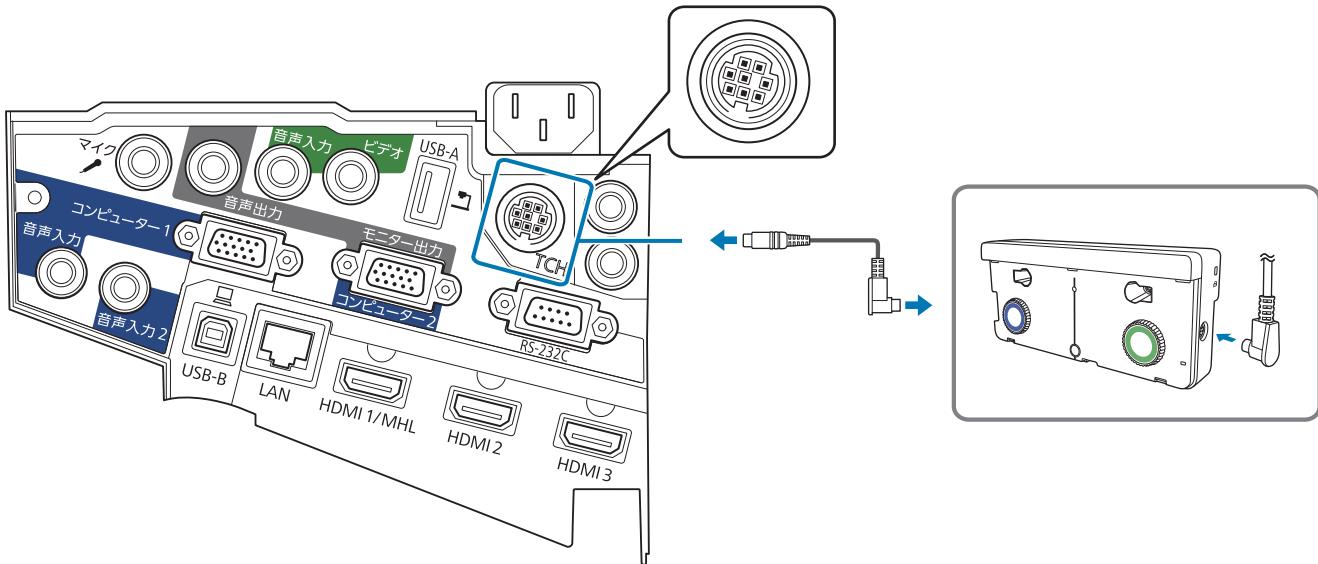


1台のコンピュータを2台のプロジェクターに接続してインタラクティブ機能を使用するときは、コンピューターから2台のプロジェクターそれぞれにUSBケーブルを接続してください。コンピューターにはUSB-A端子が2つ必要です。

タッチユニットを取り付けるときに必要なケーブル (EB-695WTのみ)

タッチユニットを取り付けてプロジェクターと接続するときは、同梱のタッチユニット接続ケーブルが必要です。市販のケーブルで接続すると、正しく動作しません。

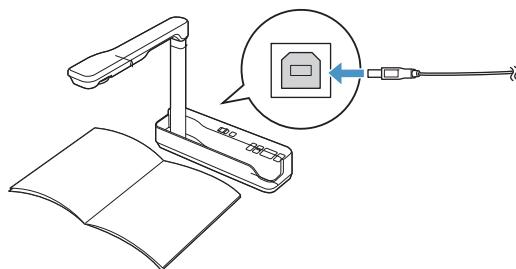
プロジェクターに接続する端子とタッチユニットに接続する端子はそれぞれ形状が異なります。下図を参考に、正しい端子を接続してください。



接続する機器に応じて用意するケーブル (一例)

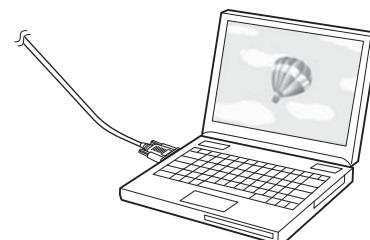
書画カメラ

専用USB ケーブル (書画カメラ同梱品)



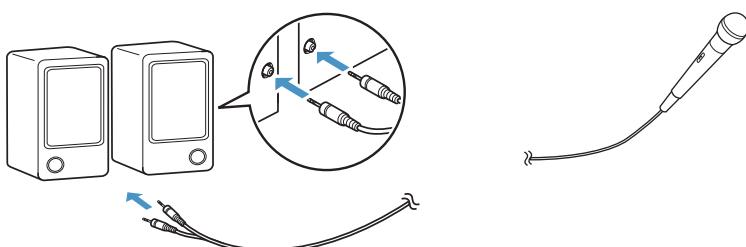
コンピューター

コンピューターケーブル (オプション品)



外部スピーカー

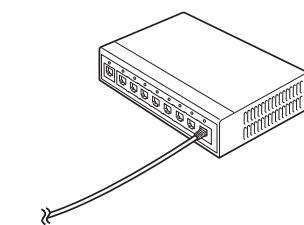
オーディオケーブル (市販品)



マイクロфон (市販品)

LAN機器

LAN ケーブル (市販品)



取り付け手順

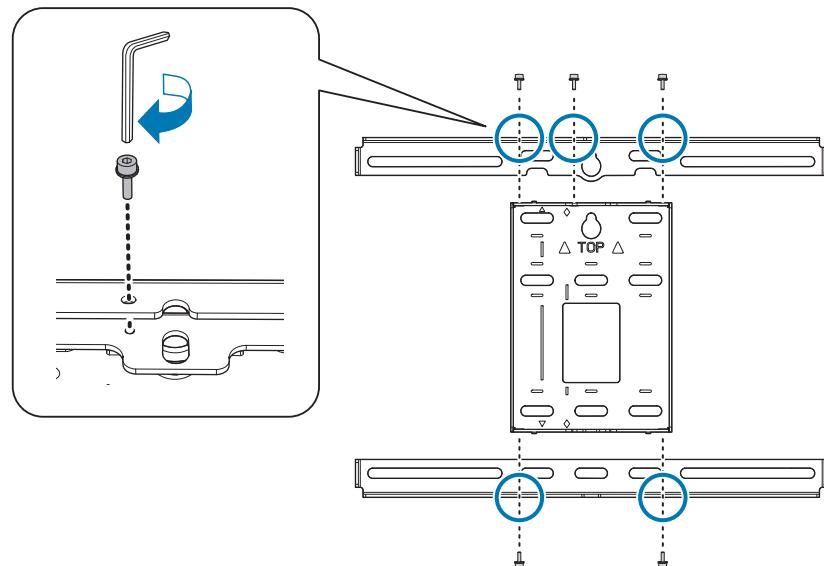
セッティングプレートは、必ず以下の手順に沿って設置してください。手順どおりに設置しないと製品が落下し、大変危険です。

⚠ 警告

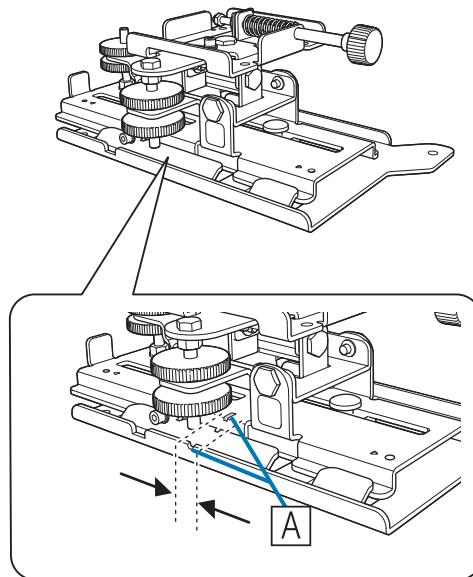
壁掛け設置やセッティングプレートの調整を行うときは、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。プロジェクターのスライドプレート固定部にネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などが付着するとケースが割れ、プロジェクターが落下して事故やけがの原因となります。

各部を組み立てる

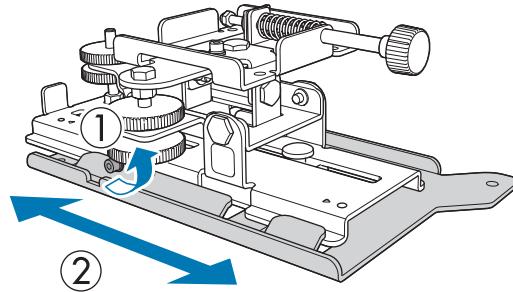
- 1 プレートとフレーム（2枚）をつなぎ合わせ、同梱のM4 x 12mmボルト（5本）で固定する



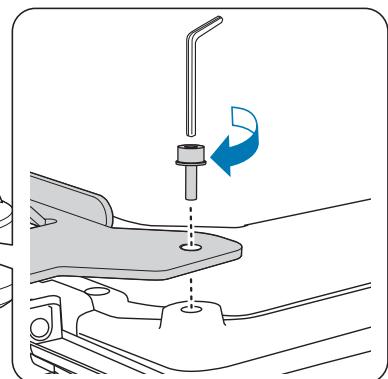
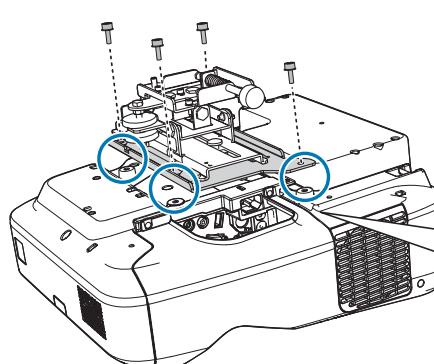
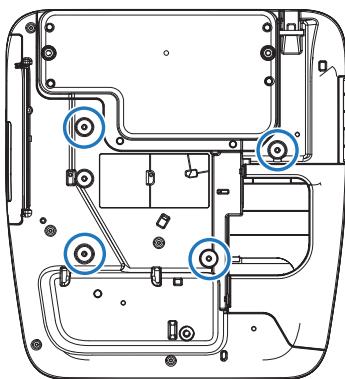
2 3軸調整ユニットとスライドプレートの基準位置（A）が合っているか確認する。



基準位置（A）が合っていないときは、M4ボルトを緩めてからスライドプレートの位置を調整します。調整が終わったら、ボルトを締め直します。



3 同梱のM4 x 12mmボルト（4本）で、3軸調整ユニットとスライドプレートをプロジェクターの底面に固定する



ボルトを取り付ける位置

■ ウォールプレートを壁に取り付ける

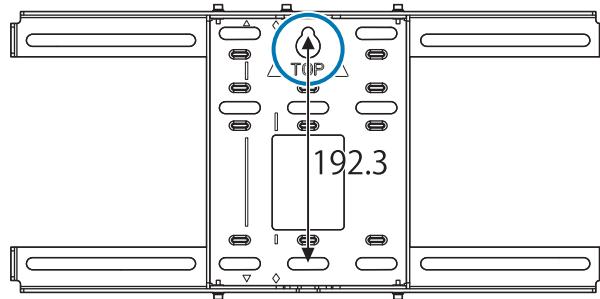
1 投写する画面サイズと、投写する位置を決める

投写距離表で以下の数値を確認してください。

- ・投写する画面サイズ (S)
- ・投写する画面上端からウォールプレート取り付けネジ穴（下）までの距離 (c)
- ・投写する画面上端からウォールプレート仮止め用ネジ穴までの距離 (d)

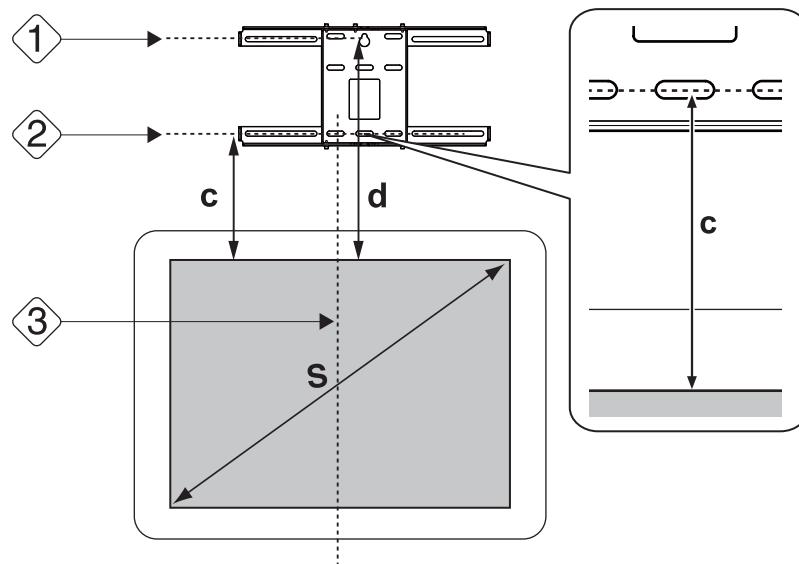
☞ 「投写距離表」 p.21

下図のネジ穴は、ウォールプレートの仮止め用ネジ穴として使用します。ウォールプレート取り付けネジ穴（下）から仮止め用ネジ穴までの距離は192.3mmです。



以下の位置に印をつけることをお勧めします。ウォールプレートの取り付け位置を決める基準になります。

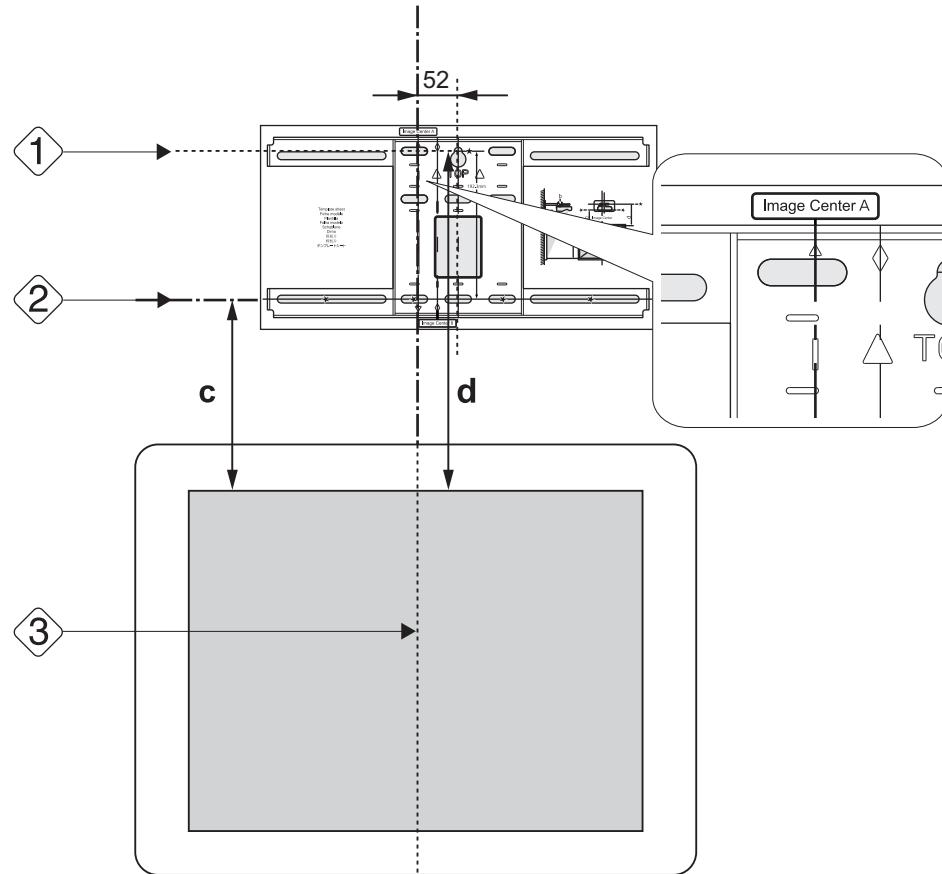
- ・仮止め用ネジ穴の位置 (①)
- ・ウォールプレート取り付けネジ穴（下）の位置 (②)
- ・投写する画面の中心線 (③)



2 テンプレートシートを壁に貼る

- 手順1で確認した中心線（③）とテンプレートシートのImage Center Aのラインを合わせます。壁の中のハリの状況を確認し、必要に応じて左右位置をずらします。
(水平方向の許容シフト位置は投写する画面の中心線から左右最大45mmまで)
- 手順1で確認した高さ（①）と（②）に、テンプレートシートの★のラインをそれぞれ合わせます。

[単位：mm]

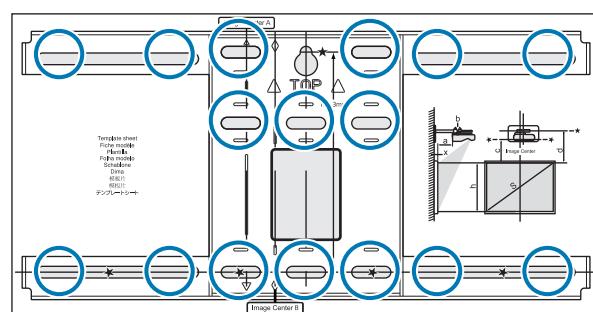


3 ウォールプレートの仮止め用ネジ穴の位置に市販のM10ネジを打つ

壁とネジ頭部の間を6mm以上空けてください。

4 ウォールプレートの取り付け穴をあける位置を決める

下図のネジ穴の中から、バランスがとれる4箇所以上を固定してください。

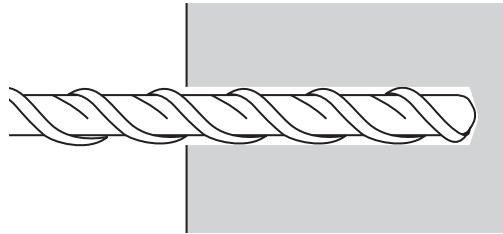


5 ドリルで壁に穴をあける

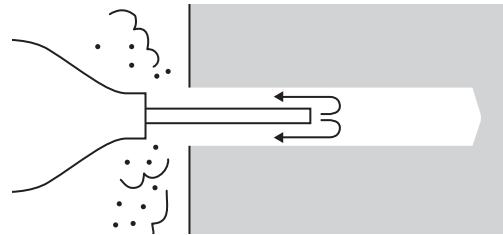
ドリル径：10.5mm

下穴深さ：45mm

埋込深さ：40mm

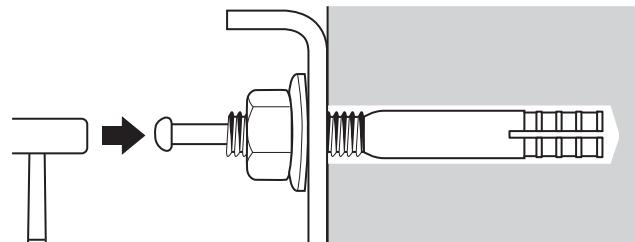


6 テンプレートシートを取り外し、ダストポンプなどで穴の中のコンクリート粉を取り除く

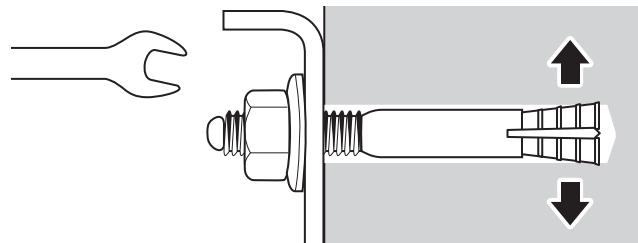


7 壁にウォールプレートを配置して、市販のM10×60mmアンカーボルトを穴に入れれる

ナットを付けて、芯棒がアンカーボルト本体の頂部に接するまでハンマーなどでたたきます。



8 市販のスパナでナットを締めて、ウォールプレートを壁に固定する



■ 投写距離を決めてセッティングプレートにケーブル類を通す

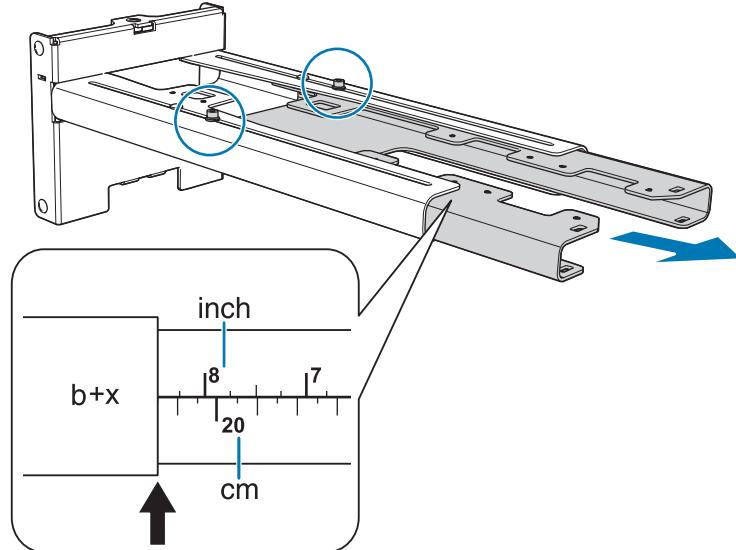
1 投写距離表で以下の数値を確認する

- ・アームスライドの目盛りの数値 (b)
- ・スクリーン表面から壁までの距離 (x)

☞ 「投写距離表」 p.21

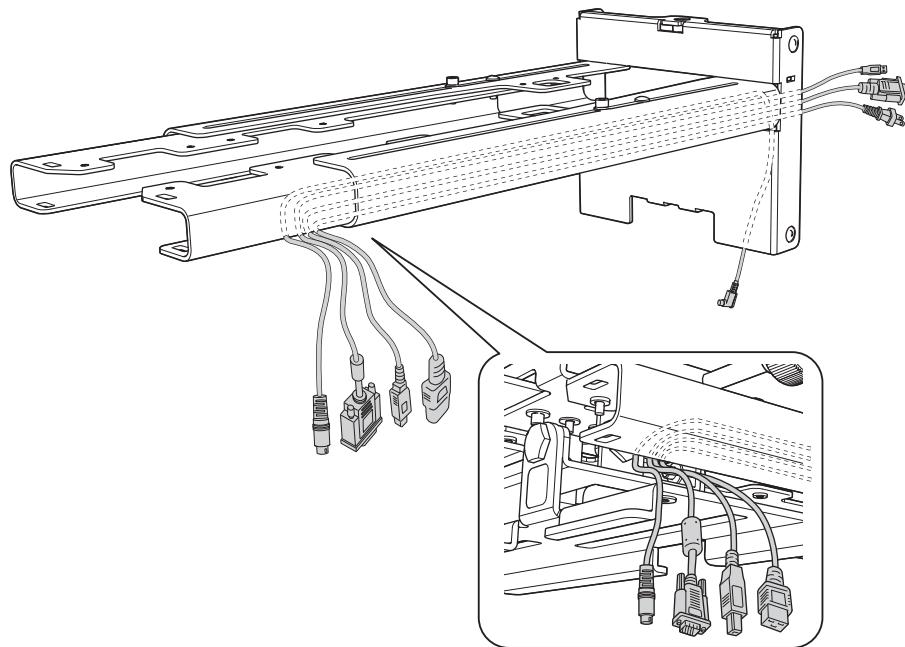
2 M4 x 12mmボルト (2本) を緩めてから、セッティングプレートのアームスライドを引き出す

手順1で確認した (b) と (x) の合計距離をスライダーの目盛りに合わせます。



3 必要なケーブル類をセッティングプレート内に通す

下図を参考にして、プロジェクターに接続するケーブルの端子がプロジェクターのインターフェース側に出るように通してください。



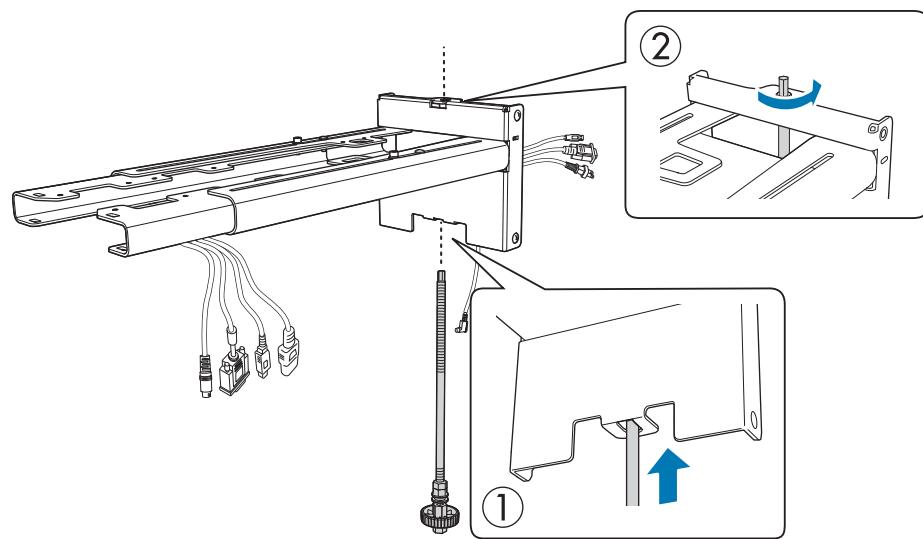
余ったケーブルをセッティングプレートの上に乗せないでください。落下事故の原因となります。



タッチユニット接続ケーブルもセッティングプレート内に通します (EB-695WTのみ)。
タッチユニットに接続する端子が、セッティングプレートの下方へ出るように通してください。

■ セッティングプレートをウォールプレートに取り付ける

1 六角軸をセッティングプレートに差し込む

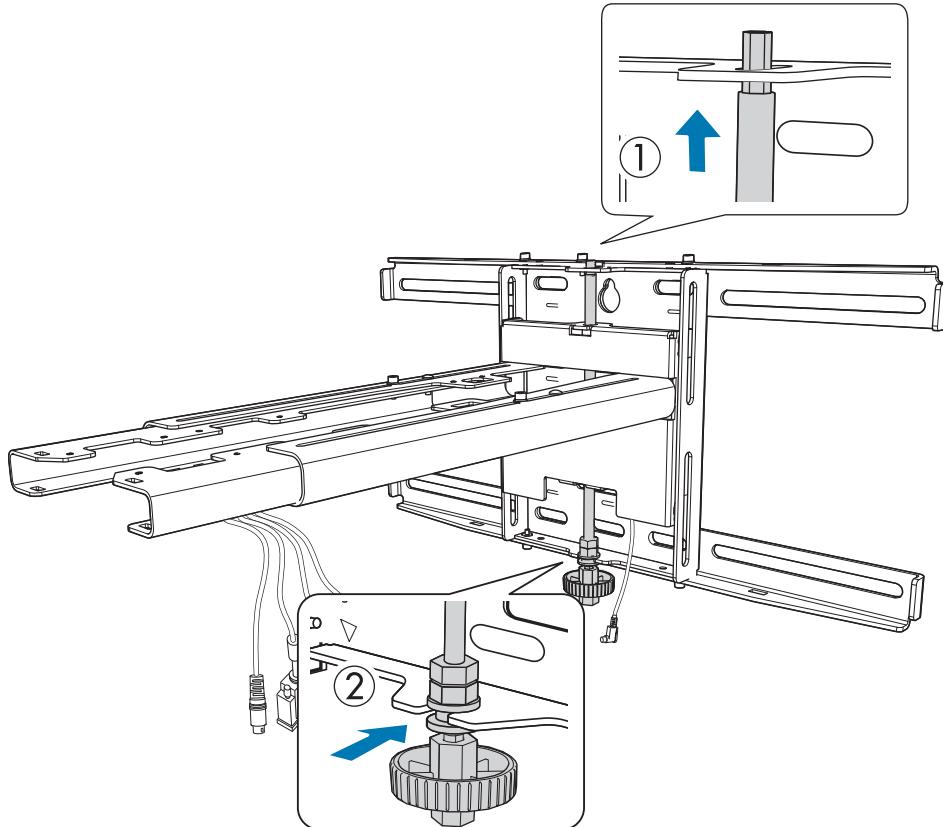


2 セッティングプレートをウォールプレートにセットする

六角軸の上部をウォールプレートに差し込んでから、下部を差し込みます。

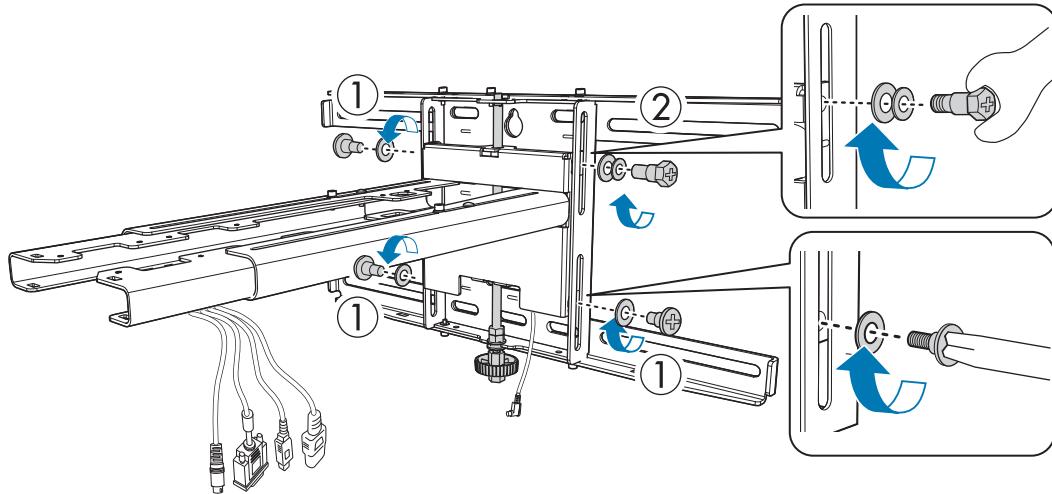
⚠ 注意

- タッチユニット接続ケーブルは壁の中に配線しないでください (EB-695WTのみ)。壁の中に配線すると、タッチユニットと接続できなくなります。
- セッティングプレートとウォールプレートの間にケーブル類を挟まないように注意してください。



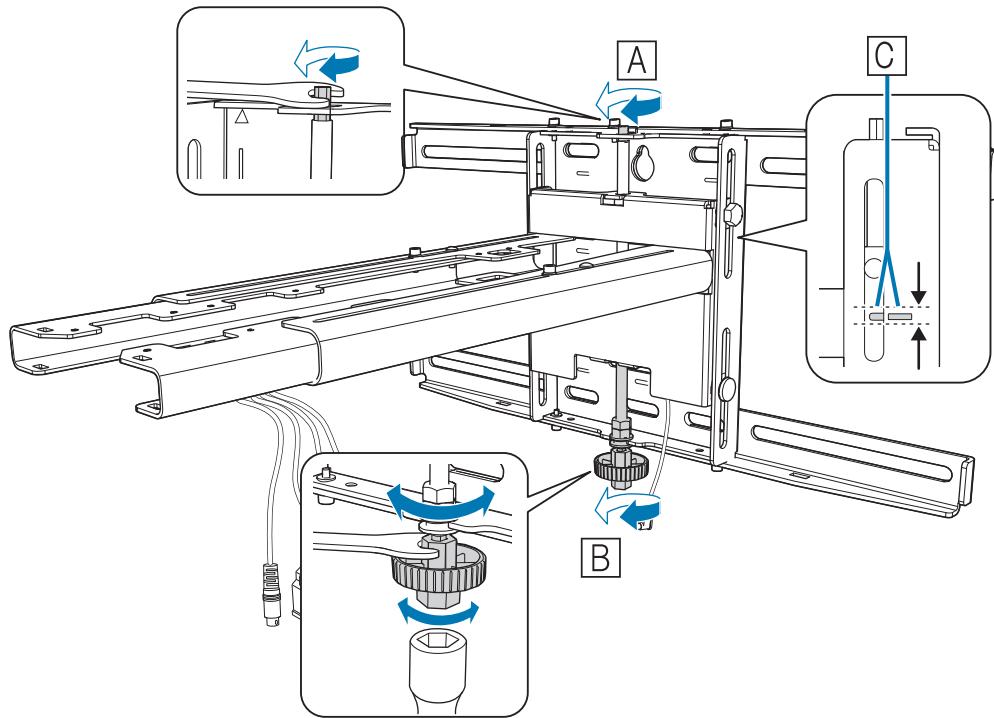
3 セッティングプレートとウォールプレートを固定する

同梱のM6ネジ（3本）を市販のNo.3のプラスドライバーで固定してから、同梱のM6ボルト（1本）をスパナで軽く締めます。



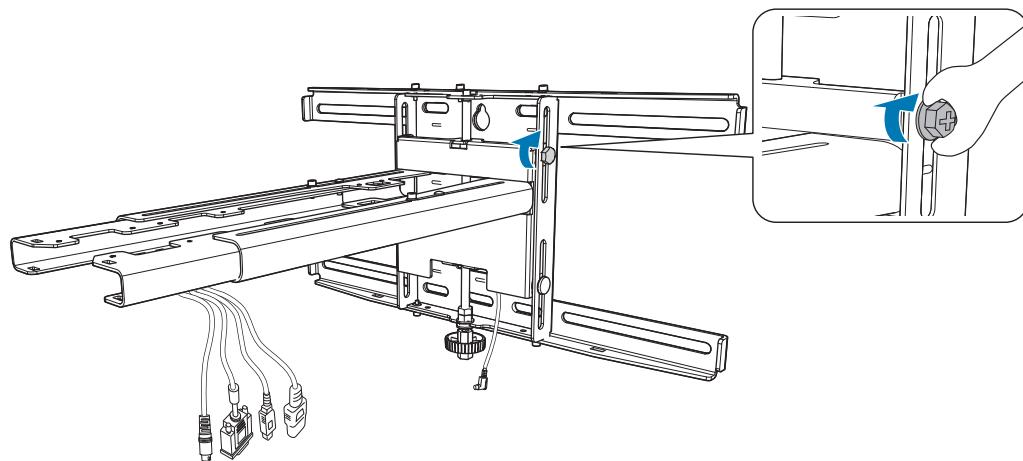
4 上下スライドを両口スパナで調整して、基準位置（C）に合わせる

- 上部の六角軸（A）を締めるとセッティングプレートが上がり、緩めると下がります。
- 下部のM8ボルト（B）を締めるとセッティングプレートが下がり、緩めると上がります。
(17mmのソケットレンチも使用できます。)



5

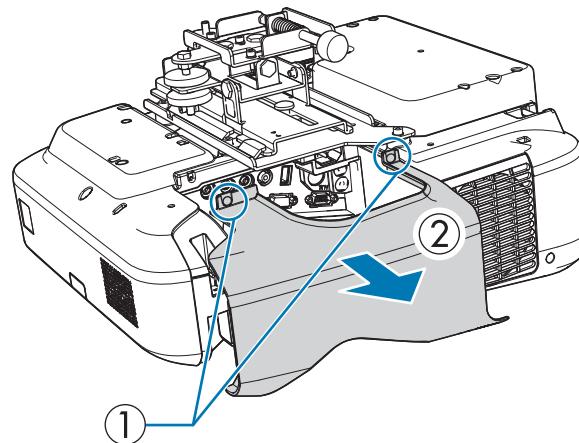
M6ボルト（1本）を締めて、セッティングプレートの位置を固定する



■ セッティングプレートにプロジェクターを固定する

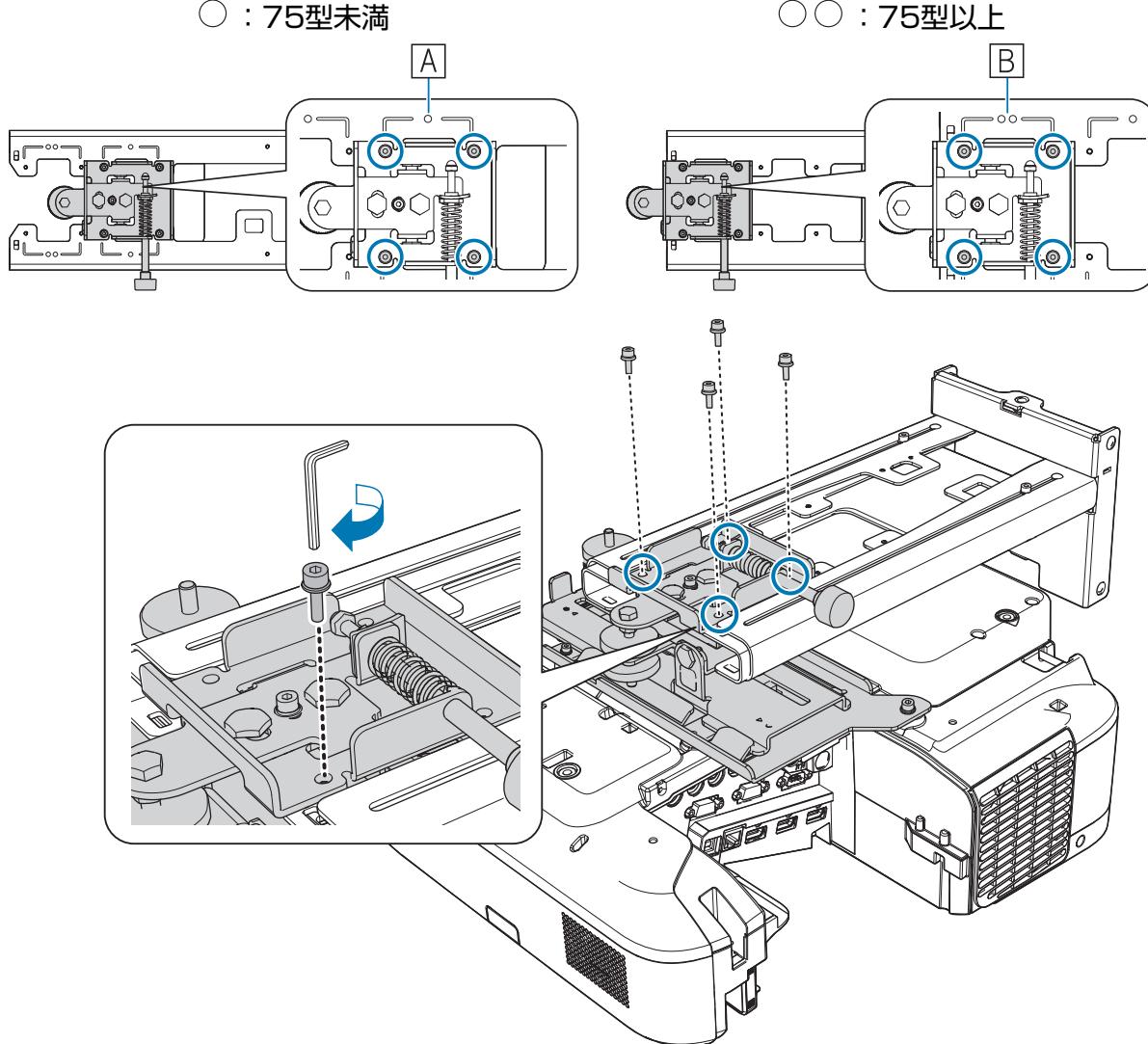
1

ネジ（2本）を緩め、プロジェクターからケーブルカバーを取り外す



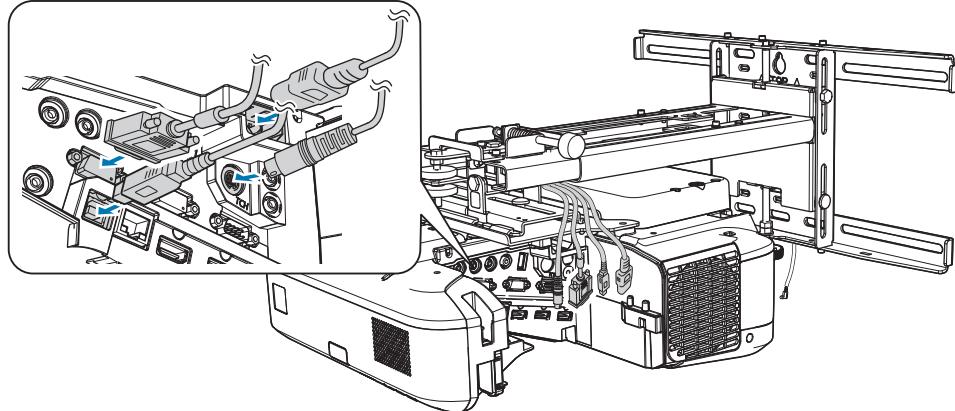
2 同梱のM4 x 12mmボルト（4本）で、3軸調整ユニットをセッティングプレートに取り付ける

- ・75型未満の画面を投写する場合：○の箇所（A）に取り付けます。
- ・75型以上の画面を投写する場合：○○の箇所（B）に取り付けます。

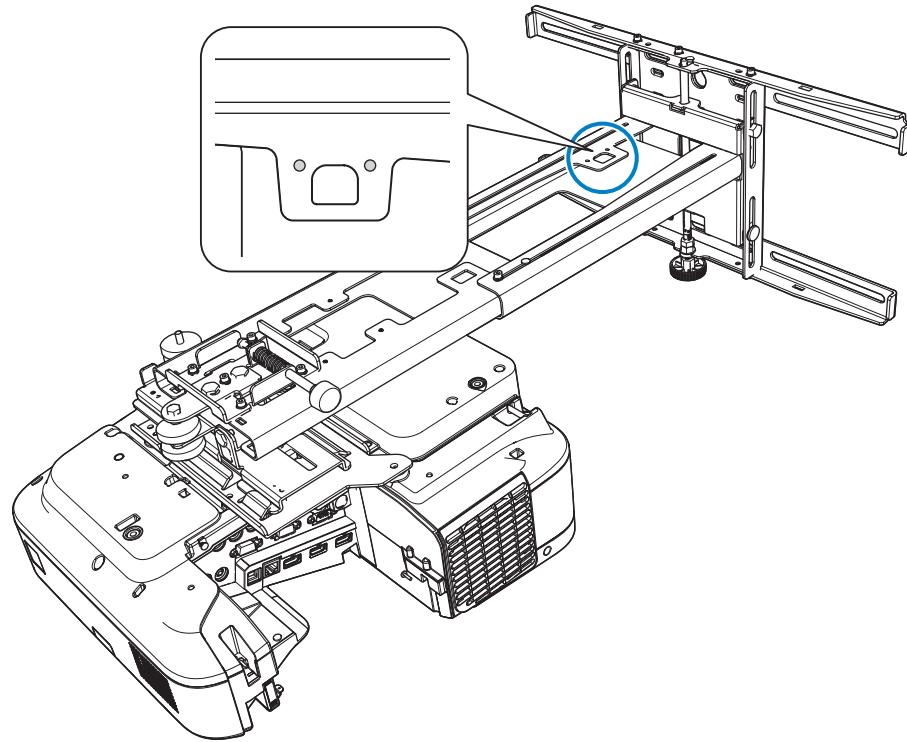


3 ケーブル類をプロジェクターに接続する

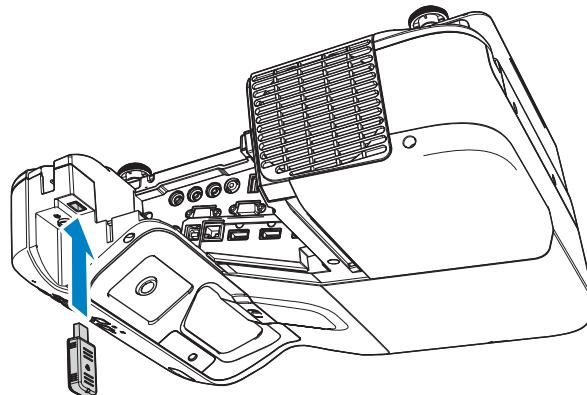
電源コードは最後に接続してください。



外付けチューナーなどの周辺機器やアクセサリーは、下図のネジ穴に市販のM4ネジで固定します。



オプション品の無線LANユニットは、無線LANユニット装着部に取り付けます。



プロジェクターの位置調整

- ・プロジェクターの台形補正機能では調整しないでください。画質が悪くなる可能性があります。
- ・本機を2台以上設置する場合に、一括設定機能を使って設定を行うときは、投写画面を調整する前に行ってください。

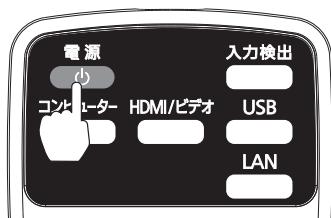
☞ 「一括設定機能」 [p.105](#)

 タッチユニットを取り付ける場合（EB-695WTのみ）、ホワイトボードの下部にフレームやトレイなどの障害物があるときは、プロジェクターの位置調整を行う前に赤外線ディフレクターをホワイトボードの下端に沿って貼り付けます。

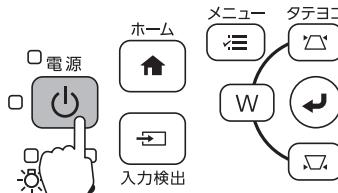
☞ 「赤外線ディフレクターの貼付（EB-695WTのみ）」 [p.49](#)

1 リモコンまたは操作パネルの【電源】ボタンを押して、プロジェクターの電源を入れる

リモコンの場合



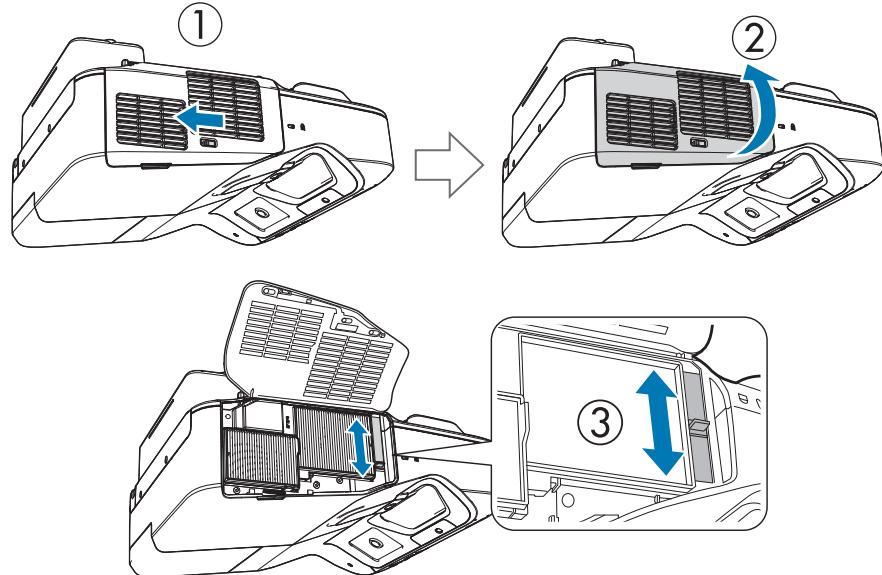
操作パネルの場合



⚠ 注意

投写中は手や顔を排気口に近づけたり、変形など、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置いたりしないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。

2 エアフィルターカバーを開けて、フォーカスレバーで大まかにピントを合わせる



ピントの微調整は後で行います。

調整が終了したら、エアフィルターカバーを閉じます。



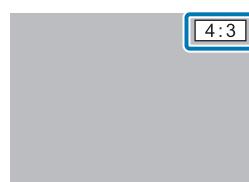
- ・[拡張設定] メニューの [言語] からメニューの表示言語を切り替えられます。
- ➡ プロジェクターの『取扱説明書』 - プロジェクターメニュー
- ・初めてプロジェクターの電源をオンにしたときは、「時刻を設定しますか?」というメッセージが表示されます。後で時刻を設定するときは、[いいえ] を選択してください。

3 投写画面のアスペクト比を切り替える（必要な場合のみ）

接続機器からの映像を投写して、リモコンの【アスペクト】ボタンを押します。

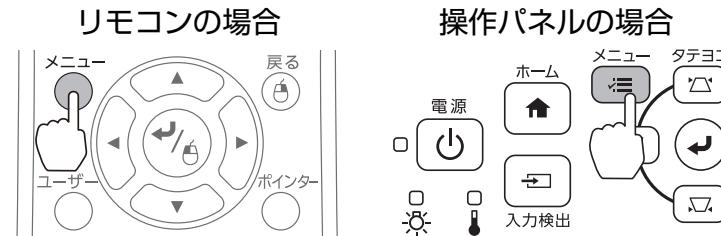
押すたびに画面上にアスペクト名が表示され、アスペクト比が切り替わります。

リモコンの場合



- ・投写する機器との接続方法、映像の投写方法は『かんたん操作ガイド』をご覧ください。
- ・接続機器からの映像が投写されていないときはアスペクト比は切り替えられません。
- ・[映像] メニューの [アスペクト] からもアスペクト比を切り替えられます。
- ➡ プロジェクターの『取扱説明書』 - プロジェクターメニュー

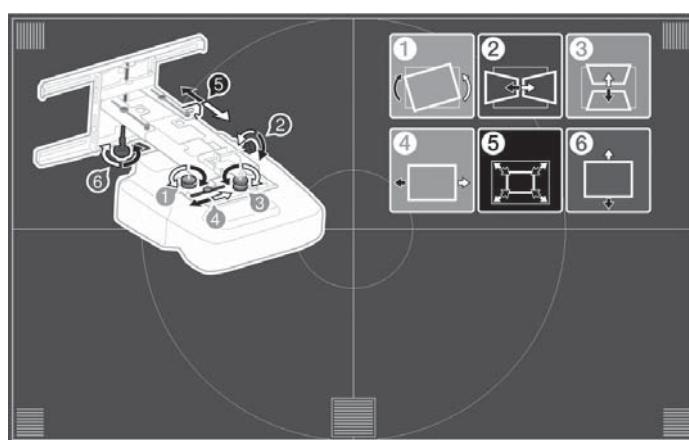
4 プロジェクターの【メニュー】ボタンを押す。



5 [設定] から [設置ガイド] を選択する

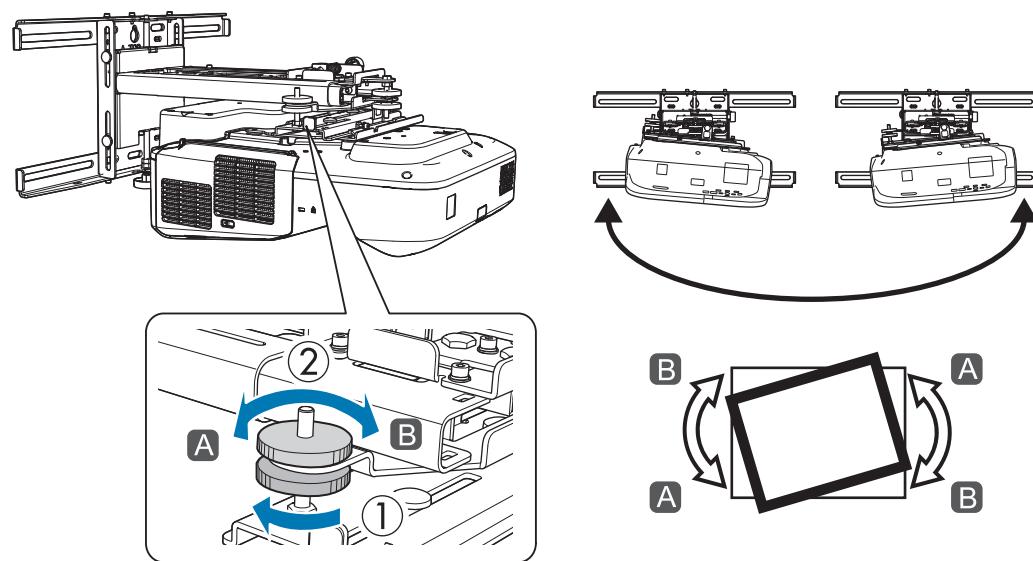
アスペクト比を選択する画面が表示されたら、投写する画面に応じて [16:10] または [4:3] を選択してください。

ガイド画面が表示されます。



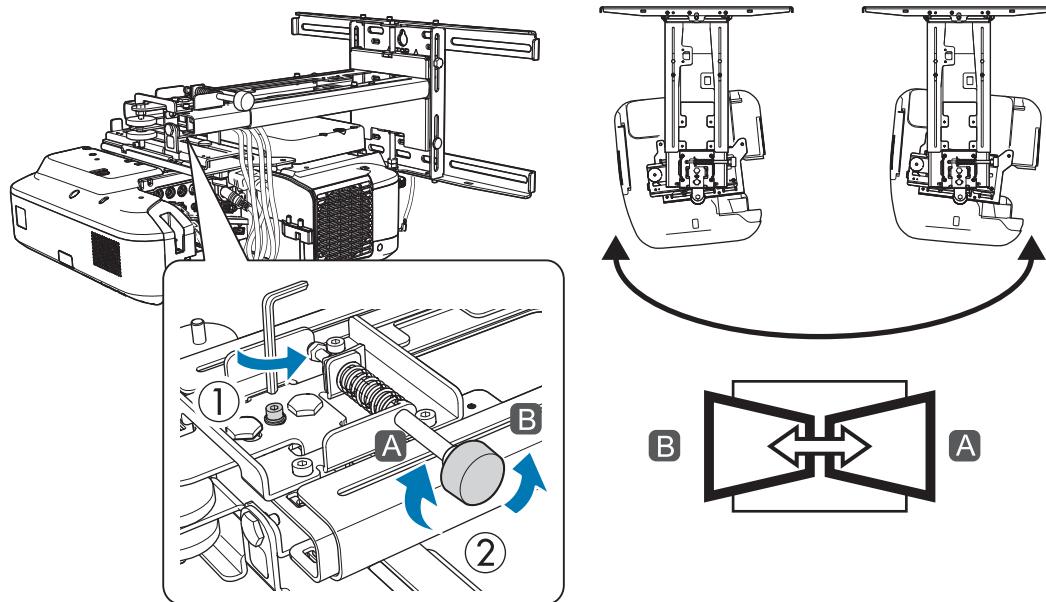
6 下側の調整ダイヤルを緩めてから、上側の調整ダイヤルで水平ロールを調整する

必要に応じて手順6~11を繰り返します。



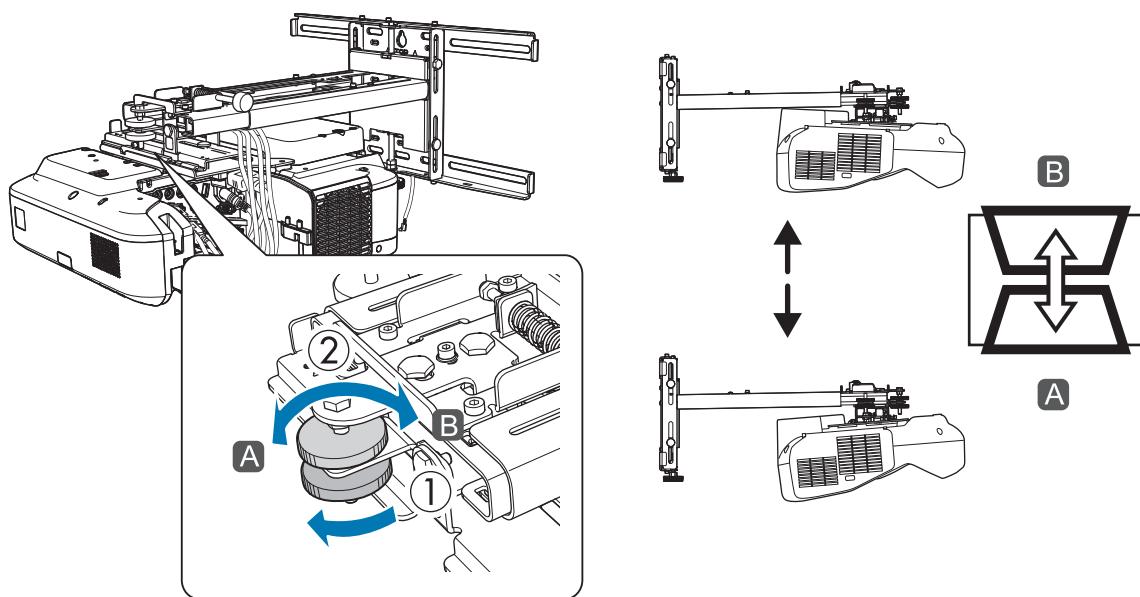
調整が終了したら、下側の調整ダイヤルを締め直します。

7 六角レンチでM4ネジ（1本）を緩めてから、調整ダイヤルで水平回転を調整する



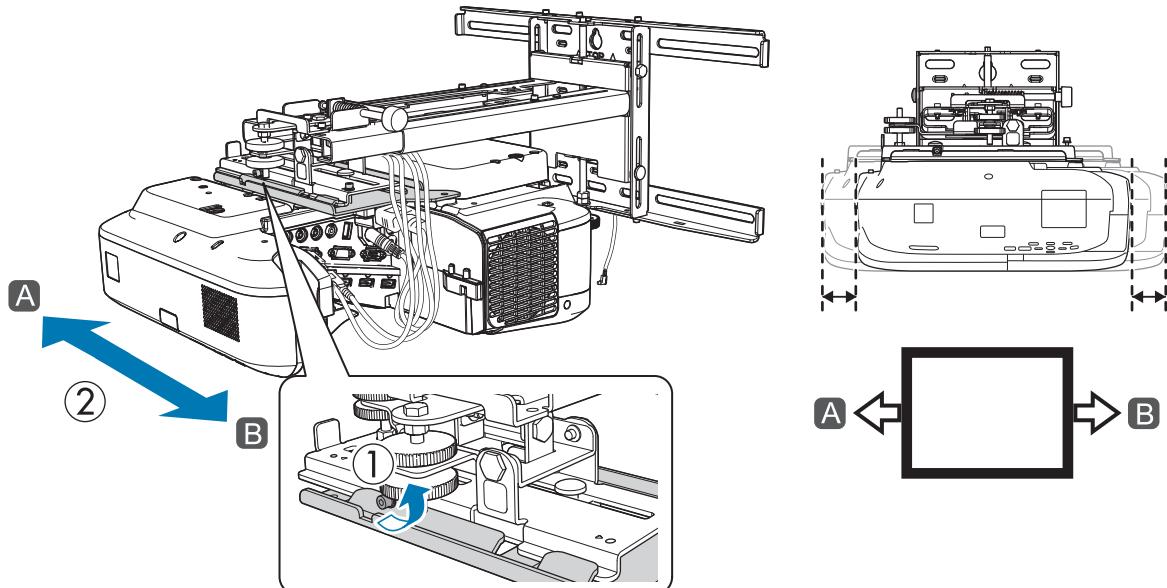
調整が終了したら、緩めたM4ネジを締め直します。

8 下側の調整ダイヤルを緩めてから、上側の調整ダイヤルで上下チルトを調整する



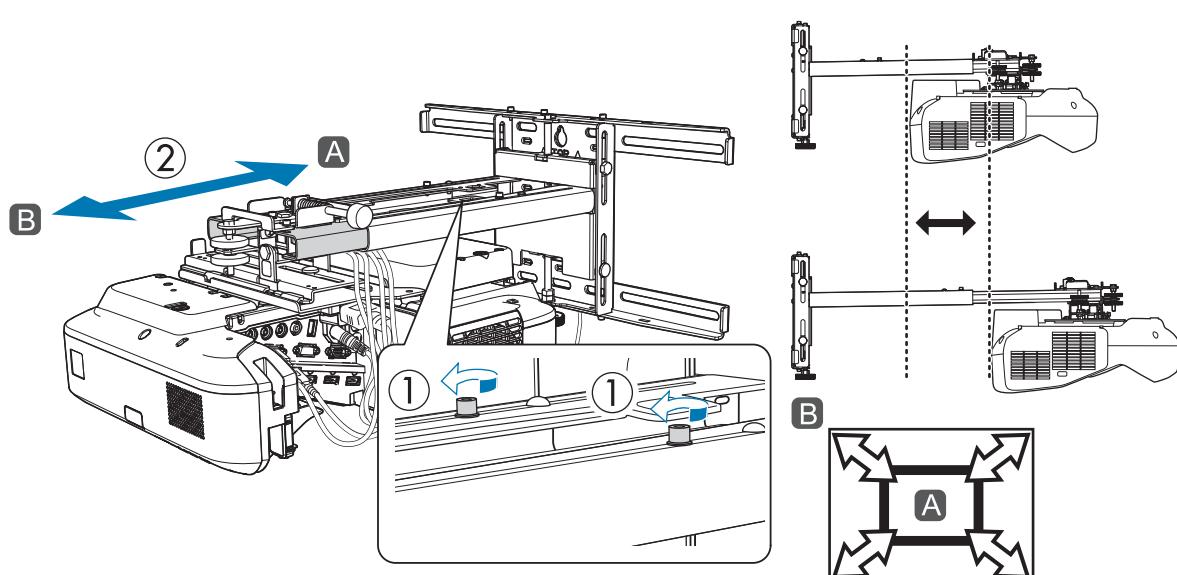
調整が終了したら、下側の調整ダイヤルを締め直します。

9 六角レンチでM4ボルトを緩めてから、水平スライドを調整する



調整が終了したら、緩めたM4ボルトを締め直します。

10 六角レンチでM4ボルト（2本）を緩めてから、前後スライドを調整する



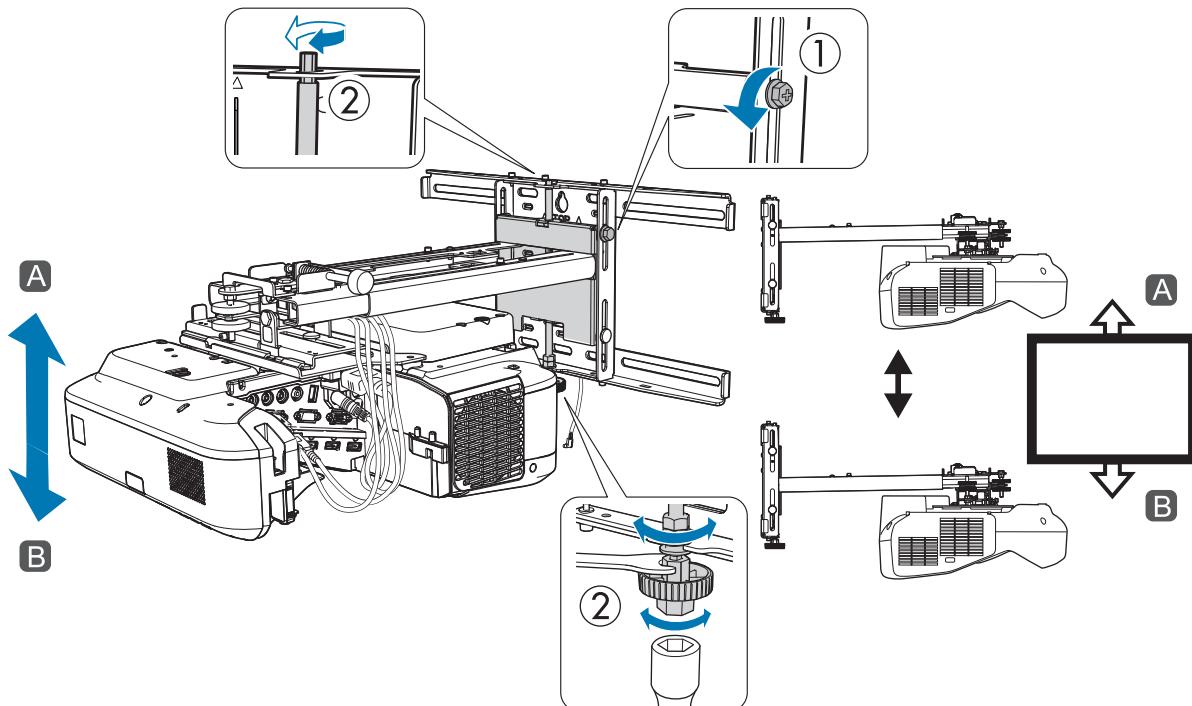
調整が終了したら、緩めたM4ボルトを締め直します。

11

両口スパナでM6ボルト（1本）を緩めてから、上下スライドを調整する

六角軸の上部または下部で、上下スライド調整をします。

- ・上部の六角軸を締めるとセッティングプレートが上がり、緩めると下がります。
- ・下部のM8ボルトを締めるとセッティングプレートが下がり、緩めると上がります。（17mmのソケットレンチも使用できます。）



調整が終了したら、緩めたM6ボルトを締め直します。

12

手順6から手順11で緩めたボルトやネジがすべて締まっていることを確認する



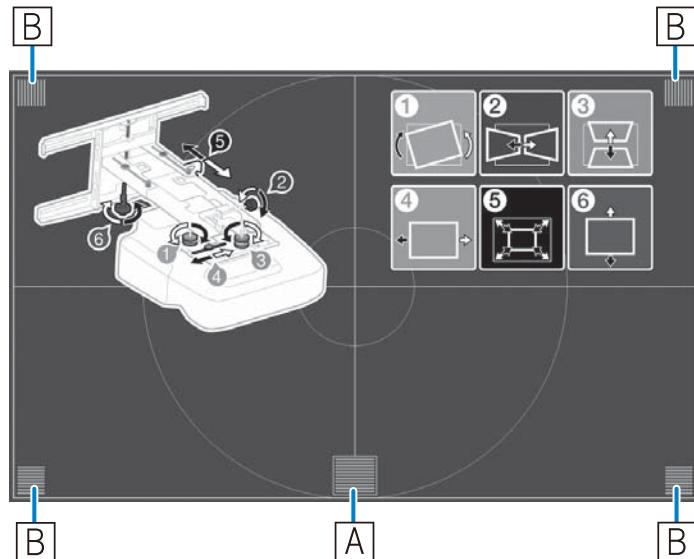
警告

すべてのボルトやネジを完全に締め直してください。十分に締めないと落下によりけがや事故の原因となります。

13 下図 (A) のピントが合うようにフォーカスを調整する

エアフィルターカバーを開け、フォーカスの調整を行ってください。

(A) のピントを合わせたら、(B) のピントが合っていることを確認します。(B) の中でピントが合っていない箇所があるときは、(B) のピントが均一になるようにフォーカスを調整します。

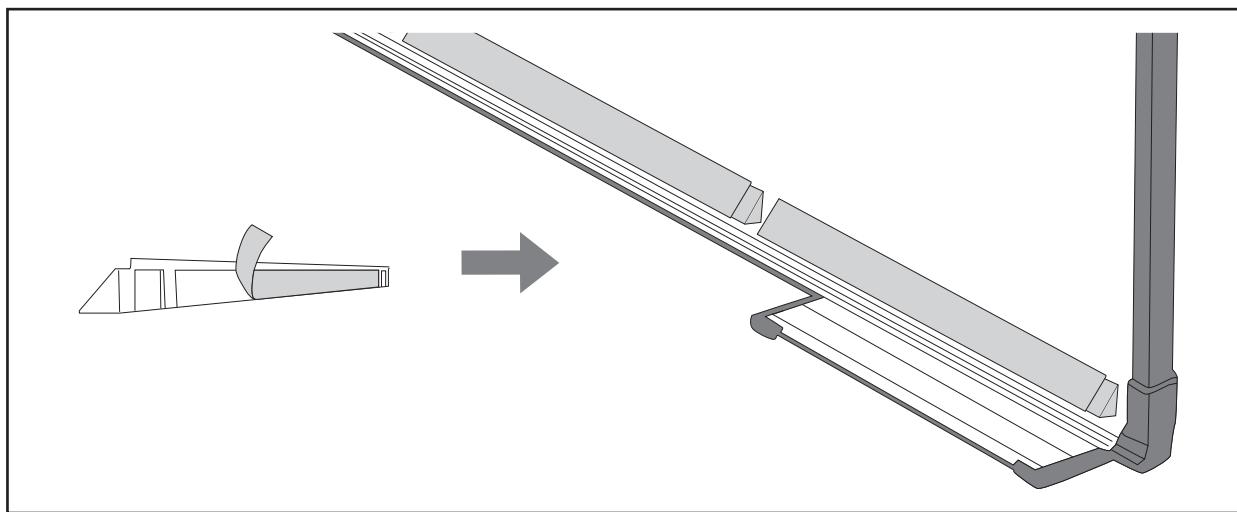


調整が終了したら、エアフィルターカバーを閉じます。

14 リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押して、ガイド画面を消す

■ 赤外線ディフレクターの貼付 (EB-695WT のみ)

タッチユニットを取り付ける場合、ホワイトボードの下部にフレームやトレイなどの障害物があると、指タッチ操作が正しく反応しないことがあります。障害物がある場合は、プロジェクターの位置調整を行う前に赤外線ディフレクターをホワイトボードの下端に沿って貼り付けます。

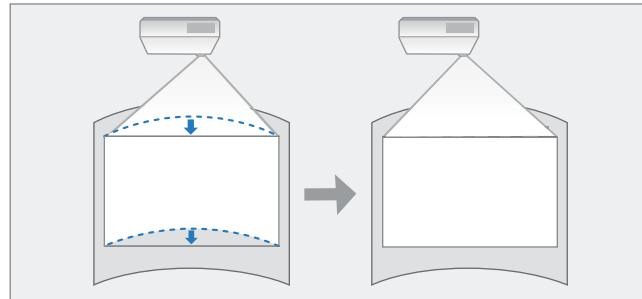




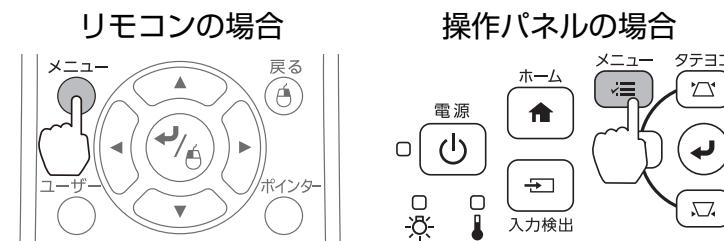
- 一度貼り付けた赤外線ディフレクターは取り外さないでください。テープの粘着力が弱くなります。
- 赤外線ディフレクターの上にテープを貼ったり、物を置いたりしないでください。赤外線ディフレクターが正しく機能しません。

■ 湾曲補正

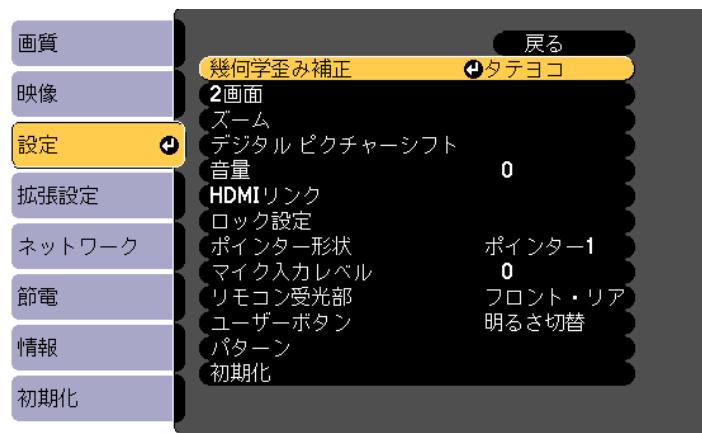
湾曲したスクリーンに投写する場合は、湾曲補正で投写映像のゆがみを補正します。



1 プロジェクターの電源をオンにして、【メニュー】ボタンを押す



2 [設定] から [幾何学歪み補正] を選択する



3 [湾曲補正] を選択する



4 [湾曲補正] を選択する



5 補正する辺を選択する



6 選択した辺を補正する

補正中に「これ以上調整できません。」と表示されたときは、グレーの三角で示す部分が補正量の限界に達したこと음을示しています。



7 手順5と6を繰り返して、補正が必要な辺をすべて補正する

ペン位置合わせ

プロジェクターの位置調整が終わっていることを確認してから、インタラクティブペンの位置合わせを行ってください。

☞ 「プロジェクターの位置調整」 [p.43](#)

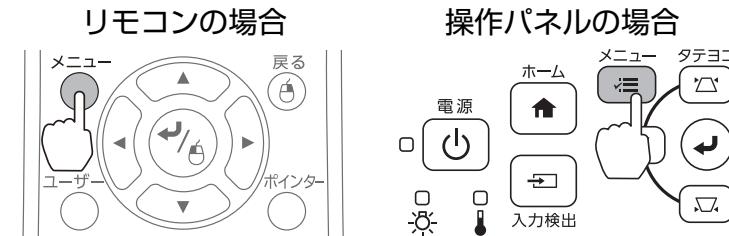
ペン位置合わせは、[自動位置合わせ] と [手動位置合わせ] の2つの方法があります。プロジェクターの設置後はじめてペン位置合わせをするときは、より正確に位置を合わせるために、[手動位置合わせ] を行ってください。

[自動位置合わせ] の方法はプロジェクターの『取扱説明書』(Document CD-ROM内) をご覧ください。

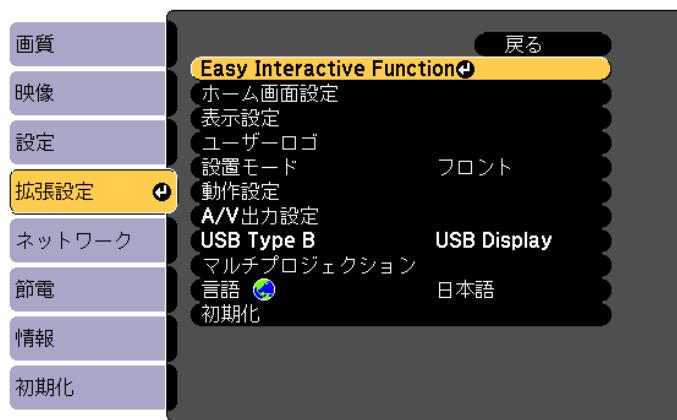
 本機を2台並べてインタラクティブ機能を使うときは、ペン位置合わせを行う前にマルチプロジェクションのインタラクティブ設定を行います。

☞ 「本機を2台並べてインタラクティブ機能を使う」 [p.96](#)

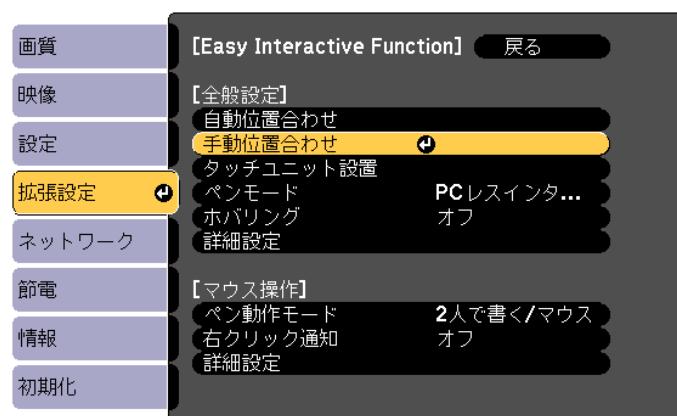
1 プロジェクターの電源をオンにして、【メニュー】ボタンを押す



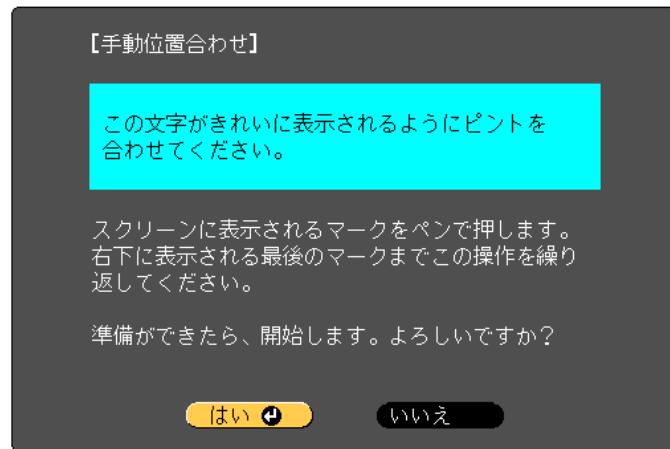
2 [拡張設定] で [Easy Interactive Function] を選択する



3 [手動位置合わせ] を選択する



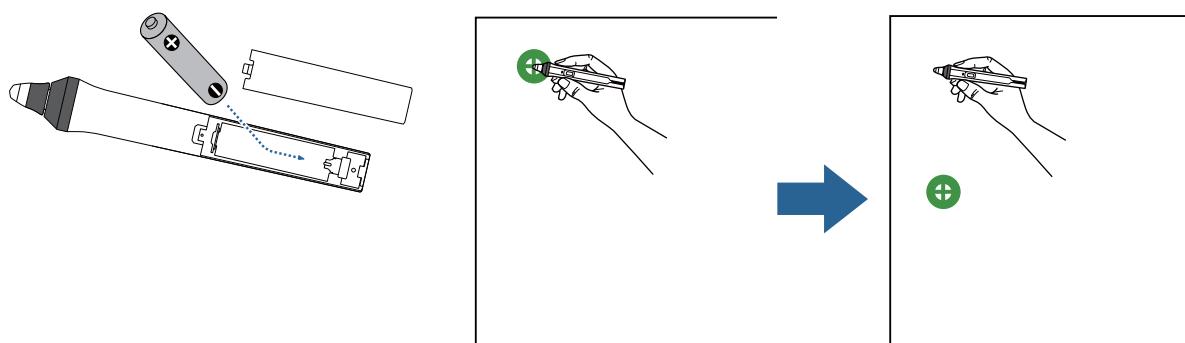
4 ピントが合っていることを確認して、[はい] を選択する



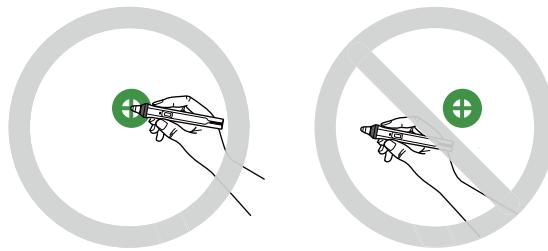
投写画面の左上に緑色のドットが表示されます。

5 ドットの中心をインタラクティブペンのペン先で押す

ドットが消えて次の位置に移動します。



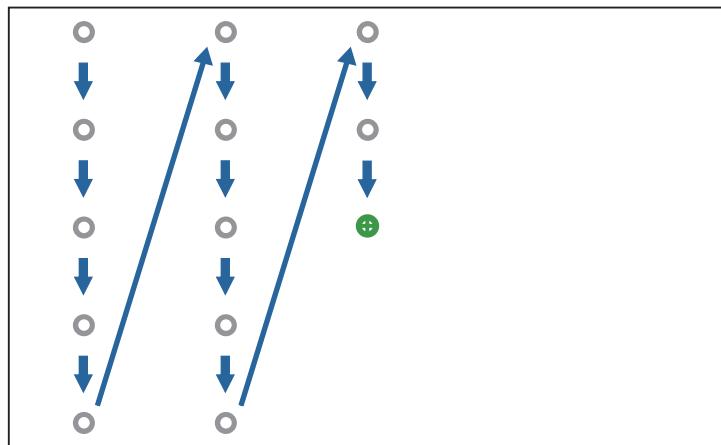
必ずドットの中心を押してください。中心以外を押すと位置ずれの原因となります。



6

すべてのドットが消えるまで、手順5を繰り返す

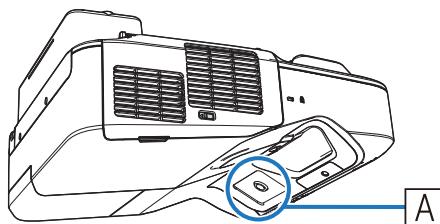
ドットはスクリーンの左上から右下に向かって、順番に表示されます。



すべてのドットが消えると、手動位置合わせが完了します。



- ・インタラクティブペンとインタラクティブペン受光部（A）との間に障害物がないことを確認してください。

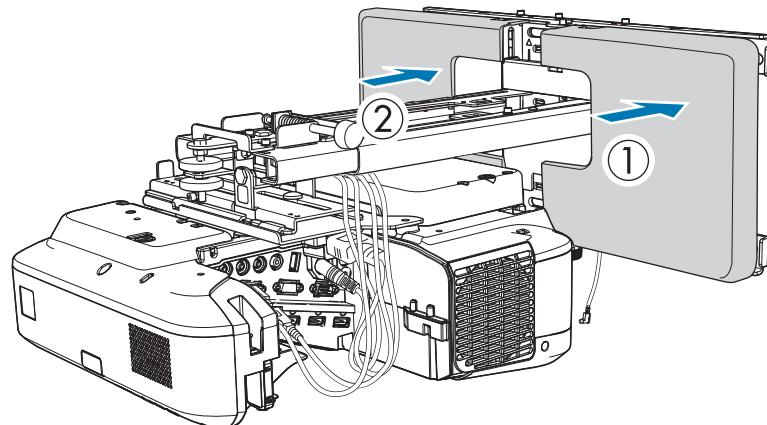


- ・押す位置を間違えたときは、リモコンの【戻る】ボタンを押して1つ前のドットに戻ります。
- ・中止するときは、【戻る】ボタンを2秒間押し続けます。

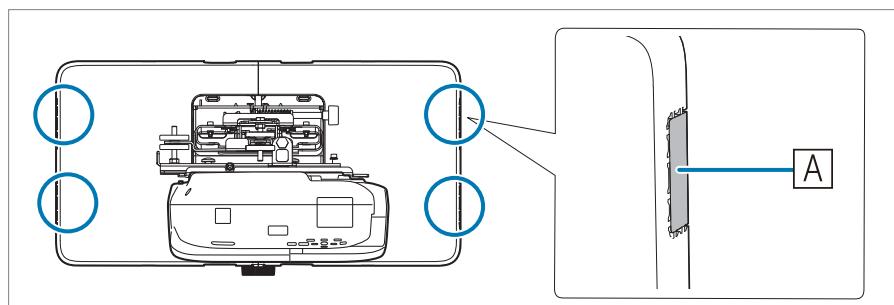
カバー類の取り付け

1 ウォールプレートカバーを取り付ける

右側のカバーから取り付けます。



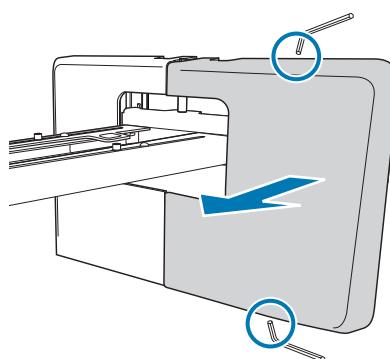
- ケーブルの配線状態に応じて、ウォールプレートカバーの切り欠き部（A）をカットしてケーブル類を引き出してください。カット面はバリ取り処理をしてください。



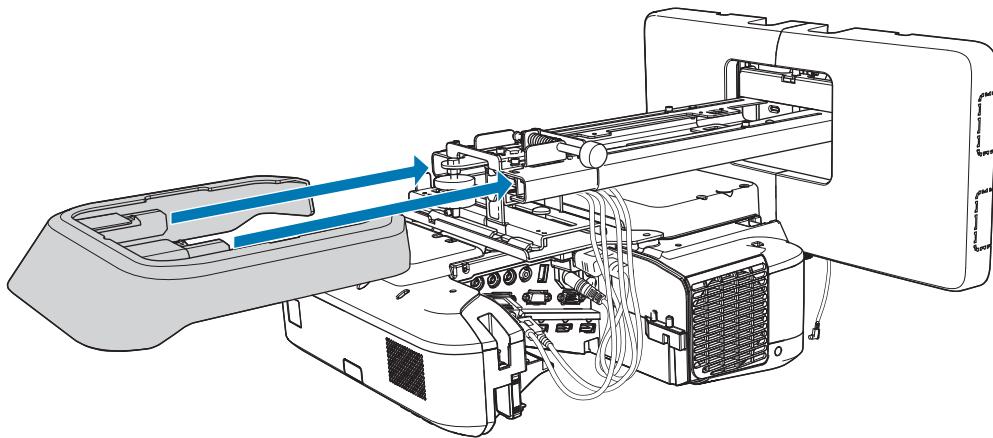
ケーブル類を引き出すときは、ケーブル類を傷つけないように引き出してください。

また、カッターをご使用の際は安全面に十分注意してください。

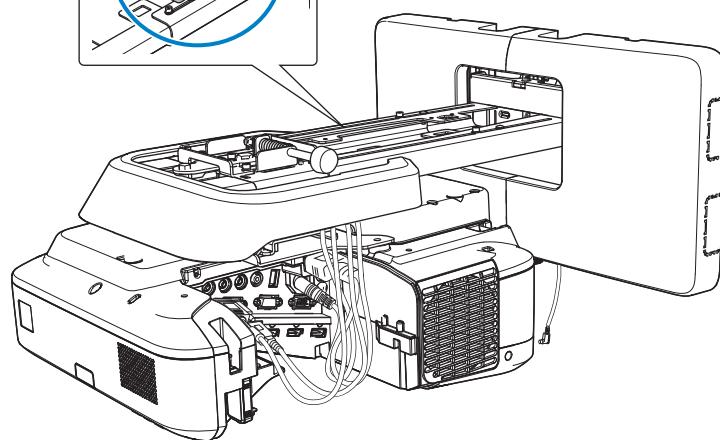
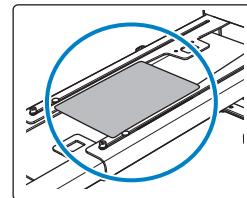
- ウォールプレートカバーを取り外すときは、ウォールプレートカバー背面の上下にあるツメを、六角レンチなどで押して手前に引きます。



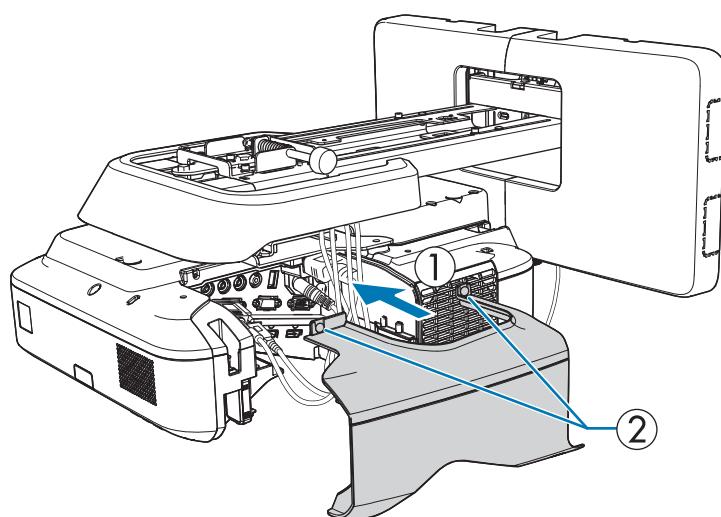
2 エンドキャップをセッティングプレートにはめ込む



 アームの空洞が気になるときは、同梱の目隠しシールを貼り付けてください。



3 プロジェクターにケーブルカバーを取り付けて、ネジ（2本）で固定する



⚠ 注意

プロジェクターのメンテナンスや修理をするときは、必ず工事専門業者がプロジェクターの取り外しと再設置を行ってください。なお、プロジェクターのメンテナンスおよび修理の方法は、プロジェクターの『取扱説明書』を参照してください。

⚠ 警告

- 設置後は、ボルト・ナットを絶対に緩めないでください。また、定期的にネジ類の緩みがないことを確認してください。万一、緩みがあるときは、確実に締め直してください。十分に締めないと落下によりけがや事故の原因となります。
- 本製品にぶら下がらないでください。また、重い物をぶら下げないでください。本製品が壊れて落下すると大変危険です。本製品が落下すると、人が死亡または重傷を負うおそれがあります。

○ タッチユニットの取り付け (EB-695WTのみ)

タッチユニットを取り付ける前に、以下の作業が終わっていることを確認してください。

- ・プロジェクターの取り付け (☞ p.29)
- ・プロジェクターの位置調整 (☞ p.43)
- ・インタラクティブペンの位置合わせ (☞ p.52)

タッチユニットを取り付ける位置によって、手順が異なります。

- ・ホワイトボードの外に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使う）(☞ p.59)
- ・ホワイトボード内に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使わない）(☞ p.84)

ホワイトボードの外に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使う）

■ 取り付け手順

タッチユニット取り付け金具を使用してタッチユニットをホワイトボードの外に取り付け、プロジェクターと接続します。

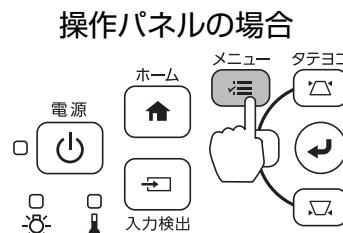
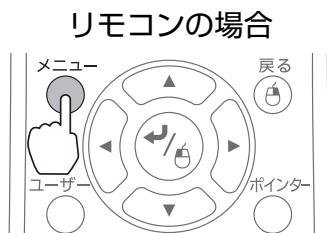
タッチユニットを取り付ける面とスクリーンが平行であることを確認してください。



注意

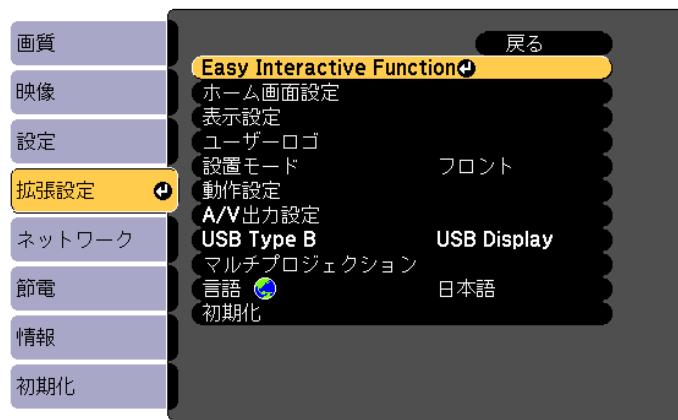
EB-695WT以外のプロジェクターや他の機器にタッチユニットを接続しないでください。

1 プロジェクターの電源をオンにして【メニュー】ボタンを押す



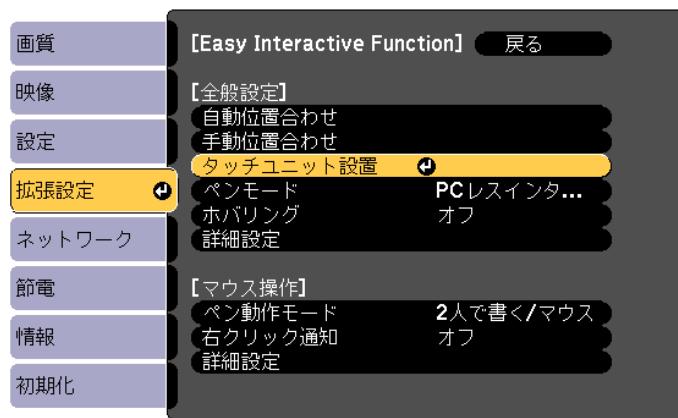
2

[拡張設定] で [Easy Interactive Function] を選択する



3

[タッチユニット設置] を選択する



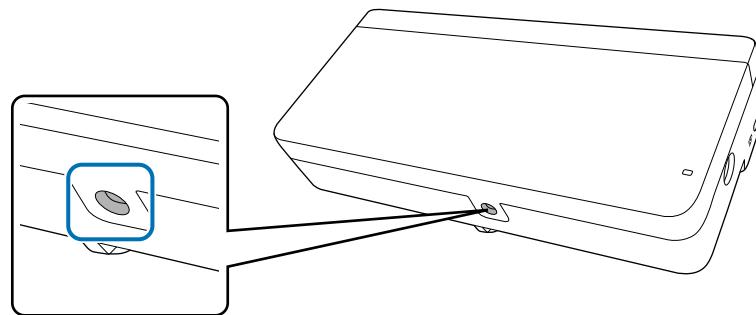
4 [設置パターン] を選択する



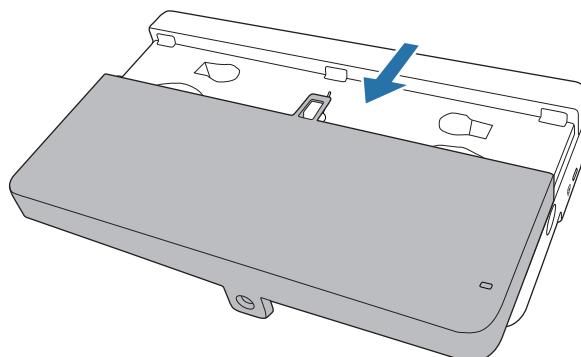
投写画面に設置パターンが表示されます。



5 ダイヤルカバーの下部にあるネジを市販のNo.2のプラスドライバーで緩める



6 ダイヤルカバーを下にスライドさせて外す



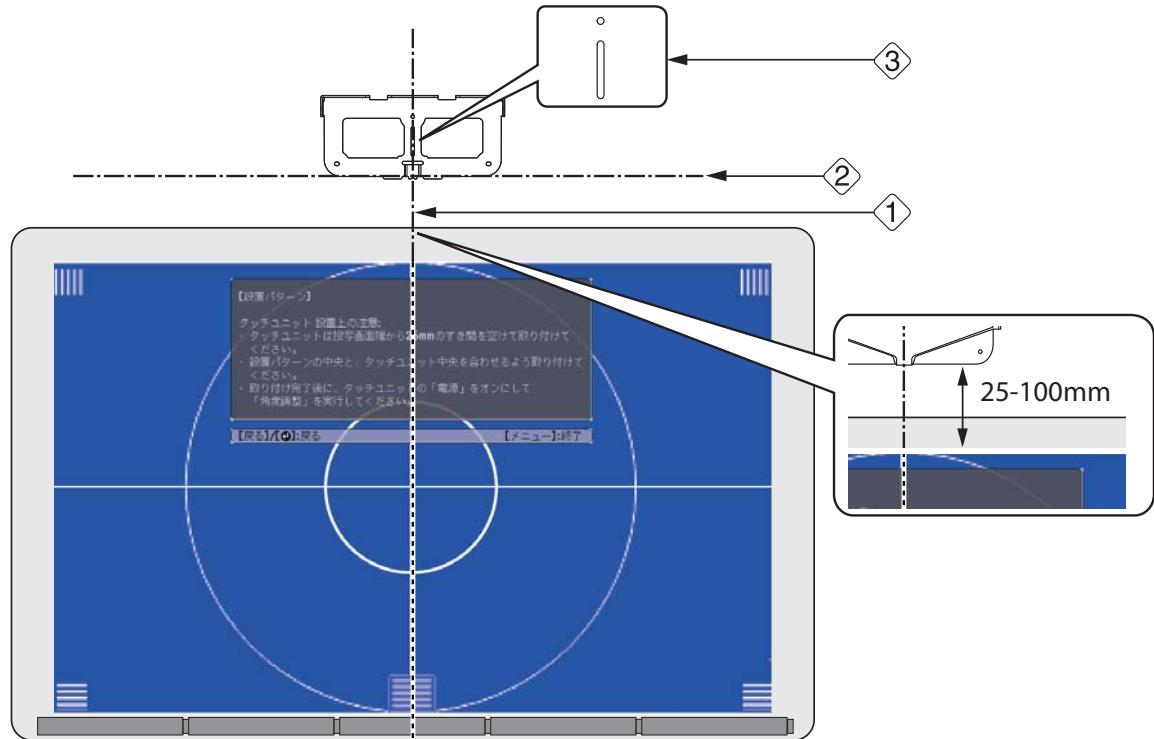
7 タッチユニット取り付け金具の取り付け位置を決める

取り付けやすいように、以下の取り付け位置（ネジ穴の位置）に印を付けることをお勧めします。

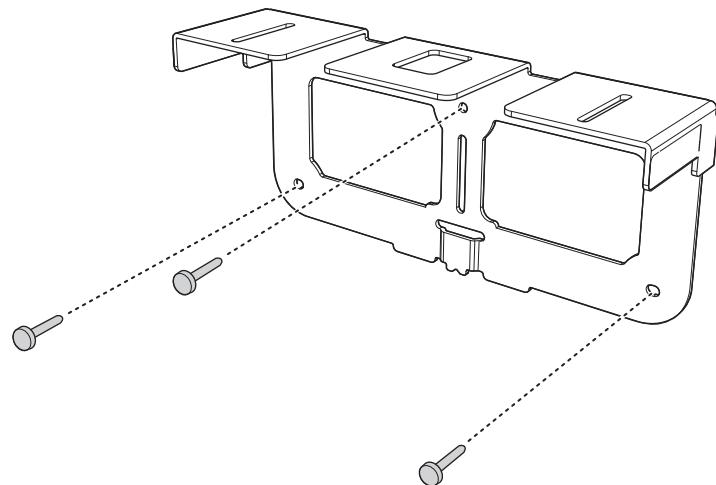
（①）：設置パターンの中心線です。取り付けプレートの中心線（③）と合わせます。

（②）：投写画面の上端（白線）から25mm～100mmの高さです。取り付けプレートの下端と合わせます。

[単位：mm]

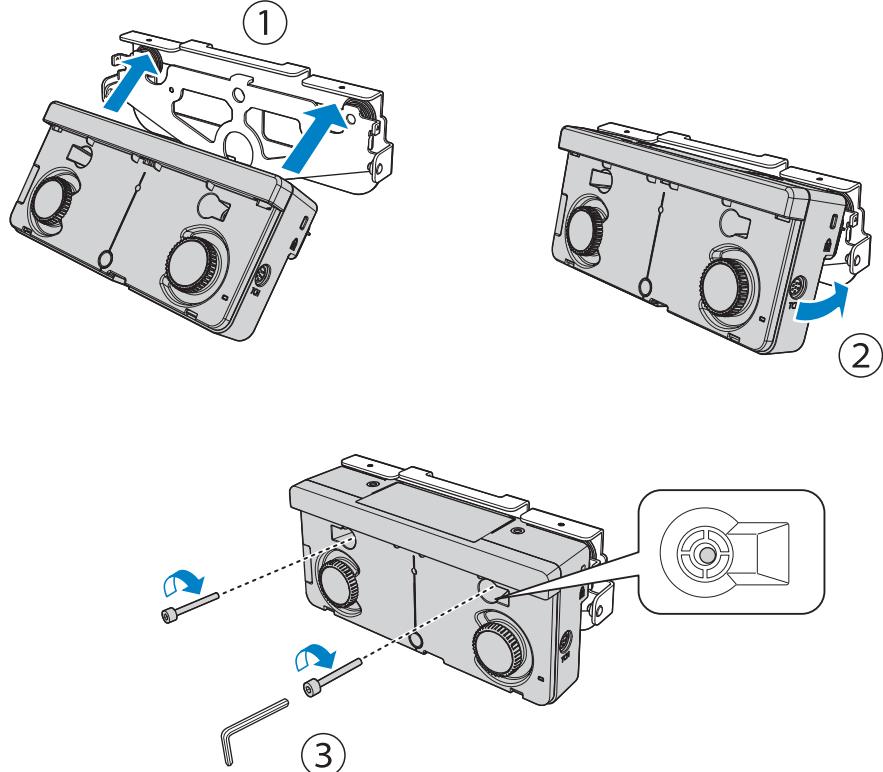


8 市販の直径4mm木ネジ（3本）またはM4のアンカーボルト（3本）で取り付けプレートを壁に取り付ける



9 同梱のM4 x 25mmボルト（2本）で、タッチユニットの裏面に固定用プレートを取り付ける

タッチユニットのネジ穴（2箇所）と固定用プレートのネジ穴（2箇所）が一致するように位置を調整します。セッティングプレートに同梱の六角レンチでボルトを締めます。

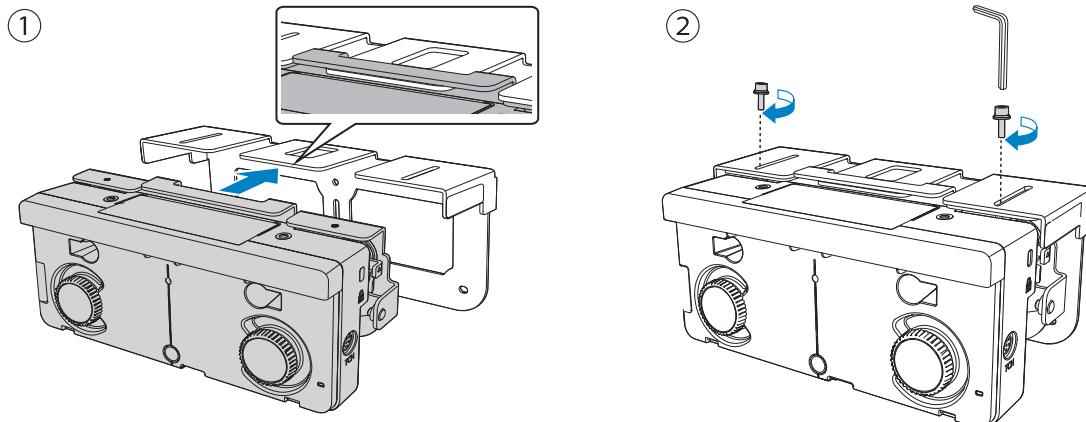


⚠ 注意

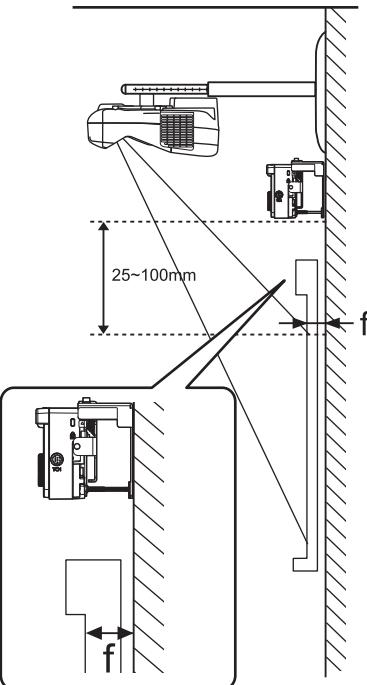
タッチユニットの裏面には強力なマグネットが付いています。タッチユニットと固定用プレートの間に手を挟まないようにご注意ください。

10 同梱のM4 x 12mmボルト（2本）で、固定用プレートを取り付けプレートに取り付ける

セッティングプレートに同梱の六角レンチでボルトを締めます。

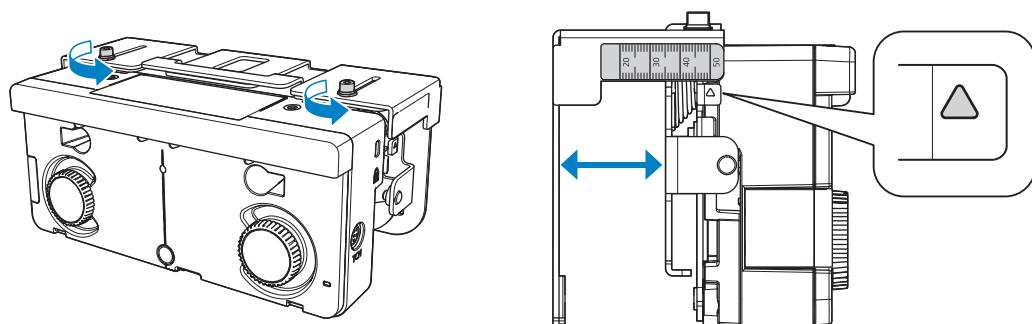


11 壁からスクリーン表面までの距離 (f) を計測する



12 手順11で計測した (f) に合わせて左右それぞれ高さを調整する

ネジ（2本）を緩め、タッチユニットを前後に動かして、矢印が (f) と同じ値の目盛に合うように左右それぞれ調整します。調整が終わったら、ネジ（2本）を締めます。

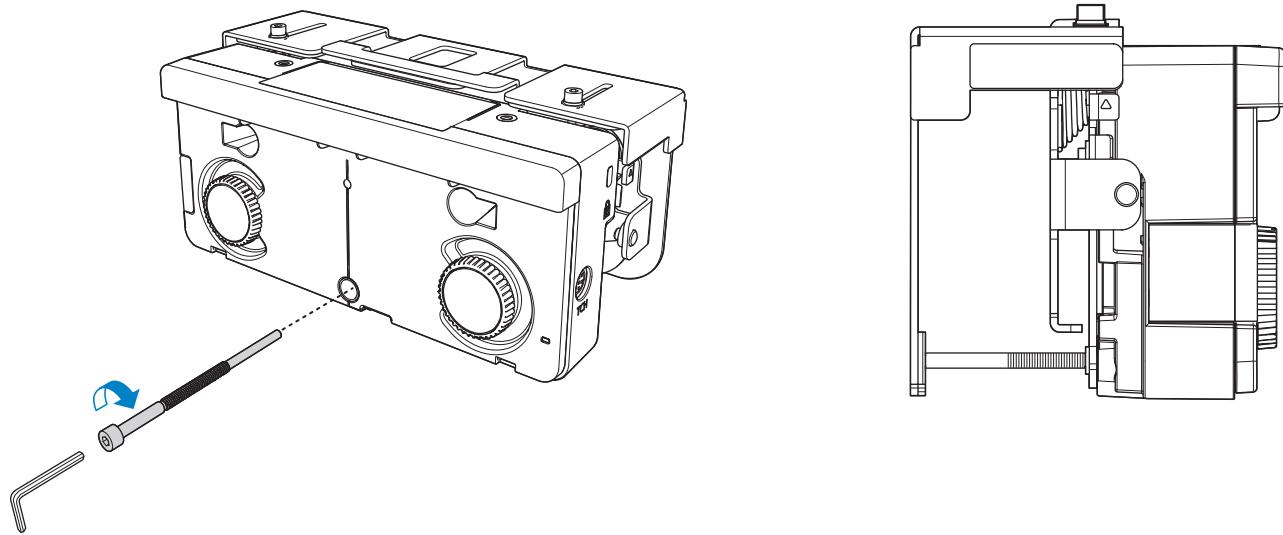


13 同梱の六角穴付きボルトでタッチユニットを取り付けプレートを固定する

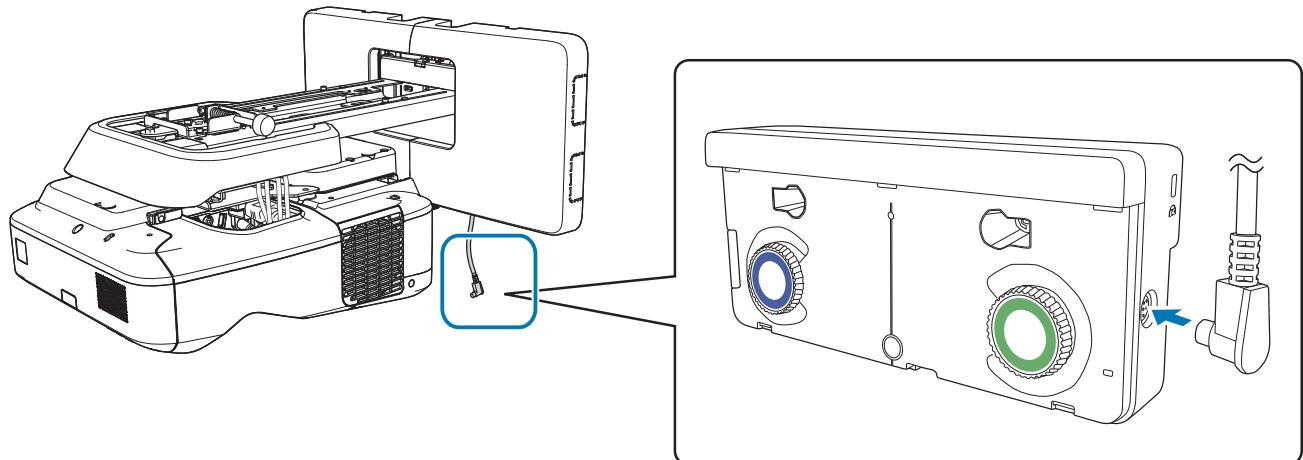
手順11で計測した壁からスクリーン表面までの距離 (f) によって、使用するボルトは異なります。ボルトはセッティングプレートに同梱の六角レンチで締めます。

$f=20\sim35\text{mm}$ の場合：M4 x 55mmボルト

$f=35\sim50\text{mm}$ の場合：M4 x 70mmボルト

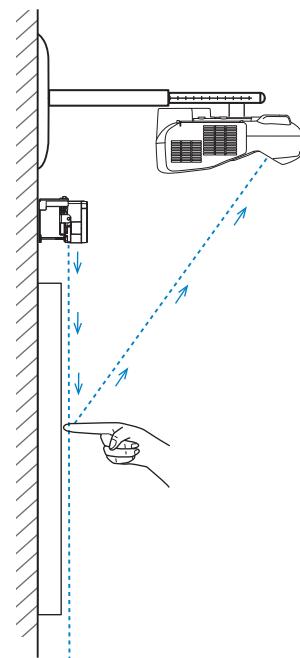


14 プロジェクターに接続したタッチユニット接続ケーブルを、タッチユニットのTCH端子に接続する

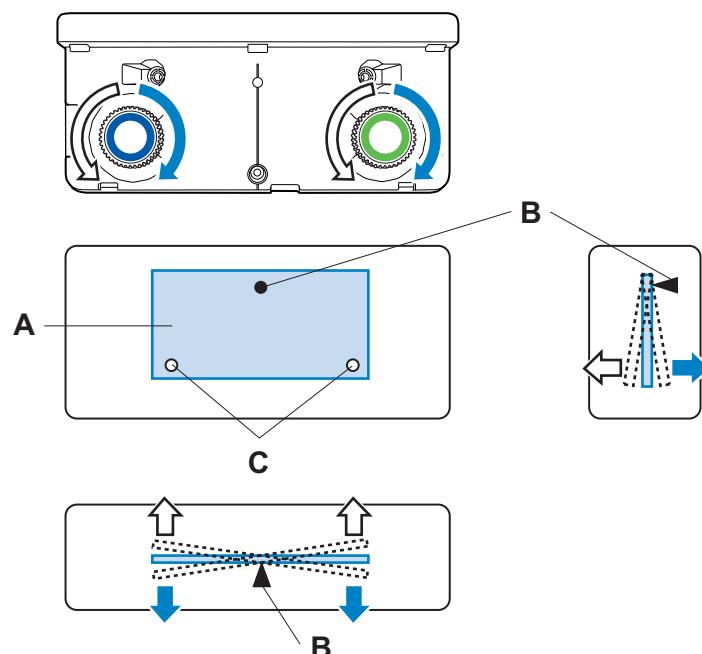


■ 角度調整

タッチユニットから赤外線レーザーがカーテン状に照射されます。ホワイトボードに触れた指に赤外線レーザーが反射し、反射した座標をプロジェクターの赤外線カメラが認識することで指の位置を検出します。



プロジェクターが指の位置を正しく検出できるように、タッチユニットから照射されるレーザーの角度を調整します。



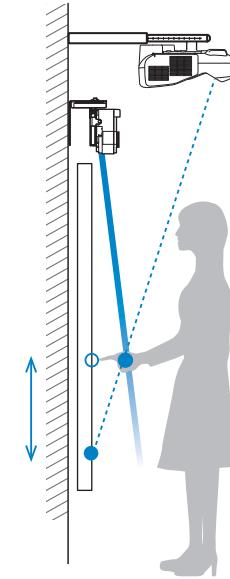
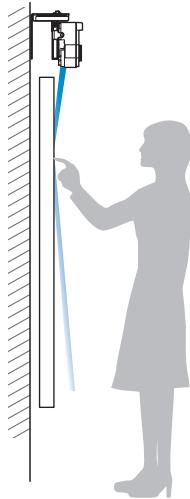
A : 赤外線レーザー照射ユニット

B : 支点

C : 上下可動点

レーザーがスクリーンに対して平行に照射されていないと、指タッチ操作に反応しなかったり、指の位置がずれたりします。

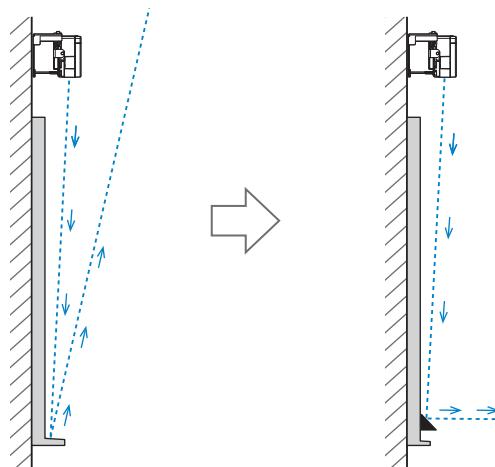
レーザーがスクリーンに対して平行でない場合



- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 投写面に指でタッチしても、指の位置が検出されないことがあります。 投写面に指が触れていない場合でも指が触れていると検出され、意図しない指タッチ操作が行われることがあります。 | <ul style="list-style-type: none"> プロジェクターで検出される指の位置と、実際に投写面に触れている指の位置がずれ、意図した通りに指タッチ操作ができないことがあります。 プロジェクターが指を検出したままの状態になり、クリックの動作を認識しないことがあります。 |
|---|---|

ホワイトボードの下部にフレームやトレイなどの障害物があるときは、レーザーが反射して、指の位置が正しく検出されないことがあります。フレームやトレイの上に赤外線ディフレクターを貼ることでレーザーを外へ逃がし、反射しないようにします。

☞ 「赤外線ディフレクターの貼付 (EB-695WT のみ)」 [p.49](#)



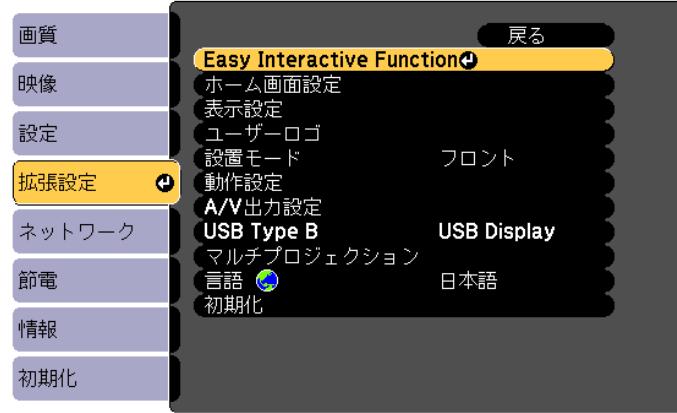
-  • 本機を2台並べてインタラクティブ機能を使うときは、先にマルチプロジェクションのインタラクティブ設定をしてください。

☞ 「本機を2台並べてインタラクティブ機能を使う」 [p.96](#)

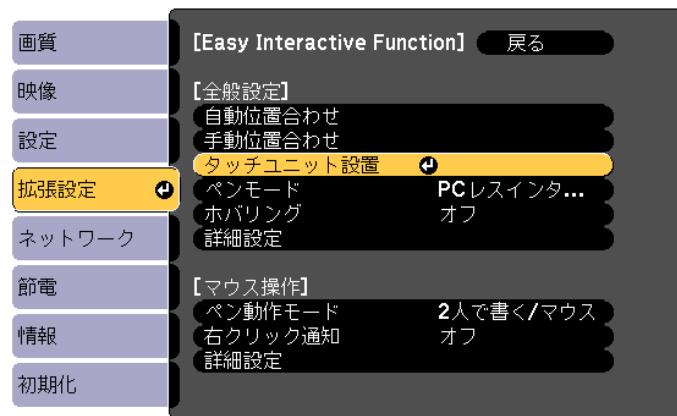
• 角度を調整する前に、インタラクティブペンの位置合わせが終わっていることを確認してください。

☞ 「ペン位置合わせ」 [p.52](#)

1 プロジェクターの [拡張設定] メニューから [Easy Interactive Function] を選択する



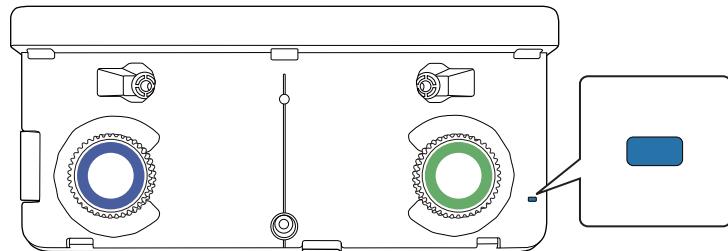
2 [タッチユニット設置] を選択する



3 [電源] を [オン] にする

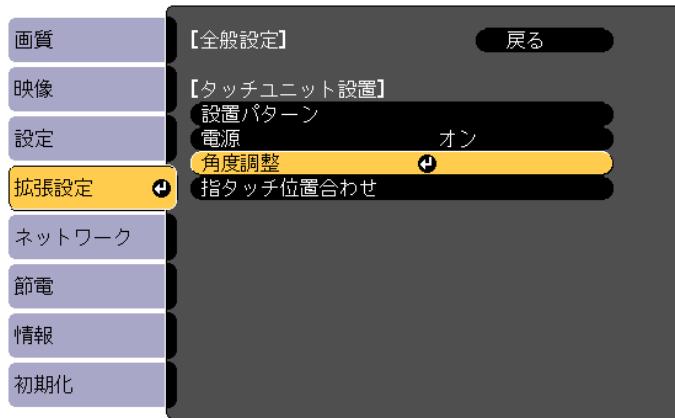


タッチユニットの電源がオンになり、インジケーターが青色に点灯します。

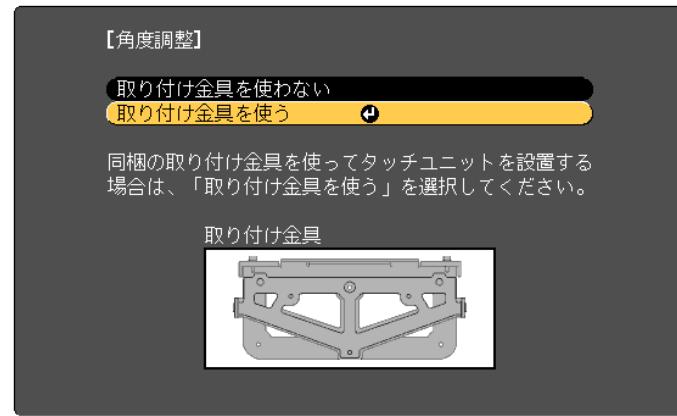


 [電源] を [オン] に設定すると、次回からプロジェクターの電源をオンにしたときにタッチユニットの電源も自動的にオンになります。

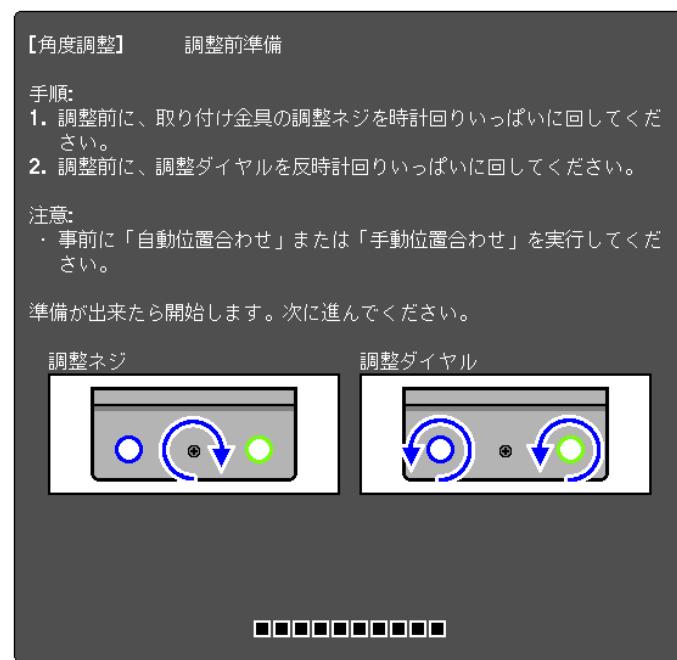
4 [角度調整] を選択する



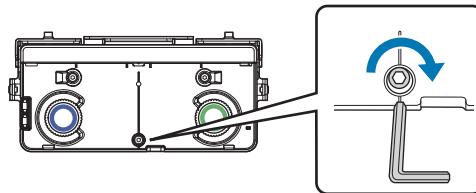
5 [取り付け金具を使う] を選択する



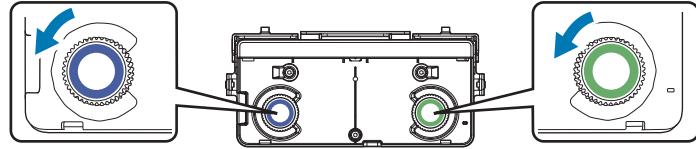
以下の画面が表示されます。



6 セッティングプレートに同梱の六角レンチで、タッチユニットの調整ネジを時計回りいっぱいに回す



7 タッチユニットの調整ダイヤルを、カチカチと音が鳴るまで反時計回りに回す

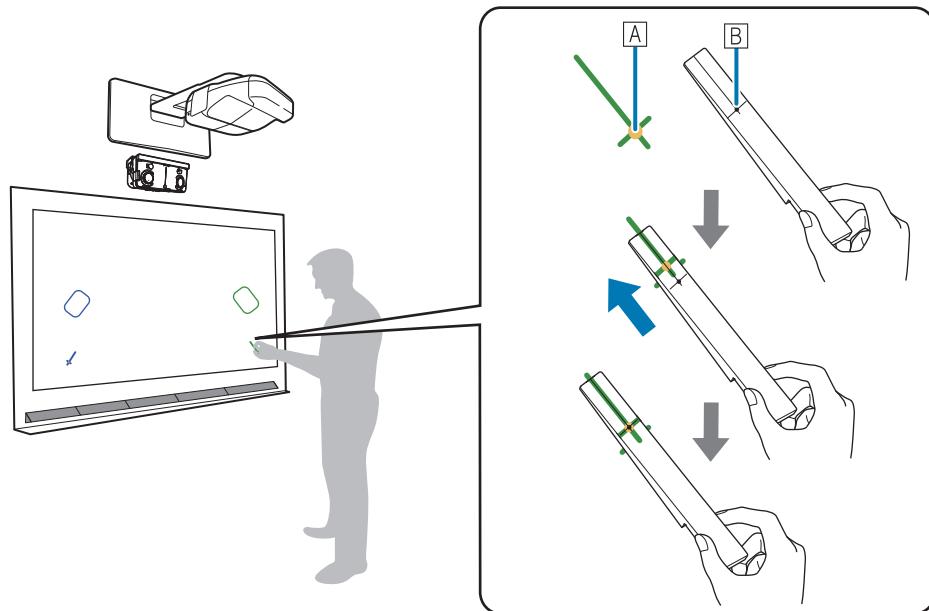


調整ダイヤルからカチカチと音が鳴ったら回すのをやめ、リモコンの【】ボタンを押します。以下の画面が表示されます。

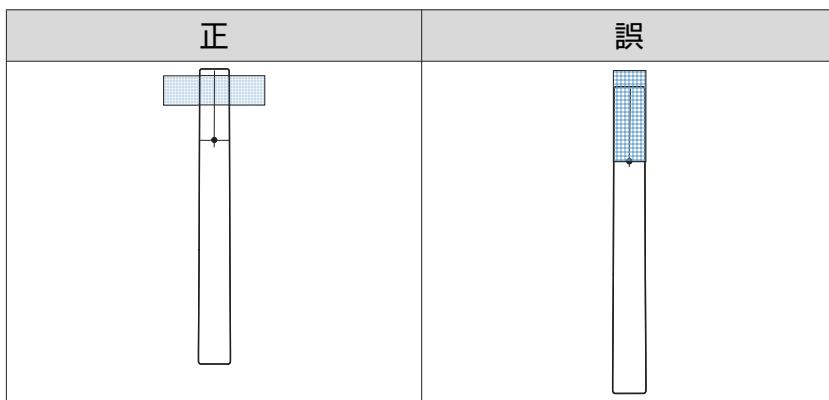


8 投写画面のマーカー設置位置 (✗) (✗) に、同梱のマーカー2個を重ねて固定する

(✗) (✗) の交点 (A) にマーカーの十字位置 (B) が重なるように位置を合わせます。



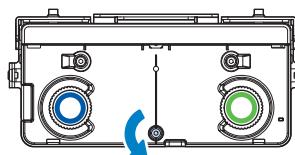
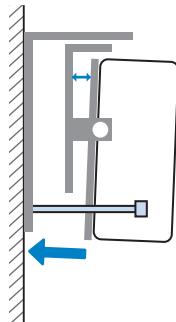
- ・マグネットが使えるスクリーン：マーカーの底面をスクリーンに付けて固定します。
- ・マグネットが使えないスクリーン：同梱のテープで固定します。マーカーの先端がスクリーンから浮かないように固定してください。



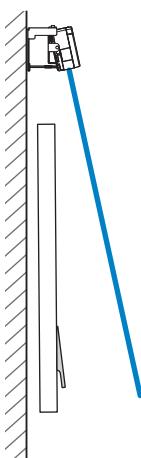
角度調整中は、マーカー以外のものを投写画面上に近付けないでください。投写画面上にマーカー以外のものがあると、角度調整がうまくできないことがあります。

- 9 タッチユニットの調整ネジを反時計回りに回して、左右のポインター（●）（●）を表示させる

調整ネジによるタッチユニットの角度調整



調整前

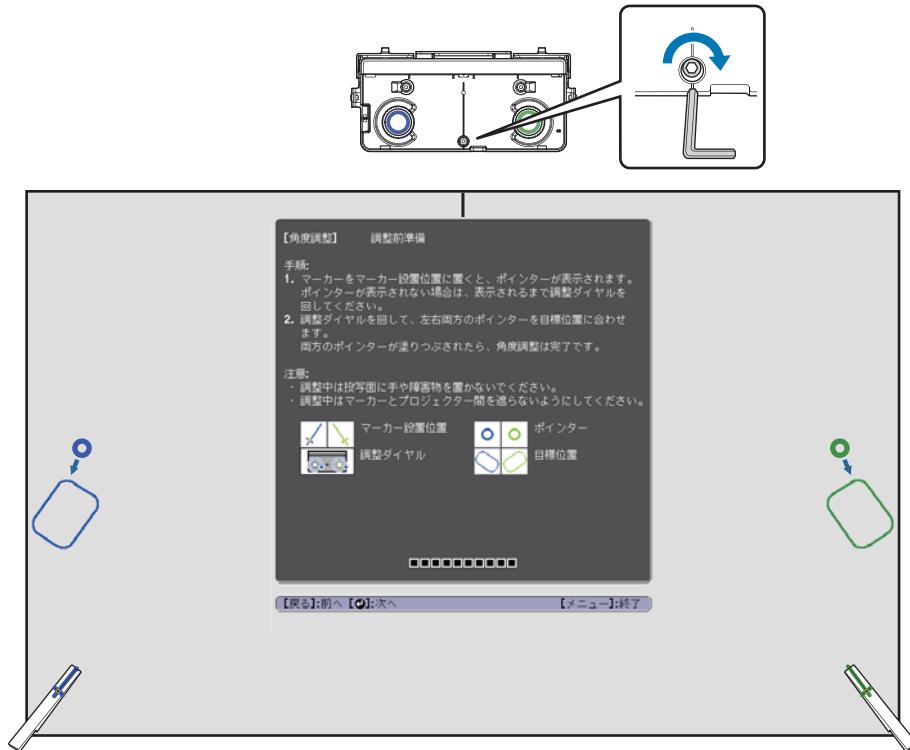


調整後



正しい位置に重なると、ポインターが塗りつぶし状態（●）（●）になります。

調整ネジを時計回りに回すと、ポインターが投写画面の外側へ向かって斜め下方向に移動します。



- • 調整ネジを回すときは、腕や体の影がマーカーに重ならないようにしてください。
- ポインターが塗りつぶされない (○) (○) ときは、タッチユニットとスクリーンが平行になっているかご確認ください。タッチユニットとスクリーンが平行になるように、タッチユニット取り付け金具を調整してください。

10 左右のポインターが塗りつぶし状態 (●) (●) になったら、リモコンの [↔] ボタンを押す

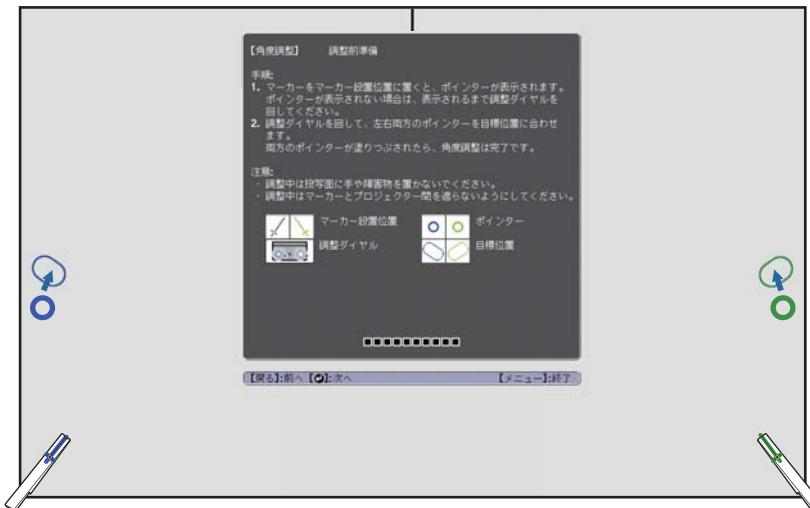
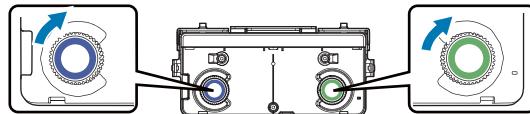
以下の画面が表示されます。



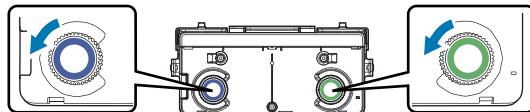
11

タッチユニットの調整ダイヤルを回して、左右のポインター（○）（○）が同じ色の目標位置（○）（○）に重なるように動かす

調整ダイヤルを時計回りに回すと、ポインターが投写画面の中心へ向かって斜め上方向に移動します。



調整ダイヤルを反時計回りに回すと、ポインターが投写画面の外側へ向かって斜め下方向に移動します。



正しい位置に重なると、ポインターが塗りつぶし状態（●）（●）になります。



- ダイヤルからカチカチと音が鳴ったら、ポインターはそれ以上移動しません。
- ダイヤルを回すときは、腕や体の影がマーカーに重ならないようにしてください。

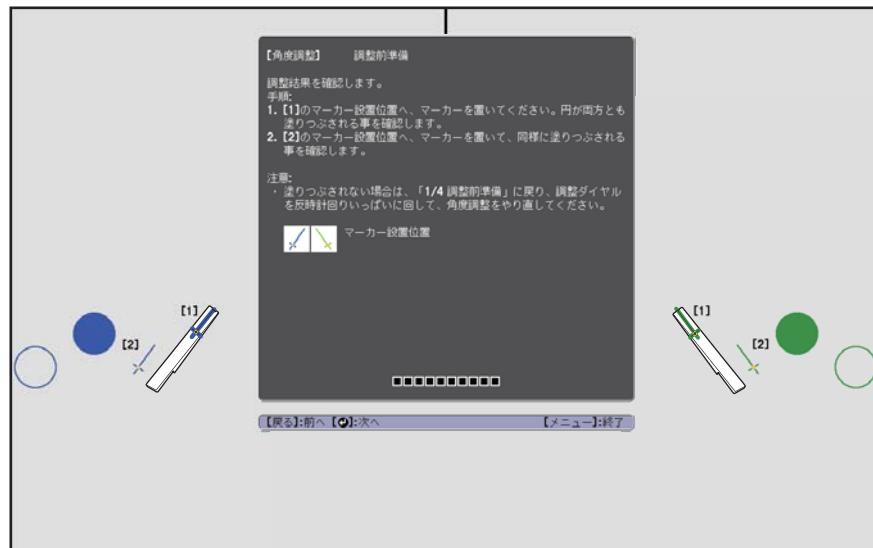
12 左右のポインターが塗りつぶし状態（●）（●）になったら、リモコンの【↔】ボタンを押す

以下の画面が表示されます。



13 上側のマーカー設置位置[1]（↙）（↖）にマーカーを置く

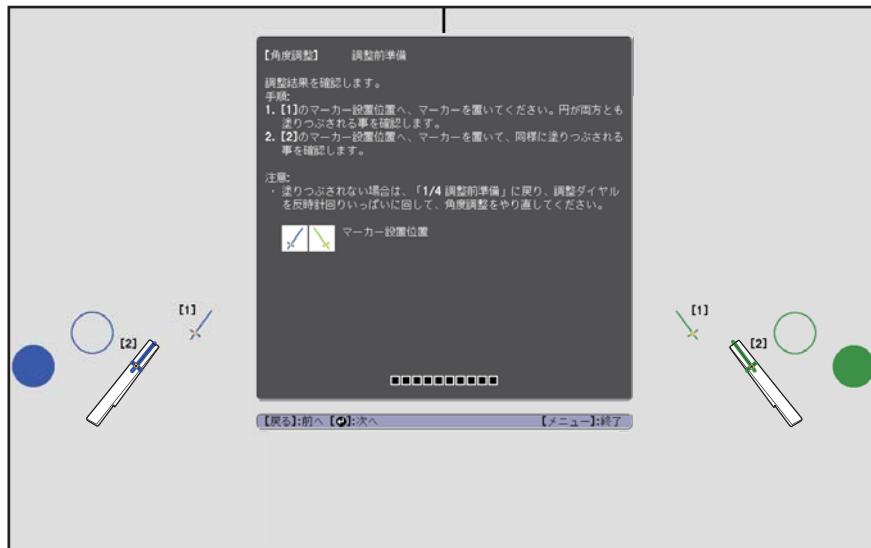
正しく角度調整が行われているときは、上側のポインターが塗りつぶし状態（●）（●）になります。



上側のポインターが塗りつぶし状態（●）（●）にならないときは、手順1からやり直してください。

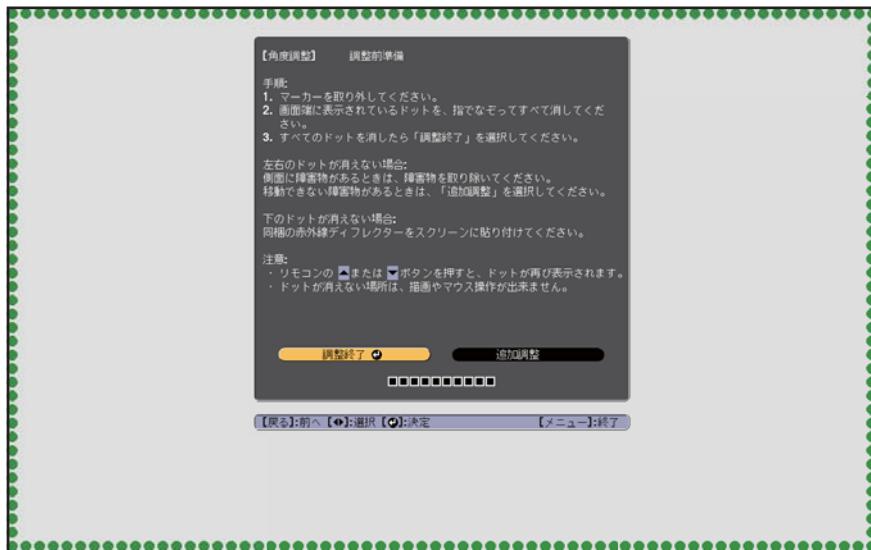
14 下側のマーカー設置位置[2] (✕) (✗) にマーカーを置く

正しく角度調整が行われているときは、下側のポインターが塗りつぶし状態 (●) (●) になります。



下側のポインターが塗りつぶし状態 (●) (●) にならないときは、手順4からやり直してください。

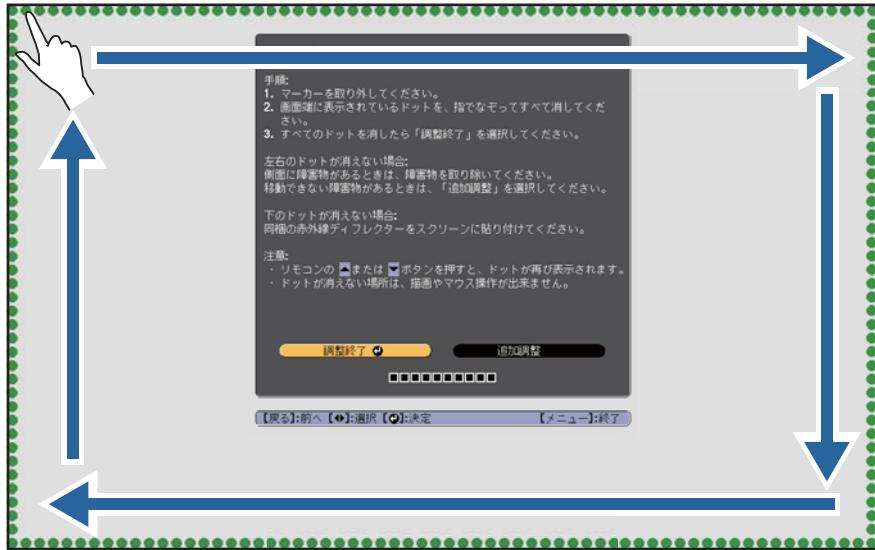
15 確認が終了したらマーカーを取り外し、リモコンの [↔] ボタンを押す 以下の画面が表示されます。



16

指でドット(●)をなぞる

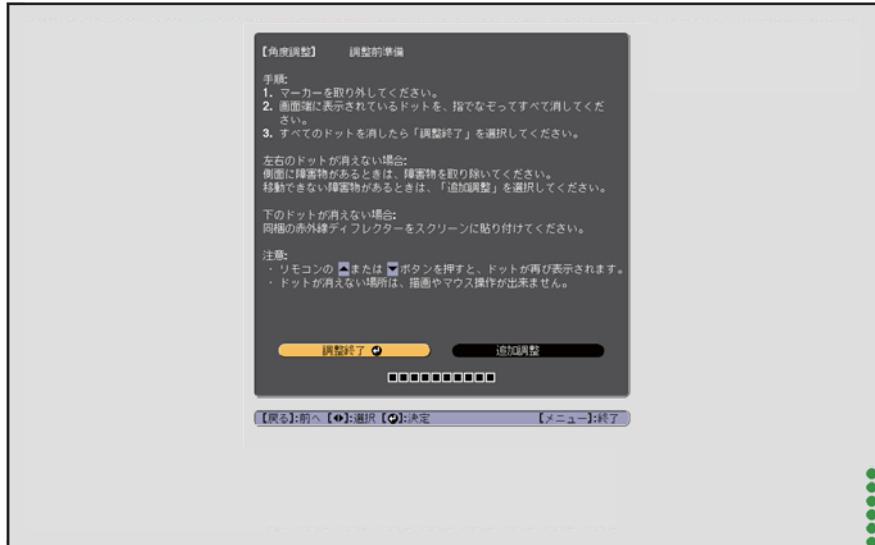
正しく角度調整が行われているときは、指でなぞったドットが消えていきます。



付け爪やマニキュア、包帯等をしている指で操作すると、正しく動作しないことがあります。

すべてのドットが消えたら、[調整終了] を選択してリモコンの【➡】ボタンを押して、手順17へ進んでください。

下図のように一部のドットが消えないときは、以下の点を確認してください。

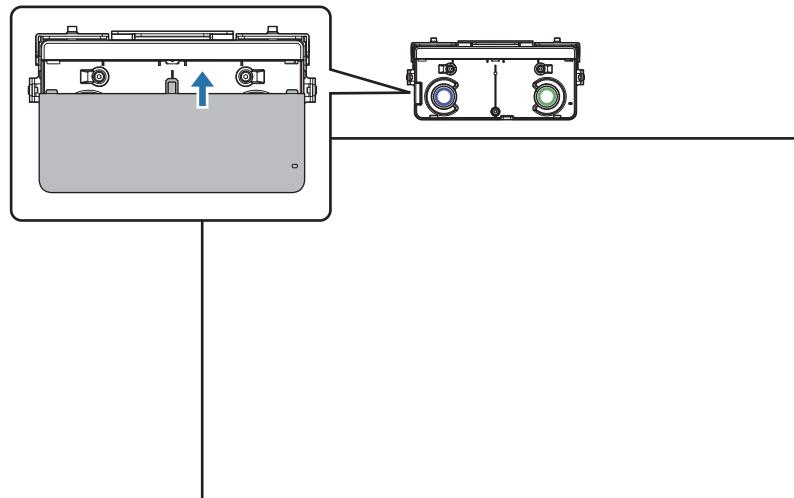


左右のドットが消えない場合：投写画面の左右に障害物があるときは、障害物を取りのぞいてください。障害物を取りのぞいたら、リモコンの【↑】または【↓】ボタンを押して、手順16再度行います。それでもドットが消えないときや、ホワイトボードのトレイやフレームなど、移動できない障害物があるときは、追加調整を行ってください。

☞ 「追加調整」 p.79

17

ダイヤルカバーを取り付けて、ダイヤルカバーアンダーネジを締めて固定する



調整が終了したら指タッチ位置合わせを行います。

●「指タッチ位置合わせ」 p.81

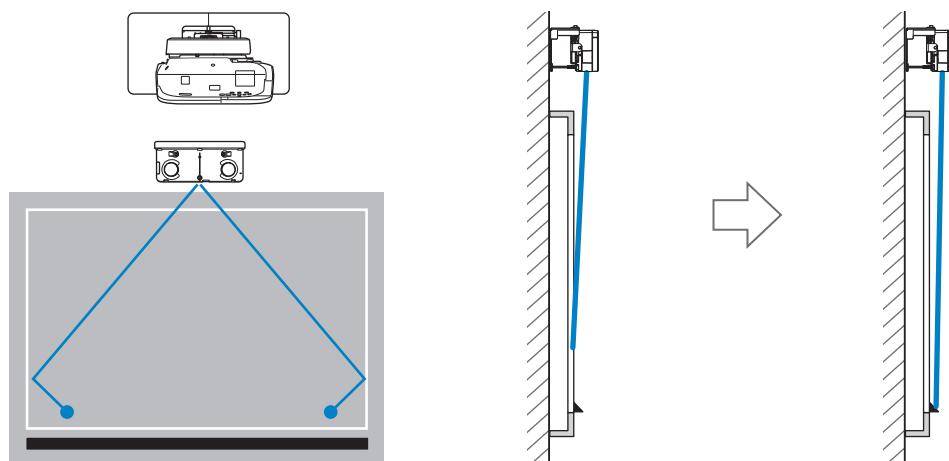


マーカーはなくさないように大切に保管してください。

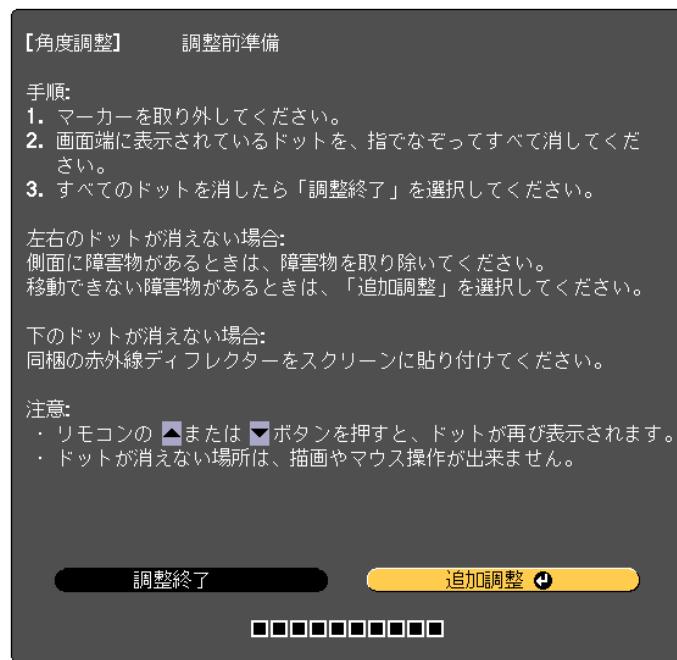
追加調整

角度調整で左右のドットが消えないときは、追加調整を行います。

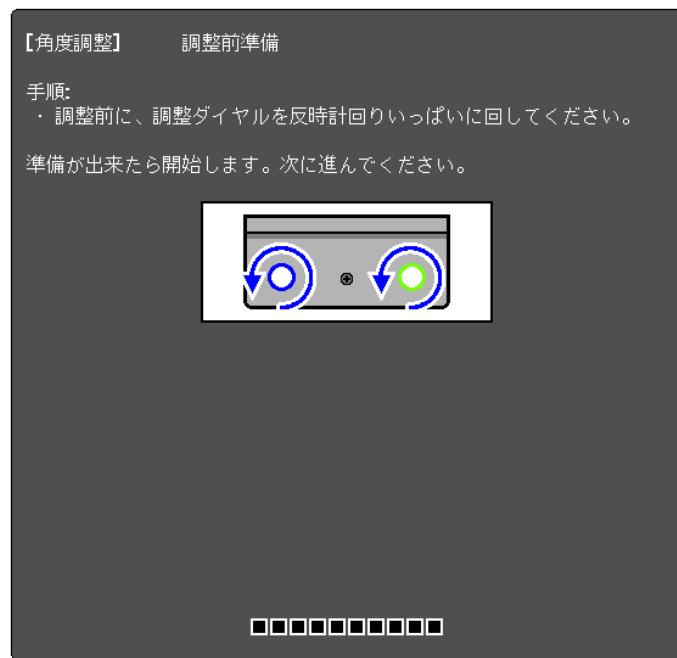
スクリーンのフレームにレーザー光が当たると、スクリーン内に反射して指タッチ操作を正しく行えないことがあります。追加調整は、レーザー光が左右のフレームに当たらないようにレーザー光の高さを調整するための作業です。



1 [追加調整開始] を選択する



以下の画面が表示されます。



以降は、角度調整の手順11以降と同じ手順で調整します。画面の指示に従って調整してください。

☞ 「角度調整」 p.65

調整が終了したら指タッチ位置合わせを行います。

☞ 「指タッチ位置合わせ」 p.81



マーカーはなくさないように大切に保管してください。

■ 指タッチ位置合わせ

プロジェクターが指の位置をより正確に認識できるよう、指タッチ位置合わせを行います。

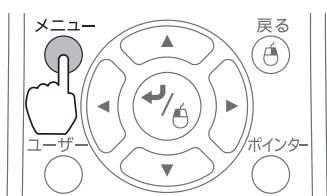


本機を2台並べてインタラクティブ機能を使うときは、指タッチ位置合わせを行う前に以下を確認してください。

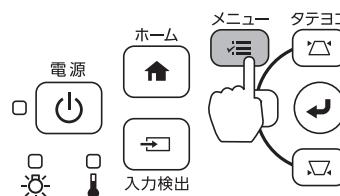
- マルチプロジェクションのインタラクティブ設定が済んでいること
「本機を2台並べてインタラクティブ機能を使う」 p.96
- 2台のプロジェクターとタッチユニットの電源がそれぞれオンになっていること

1 プロジェクターの【メニュー】ボタンを押す

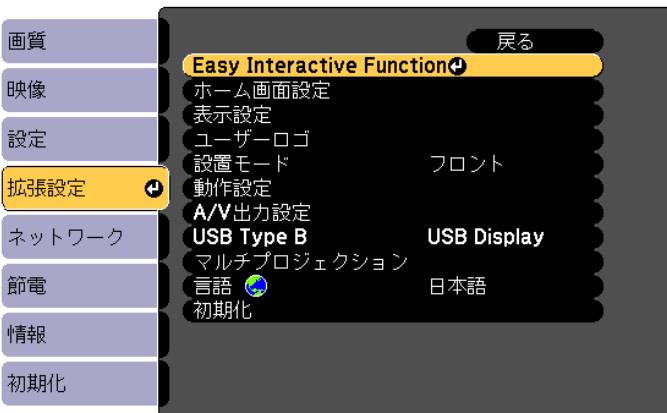
リモコンの場合



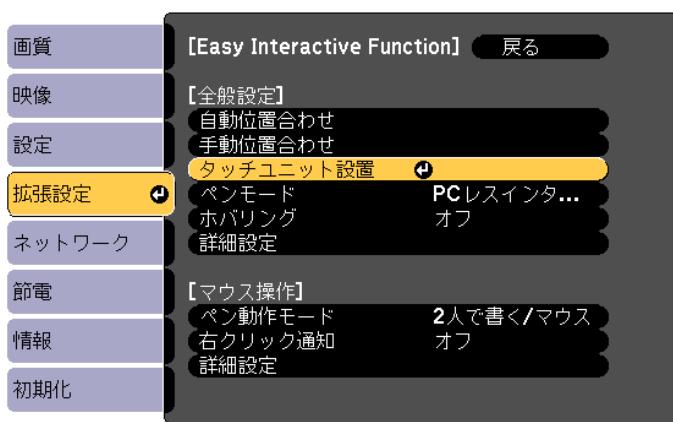
操作パネルの場合



2 [拡張設定] で [Easy Interactive Function] を選択する



3 [タッチユニット設置] を選択する

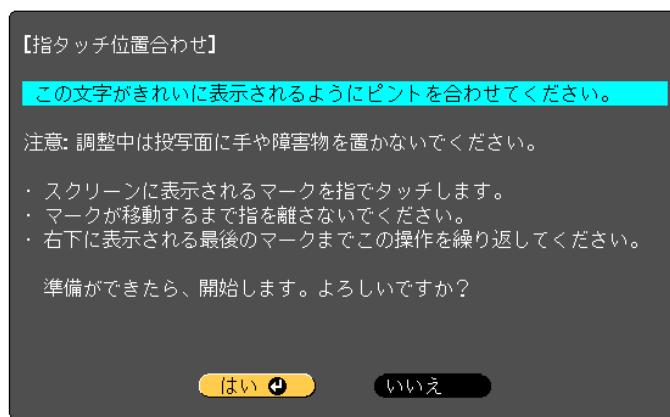


4 [指タッチ位置合わせ] を選択する



ピント調整のメッセージが表示されます。

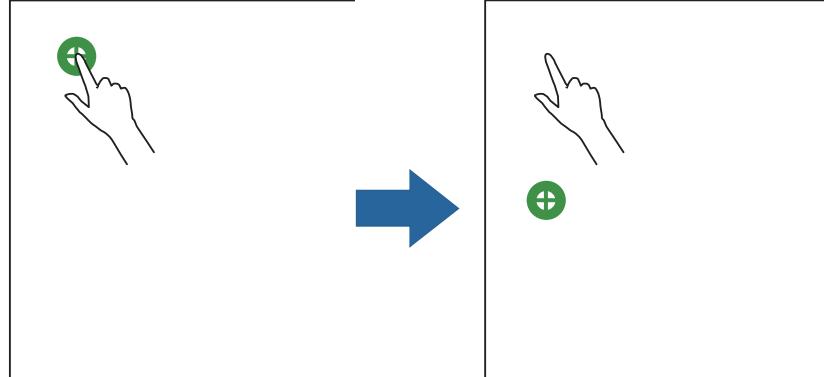
5 ピントが合っていることを確認して、[はい] を選択する



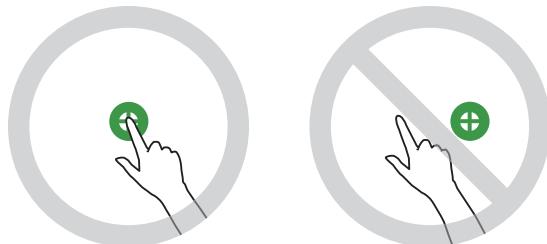
投写画面の左上にドットが表示されます。

6 表示されているドットの中心を指で押す

ドットが消えて次の位置にドットが表示されたら、指を離します。



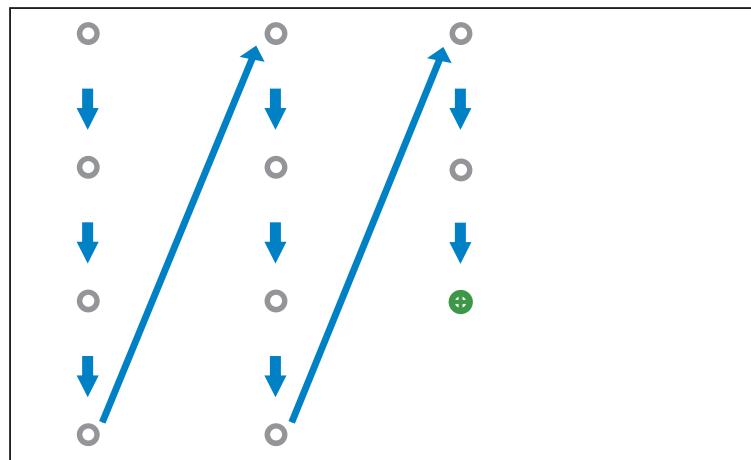
- 必ずドットの中心を押してください。中心以外を押すと位置ずれの原因となります。



- 手の甲など指以外の箇所が触れないようにしてください。

7

すべてのドットが消えるまで、手順6を繰り返す



すべてのドットが消えると、指タッチ位置合わせが完了します。



- 押す位置を間違えたときは、リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押してください。1つ前のドットからやり直せます。2つ以上前のドットからやり直すことはできません。
- 指タッチ位置合わせを中止するときは、【戻る】ボタンを2秒間押します。
- すべてのドットが消えてから指タッチ位置合わせが完了するまで、数秒かかることがあります。

ホワイトボード内に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使わない）

取り付けについて

- タッチユニットの背面にはマグネットが内蔵されています。マグネットをスクリーンに付けるだけでタッチユニットを取り付けられます。
- マグネットが使えないスクリーンには、市販のM4ネジ（3本）を使って取り付けてください。
- タッチユニットは、スクリーン表面と同じ平面に取り付けてください。

■ 取り付け手順

タッチユニットを取り付けて、プロジェクターと接続します。



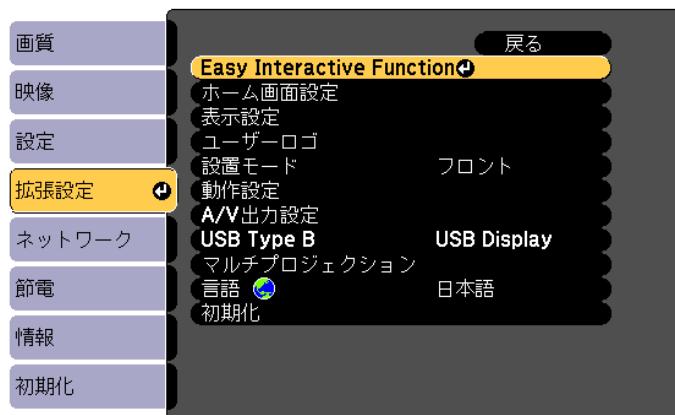
注意

EB-695WT以外のプロジェクターや他の機器にタッチユニットを接続しないでください。

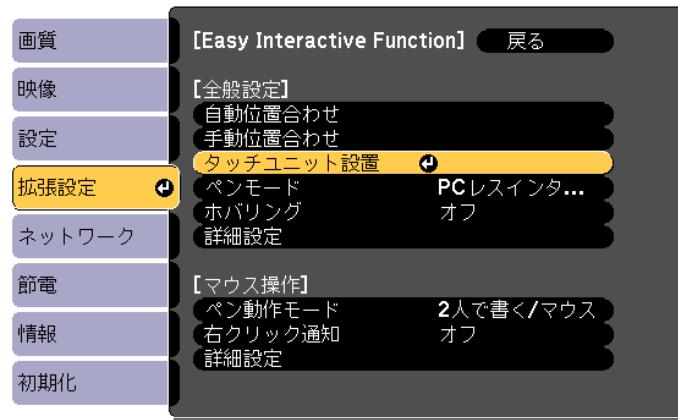
1 プロジェクターの電源をオンにして【メニュー】ボタンを押す



2 [拡張設定] で [Easy Interactive Function] を選択する



3 [タッチユニット設置] を選択する



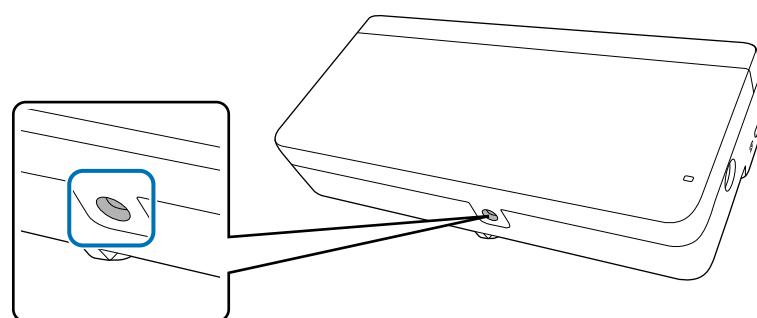
4 [設置パターン] を選択する



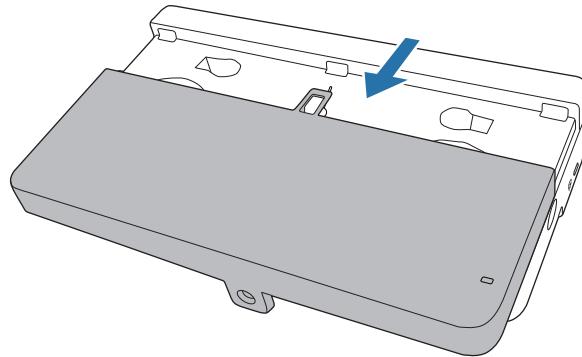
投写画面に設置パターンが表示されます。



5 ダイヤルカバーの下部にあるネジを市販のNo.2のプラスドライバーで緩める



6 ダイヤルカバーを下にスライドさせて外す



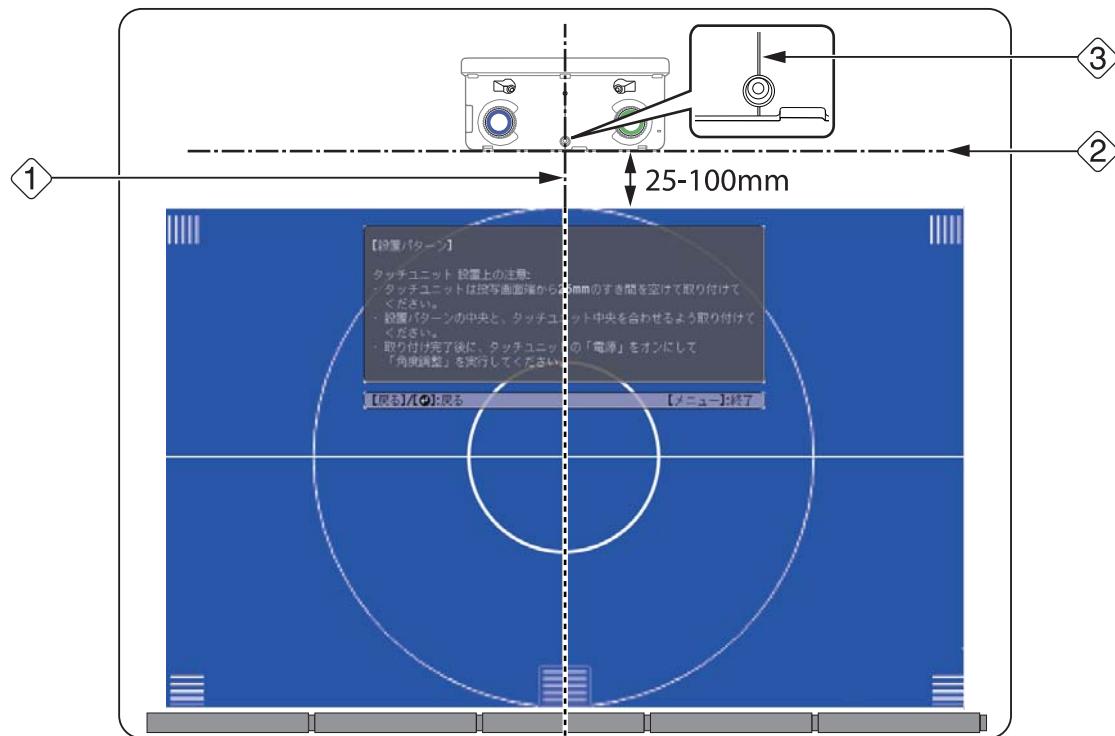
7 タッチユニットの取り付け位置を決める

取り付けやすいように、以下の取り付け位置に印を付けることをお勧めします。

(①) : 設置パターンの中心線です。タッチユニットの中心線 (③) と合わせます。

(②) : 投写画面の上端から25~100mmの高さです。タッチユニットの下端と合わせます。

[単位 : mm]



8

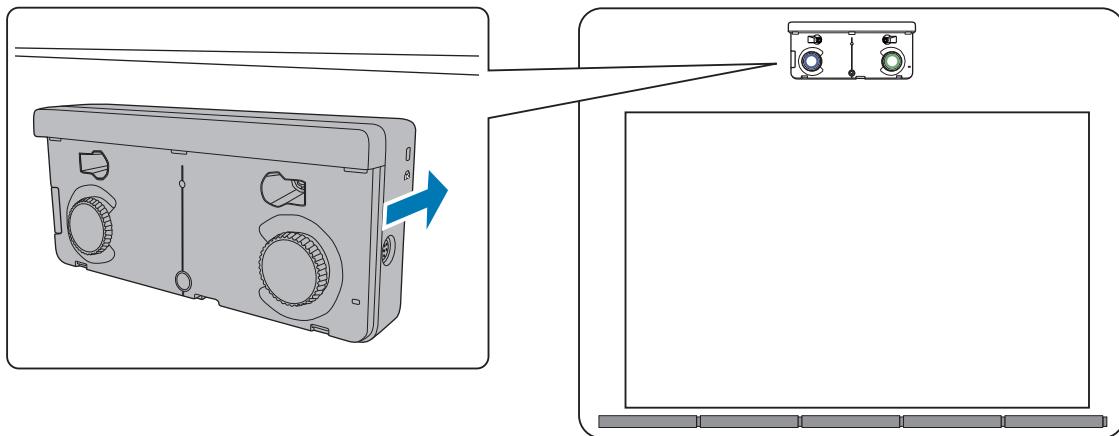
タッチユニットを固定する

- マグネットが使えるスクリーン：タッチユニットの背面を設置面に貼り付けて固定します。

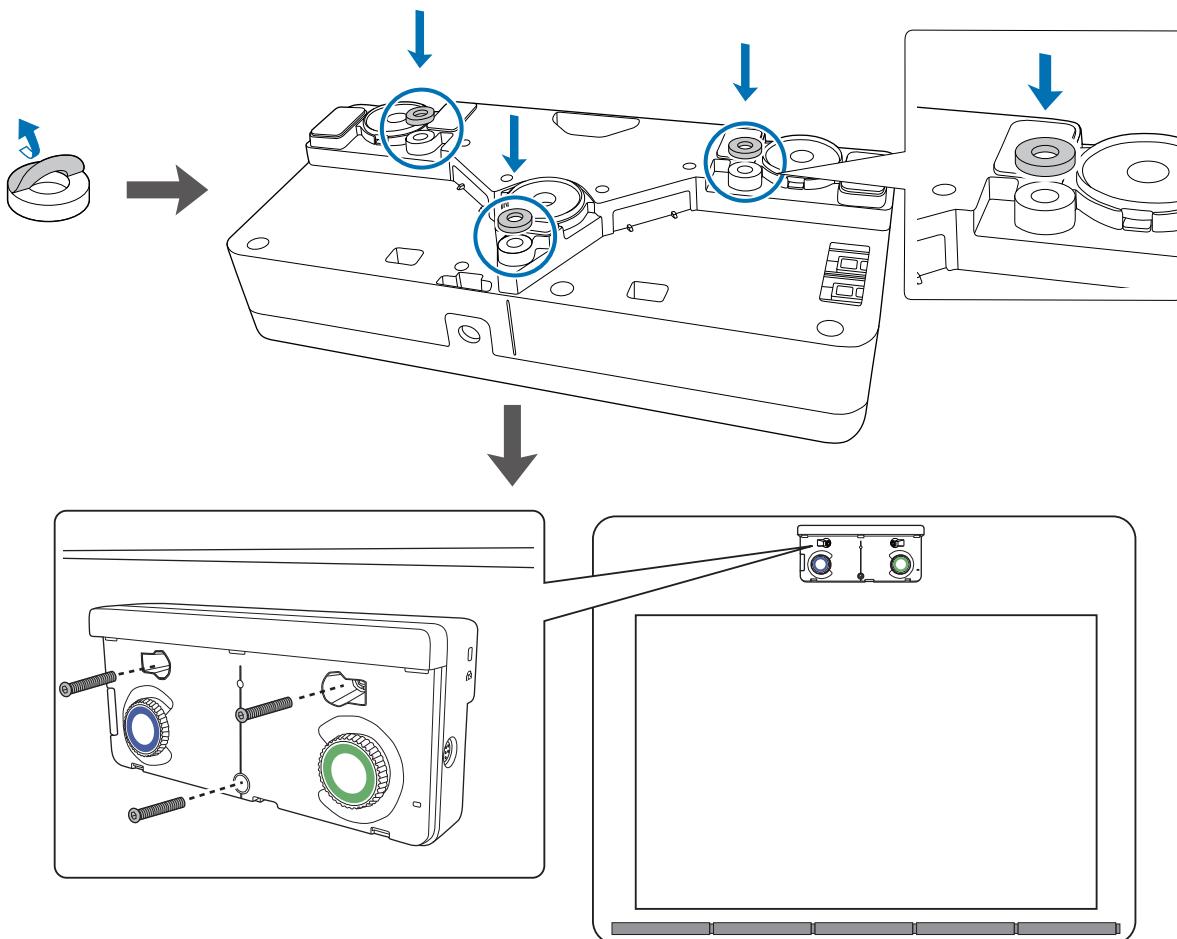


注意

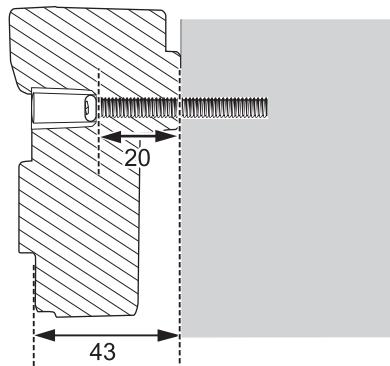
マグネットが使える設置面にタッチユニットを取り付けるときは、マグネットと設置面の間に指や体の一部をはさまないようご注意ください。マグネットと設置面の間には、非常に強い吸引力が働きます。



- マグネットが使えないスクリーン：同梱のスペーサーを貼り付けてから、市販のM4ネジ（3本）で固定します。



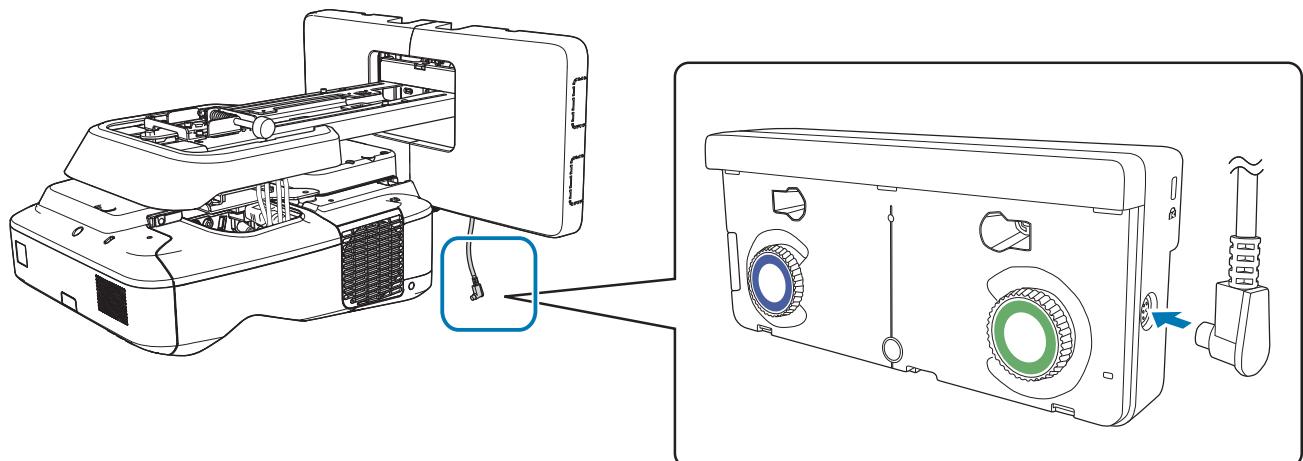
[単位 : mm]



ネジ穴断面図

9

プロジェクターに接続したタッチユニット接続ケーブルを、タッチユニットのTCH端子に接続する

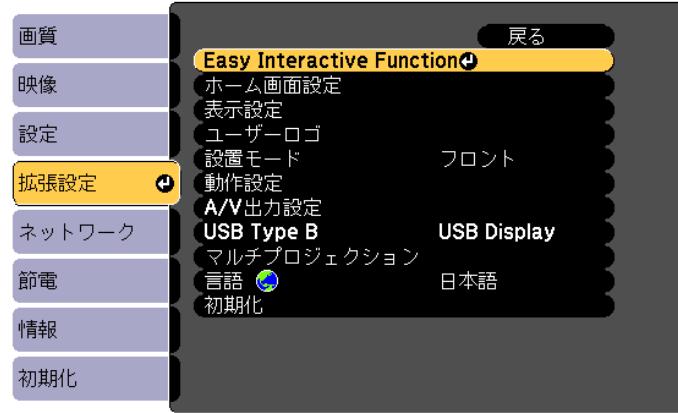


■ 角度調整

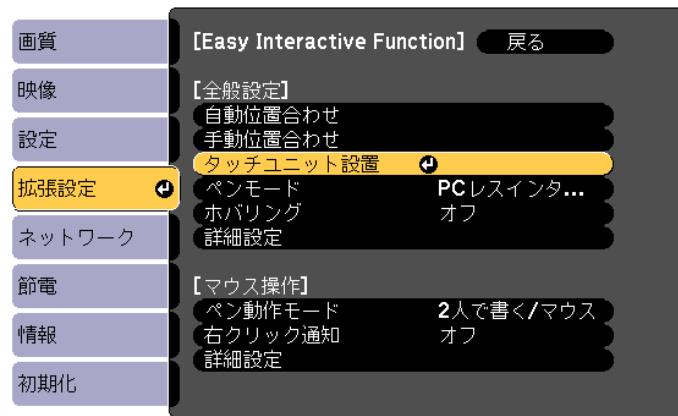
タッチユニットの角度調整を行う手順を説明します。角度調整の詳細は [p.65](#)をご覧ください。

-  • 本機を2台並べてインタラクティブ機能を使うときは、先にマルチプロジェクションの設定をしてください。
 - 👉 「マルチプロジェクション設定」 [p.92](#)
- 角度を調整する前に、インタラクティブペンの位置合わせが終わっていることを確認してください。
 - 👉 「ペン位置合わせ」 [p.52](#)

1 プロジェクターの [拡張設定] メニューから [Easy Interactive Function] を選択する



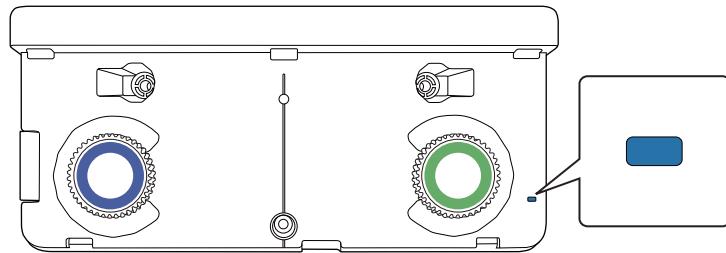
2 [タッチユニット設置] を選択する



3 [電源] を [オン] にする



タッチユニットの電源がオンになり、インジケーターが青色に点灯します。

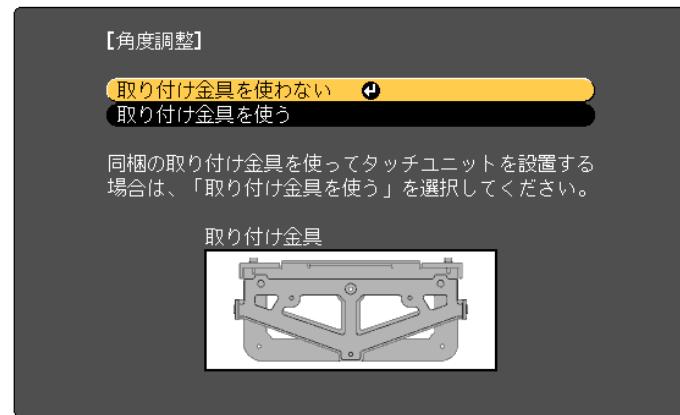


 [電源] を [オン] に設定すると、次回からプロジェクターの電源をオンにしたときにタッチユニットの電源も自動的にオンになります。

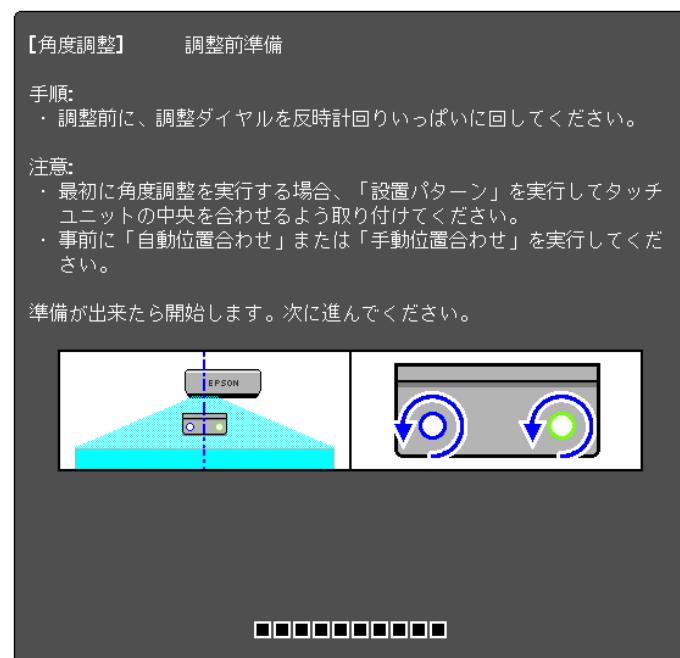
4 [角度調整] を選択する



5 [取り付け金具を使わない] を選択する



以下の画面が表示されます。

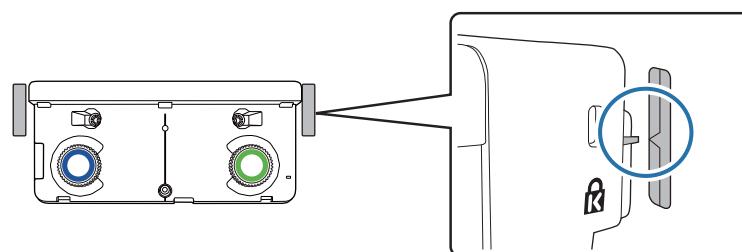


以降の手順は、取り付け金具を使ってホワイトボード外に取り付ける場合の角度調整（手順11以降）と同じ手順です。

「角度調整」 p.65



- タッチユニットをマグネットで取り付けている場合は、タッチユニットの両側のツメに目印ラベルを貼ります。ツメと、目印ラベルの中心を合わせて貼付してください。



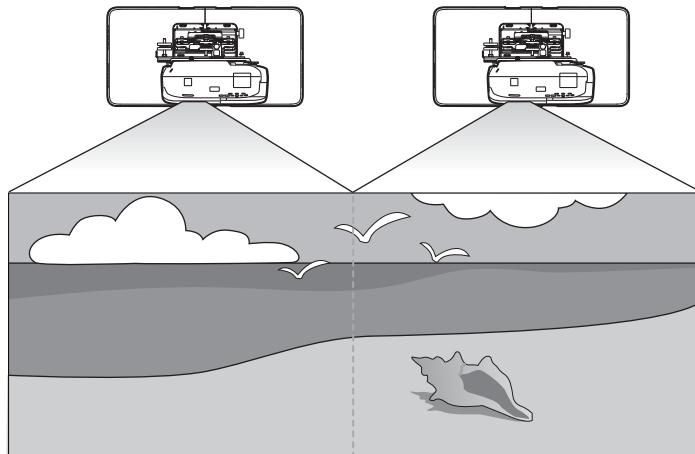
- 使用中にタッチユニットの位置がずれてしまったときは、目印ラベルに合わせてタッチユニットを取り付け直してください。

調整が終了したら指タッチ位置合わせを行います。

「指タッチ位置合わせ」 p.81

本機を複数台並べて設置する（マルチプロジェクション）

複数台のプロジェクターを並べて設置して、1つの大きな画面を投写できます（マルチプロジェクション）。



本機を複数台並べて設置するときの流れは、以下でご確認ください。（☞「設置の流れ」 p.10）

- 1台のコンピューターの画面を投写する場合、以下の準備が必要です。設定方法はお使いのコンピューターの取扱説明書をご確認ください。
 - 1台のコンピューターから、2台のプロジェクターそれぞれにケーブルを接続する（コンピューター側に、映像出力端子が2つ必要です）
 - 1台のコンピューターから複数の画面に映像を出力するよう設定する

マルチプロジェクション設定

マルチプロジェクション機能を使うときは、以下の手順で設定を行います。

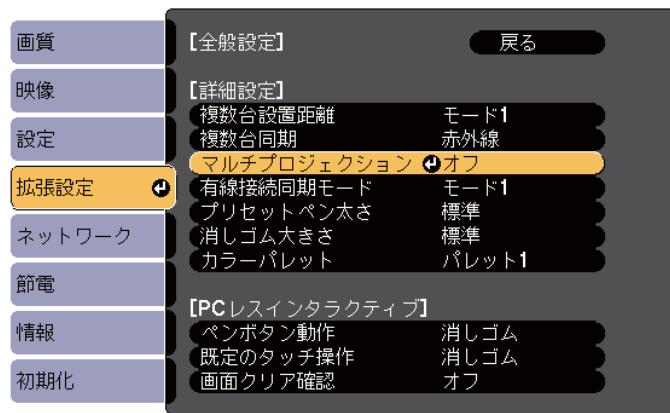
- 1 プロジェクターIDの設定（☞ p.92）
- 2 マルチプロジェクションの映像調整（☞ p.95）

■ プロジェクターID の設定

- 1 プロジェクターの電源をオンにして【メニュー】ボタンを押す



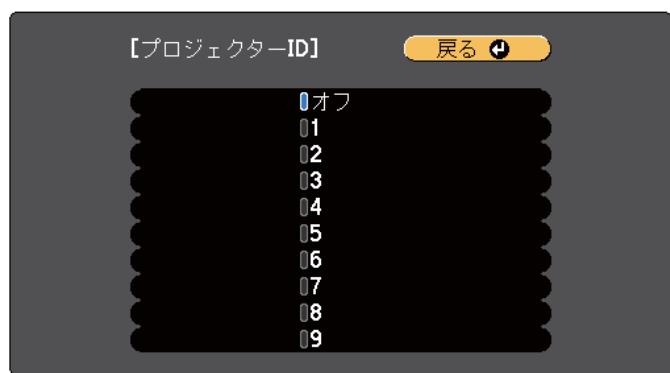
2 [拡張設定] で [マルチプロジェクトション] を選択する



3 [プロジェクターID] を選択する



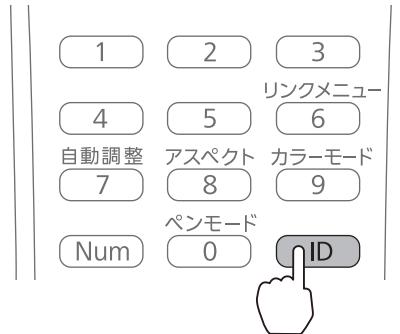
4 対象のプロジェクターに設定するID番号を選択する



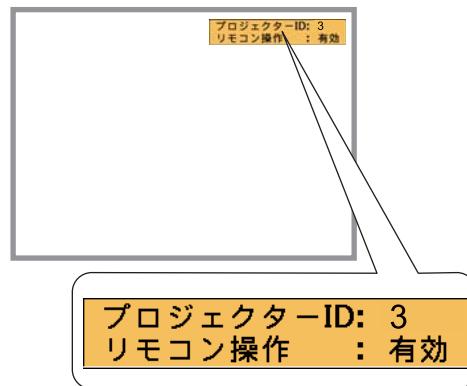
5 【メニュー】ボタンを押してメニューを終了する

残りのプロジェクターについて、手順1～5を繰り返します

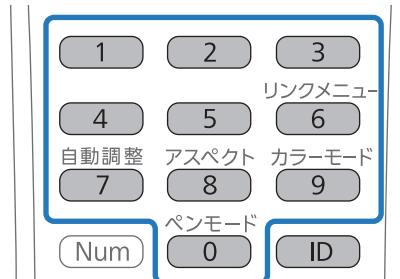
6 操作対象のプロジェクターにリモコンを向けて、【ID】ボタンを押す



プロジェクターに設定されたIDが投写画面に表示されます。表示は約3秒後に消えます。



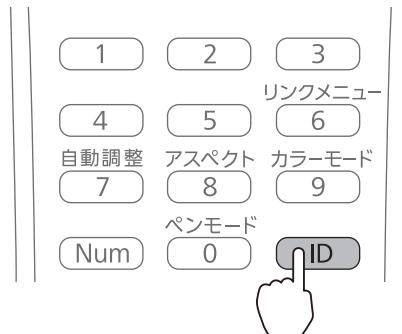
7 【ID】ボタンを押したまま、操作対象のプロジェクターIDと同じ数字のボタンを押す



選択したIDが設定されたプロジェクターのリモコン操作が有効になります。

8

【ID】ボタンを押して、IDの設定を確認する



以下が表示されます。

- リモコン操作：[有効] と表示：現在操作中のプロジェクターでリモコン操作ができるよう設定されています。
- リモコン操作：[無効] と表示：リモコン操作ができないように設定されています。上記の手順を繰り返して、リモコン操作を有効にしてください。



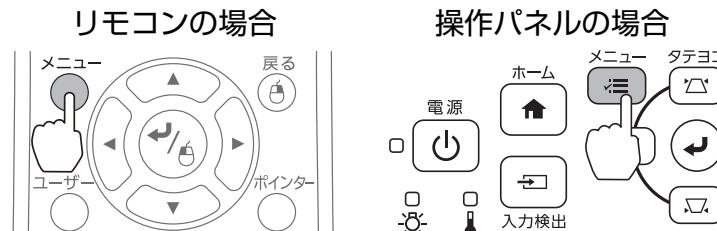
- 操作対象のプロジェクターIDは、プロジェクターの電源を入れるたびに選択する必要があります。電源投入時、リモコンのID設定は0になっています。
- [プロジェクターID] を [オフ] に設定しているときは、リモコンで選択したID設定に関わらず、プロジェクターをリモコンで操作できます。
- リモコンでIDを0に選択したときは、プロジェクターIDの設定に関わらず、すべてのプロジェクターを操作できます。

マルチプロジェクションの映像調整

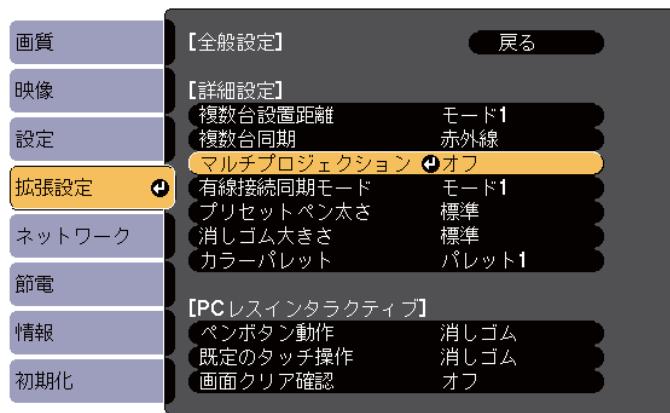
- プロジェクターの位置調整が終わっていることを確認してください。
 - 「プロジェクターの位置調整」 [p.43](#)
- マルチプロジェクションで投写している映像のズレが気になるときは、湾曲補正をお試しください。
 - 「湾曲補正」 [p.51](#)

1

プロジェクターの電源をオンにして【メニュー】ボタンを押す



2 [拡張設定] で [マルチプロジェクトション] を選択する



3 [マルチプロジェクトション] を [オン] に設定する



【戻る】ボタンを押して、一つ前の画面に戻ります。

4 各設定を行う

[カラー モード]

それぞれのプロジェクターで同じ項目を設定します。

[ユニフォーミティ]

画面全体の色味のバランスを調整します（必要な場合のみ）。

[明るさ レベル]

ランプ個体の明るさがそれぞれ異なるときに、ランプの明るさを1～5のレベルで調整します。一番暗いランプを基準に調整してください。[節電] メニューの [明るさ切替] を [高] に設定しているときのみ調整可能です。

[カラーマッチング]

全白から全黒の間で階調ごとに色味と明るさを調整します。

本機を2台並べてインタラクティブ機能を使う

本機を2台並べてインタラクティブ機能を使うときは、マルチプロジェクトションの映像調整後、以下の手順で設定を行います。設定は1台ずつ行います。2台同時に設定はできません。

1 プロジェクター同期設定 (☞ p.97)

2 マルチプロジェクトションのインタラクティブ設定 (☞ p.98)



2台の映像が重なっていると、インタラクティブ機能が正しく動作しません。

■ プロジェクターの同期設定を行う

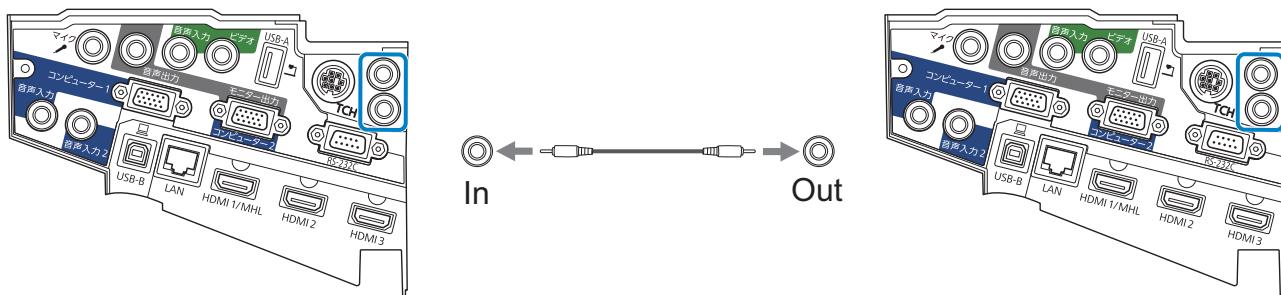
マルチプロジェクションでインタラクティブ機能を使うときは、赤外線の干渉によりインタラクティブペンの動作が不安定になることがあります。インタラクティブペンの動作を安定させるために、以下の設定を行います。設定前に、2台のプロジェクターの設置が終わっていることを確認してください。

☞ 「セッティングプレートの取り付け」 p.29

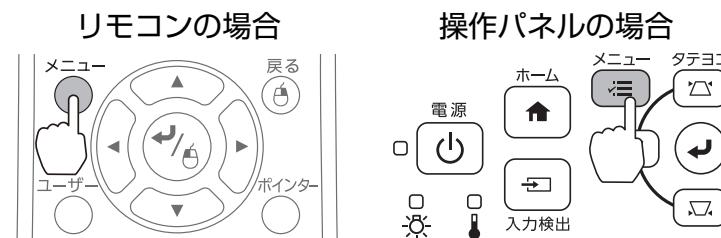
1 オプションのワイヤードリモコンケーブル (ELPKC28) で各プロジェクターの SYNC 端子を直列に接続する

プロジェクター同士をケーブルで接続すると、インタラクティブペンの動作が安定します。

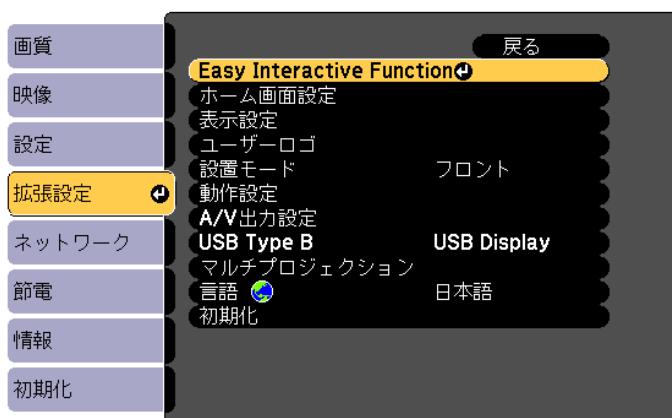
SYNC端子にはINとOUTの2種類があります。ワイヤードリモコンケーブルの一方の端子をINに接続したときは、もう一方の端子をOUTに接続してください。



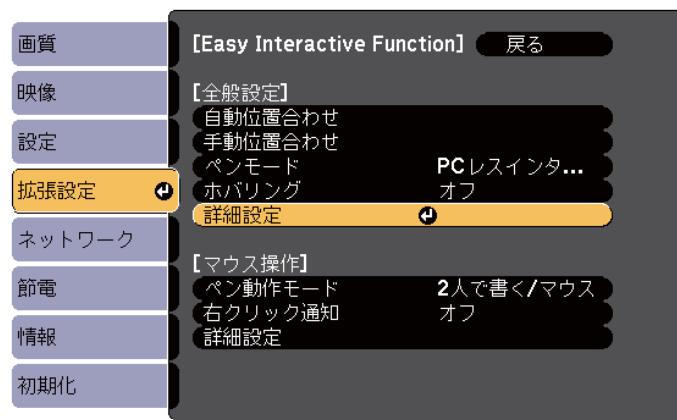
2 プロジェクターの電源をオンにして【メニュー】ボタンを押す



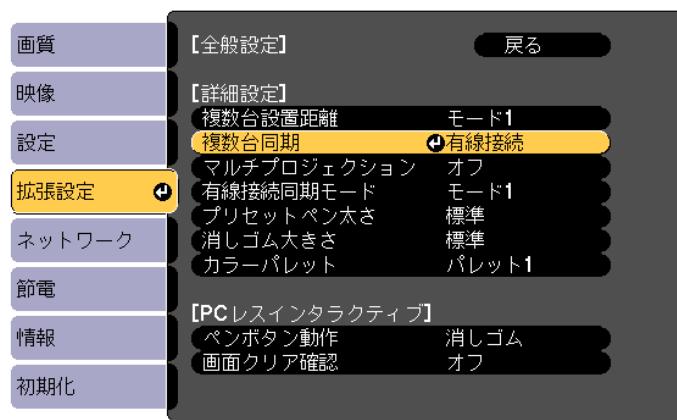
3 [拡張設定] で [Easy Interactive Function] を選択する



4 [詳細設定] を選択する



5 [複数台同期] を [有線接続] にする



マルチプロジェクションのインタラクティブ設定

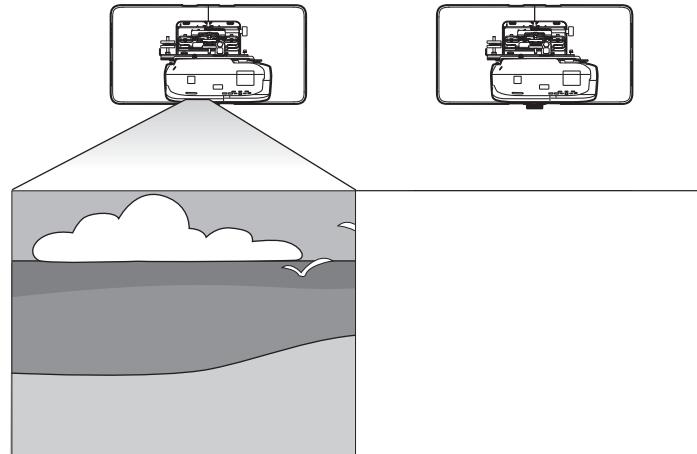
マルチプロジェクションのインタラクティブ設定を行う前に、マルチプロジェクションの映像調整が終わっていることを確認してください。インタラクティブ設定後に映像調整を行うと、ペン位置がずれことがあります。

☞ 「マルチプロジェクションの映像調整」 p.95

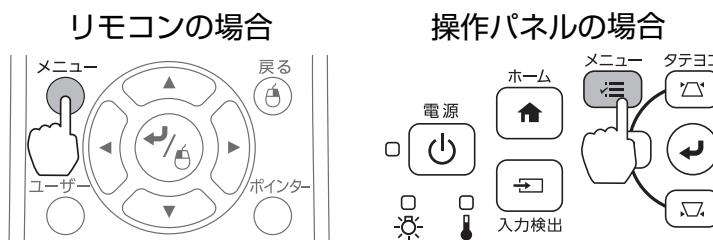
タッチユニットを使用する場合と使用しない場合で、設定の手順が異なります。

タッチユニットを使用しない場合

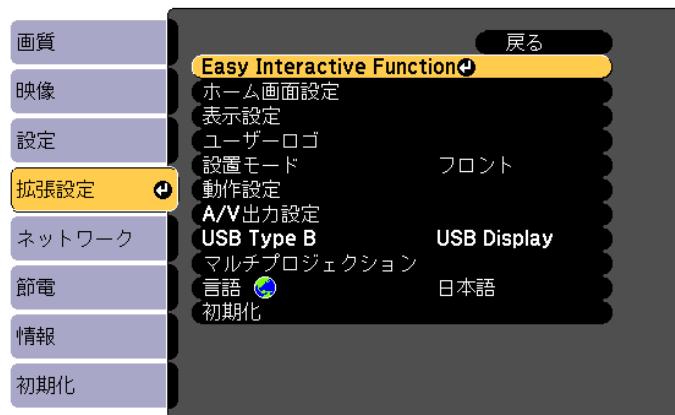
- 左側のプロジェクターの電源をオンにして、右側のプロジェクターの電源をオフにする



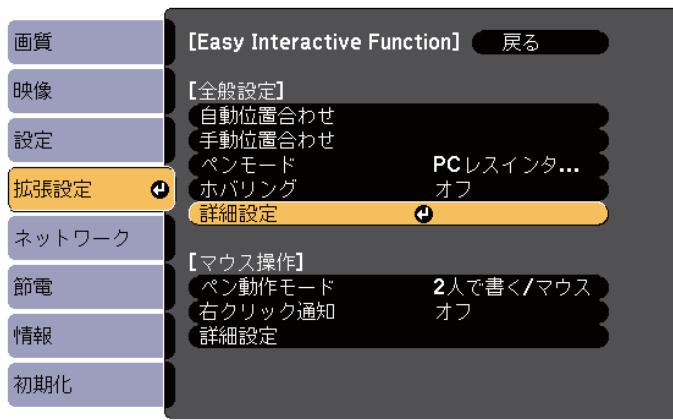
- 【メニュー】ボタンを押す



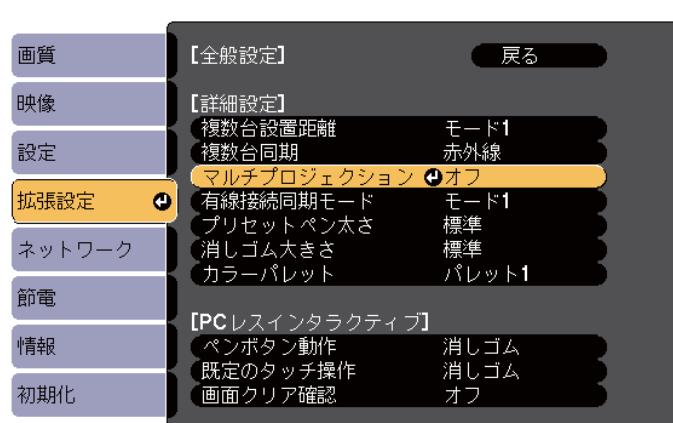
- [拡張設定] で [Easy Interactive Function] を選択する



4 [全般設定] の [詳細設定] を選択する



5 [マルチプロジェクション] を選択する



6 [左側] を選択する



7 ペン位置合わせを行う (☞ p.52)

8 左側のプロジェクターの電源をオフにする

9 右側のプロジェクターの電源をオンにして、手順2～5に沿って操作する

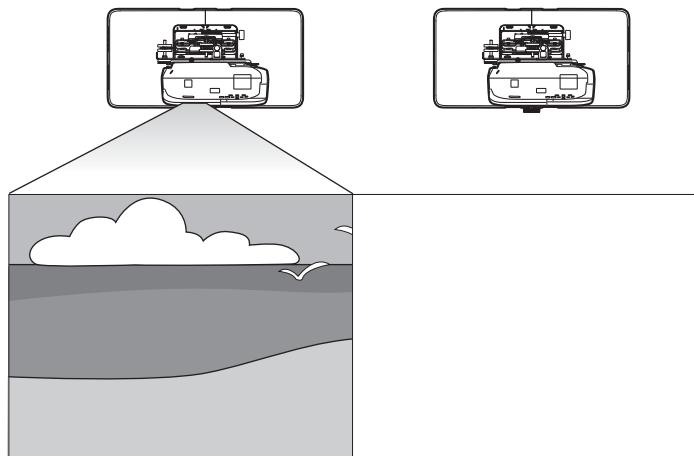
10 [マルチプロジェクション] で [右側] を選択する



11 ペン位置合わせを行う (☞ p.52)

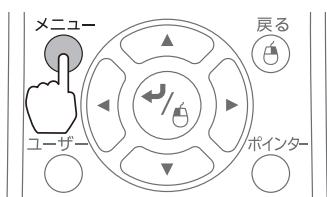
タッチユニットを使用する場合 (EB-695WTのみ)

1 左側のプロジェクターの電源をオンにして、右側のプロジェクターの電源をオフにする

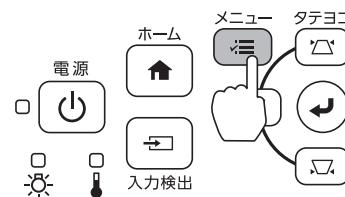


2 【メニュー】ボタンを押す

リモコンの場合

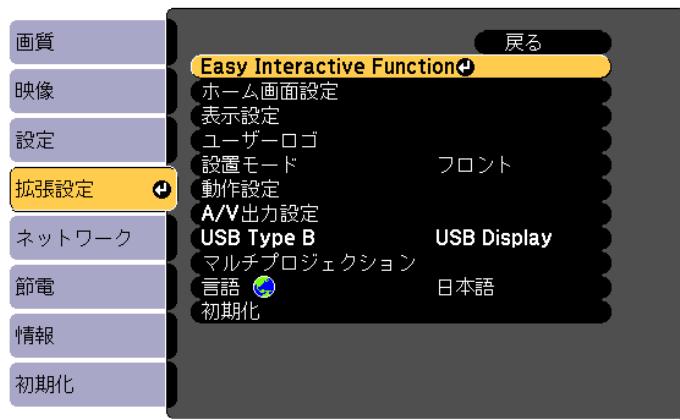


操作パネルの場合



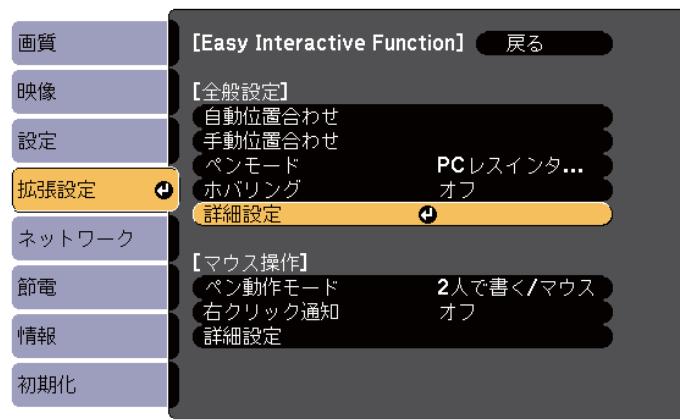
3

[拡張設定] で [Easy Interactive Function] を選択する



4

[全般設定] の [詳細設定] を選択する



5

[マルチプロジェクション] を選択する



6 [左側] を選択する



7 ペン位置合わせを行う (☞ p.52)

8 タッチユニットの取り付けと角度調整を行う

タッチユニットを取り付ける位置によって、手順が異なります。

ホワイトボードの外に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使う）

- 1 タッチユニットの取り付け (☞ p.59)
- 2 レーザー照射の角度調整 (☞ p.65)

ホワイトボード内に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使わない）

- 1 タッチユニットの取り付け (☞ p.84)
- 2 レーザー照射の角度調整 (☞ p.88)

9 左側のプロジェクターの電源をオフにする

10 右側のプロジェクターの電源をオンにして、手順2~5に沿って操作する

11 [マルチプロジェクション] で [右側] を選択する



12 ペン位置合わせを行う (☞ p.52)

13 タッチユニットの取り付けと角度調整を行う

タッチユニットを取り付ける位置によって、手順が異なります。

- ホワイトボードの外に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使う）
 - タッチユニットの取り付け (☞ p.59)
 - レーザー照射の角度調整 (☞ p.65)
- ホワイトボード内に取り付ける場合（タッチユニット取り付け金具を使わない）
 - タッチユニットの取り付け (☞ p.84)
 - レーザー照射の角度調整 (☞ p.88)

14 左側と右側、両方のプロジェクターの電源をオンにする

15 1台ずつ、指タッチ位置合わせを行う (☞ p.81)



一括設定機能

1台のプロジェクターで設定したプロジェクターメニューの内容を、他の複数のプロジェクターに一括で設定できます（一括設定機能）。一括設定機能は同じ型番のプロジェクター間でのみ使用できます。以下のいずれかの方法で設定します。

- USBメモリーを使って設定する。
- コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する。
- EasyMP Network Updaterを経由して設定する。

本書では、USBメモリーを使う方法とUSBケーブルを使う方法を説明します。



- 以下の内容は一括設定機能では反映されません。
 - ネットワークメニューの設定（通知メニュー、その他メニューを除く）
 - 情報メニューのランプ点灯時間、ステータス
- プロジェクターの位置調整を行う前に一括設定を行ってください。一括設定機能では、台形補正などの投写画面の調整値も反映されます。プロジェクターの位置調整後に一括設定を行うと、調整した投写画面が変わってしまうことがあります。
- 一括設定機能を使うと、登録してあるユーザーロゴも他のプロジェクターに反映されます。機密情報などをユーザーロゴとして登録しないでください。



注意

一括設定は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因で一括設定に失敗したときは、修理費用が有償となることがあります。

USBメモリーを使って設定する

USBメモリーを使って一括設定を行う方法を説明します。



- FAT 形式でフォーマットしたUSBメモリーを使用してください。
- セキュリティー機能が付いているUSBメモリーでは、一括設定機能が利用できません。セキュリティー機能の付いていないUSBメモリーをお使いください。
- USBカードリーダーやUSBハードディスクでは、一括設定機能は利用できません。

■ 設定値をUSBメモリーに保存する

1 プロジェクターから電源コードを抜いて、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認する

2 USBメモリーをプロジェクターのUSB-A端子に接続する

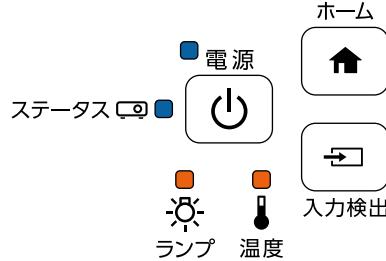


- USB メモリーは、プロジェクターに直接接続してください。USB ハブを介してUSB メモリーを接続すると、設定値の保存が正常に行われないことがあります。
- 空のUSBメモリーを接続してください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定値が正しく保存できないことがあります。
- USBメモリー内に他のプロジェクターの一括設定ファイルを保存しているときは、ファイルを削除するかファイル名を変更してください。一括設定機能では、一括設定ファイルの上書きはできません。
- 一括設定したファイルのファイル名はPJCONFDATA.binです。ファイル名を変更するときはPJCONFDATAの後ろに任意の文字列を追加してください。他のファイル名に変更すると、プロジェクターが正しく認識できないことがあります。
- 2バイト以上の文字は、ファイル名に使えません。

3 リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押したまま、プロジェクターに電源コードを接続する

ステータスインジケーターと電源インジケーターが青色に、ランプインジケーターと温度インジケーターが橙色に、それぞれ点灯します。

プロジェクターのインジケーターがすべて点灯したら、【戻る】ボタンを離してください。

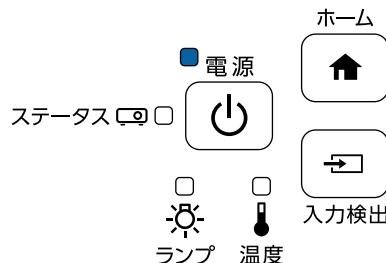


すべてのインジケーターが点滅に変わると、一括設定ファイルの書き込みが始まります。

⚠ 注意

- ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜かないでください。電源コードを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。
- ファイルの書き込み中は、プロジェクターからUSBメモリーを抜かないでください。USBメモリーを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

書き込みが正常に終了すると、プロジェクターの電源がオフになり、電源インジケーターのみが青色に点灯します。



プロジェクターの電源がオフになったら、USBメモリーを抜きます。

■ 保存した設定値を他のプロジェクターに反映する

1 プロジェクターから電源コードを抜いて、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認する

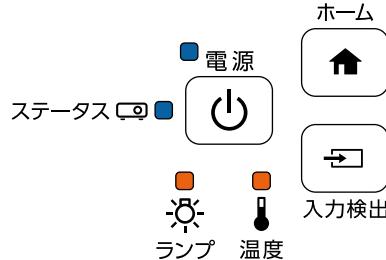
2 一括設定ファイルを保存したUSBメモリーを、プロジェクターのUSB-A端子に接続する

- • USBメモリー内に一括設定ファイルが1～3種類あるとき、同じ型番のプロジェクターのファイルを反映します。同じ型番のプロジェクターのファイルが2つ以上あるときは、設定値が正常に反映できないことがあります。
- USBメモリー内に4種類以上の一括設定ファイルがあるとき、設定値が正常に反映できないことがあります。
- USBメモリーには一括設定ファイル以外のデータを入れないでください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定値が正しく反映できないことがあります。

3 リモコンまたは操作パネルの【メニュー】ボタンを押したまま、プロジェクターに電源コードを接続する

ステータスインジケーターと電源インジケーターが青色に、ランプインジケーターと温度インジケーターが橙色に、それぞれ点灯します。

プロジェクターのインジケーターがすべて点灯したら、【メニュー】ボタンを離してください。インジケーターは約75秒点灯します。

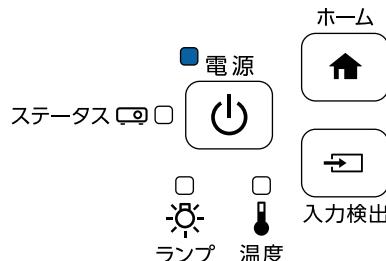


すべてのインジケーターが点滅に変わると、設定値の書き込みが始まります。

注意

- 設定値の書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜かないでください。電源コードを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。
- 設定値の書き込み中は、プロジェクターからUSBメモリーを抜かないでください。USBメモリーを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

書き込みが正常に終了すると、プロジェクターの電源がオフになり、電源インジケーターのみが青色に点灯します。



プロジェクターの電源がオフになったら、USBメモリーを抜きます。

コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する

 一括設定機能の対応OSは以下のとおりです。

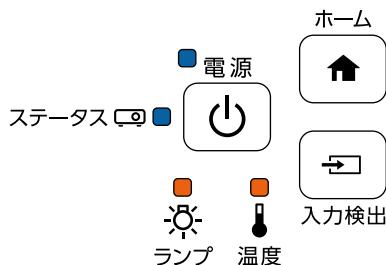
- Windows Vista以降
- Mac OS X 10.7.x以降

■ 設定値をコンピューターに保存する

- 1 プロジェクターから電源コードを抜いて、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認する
- 2 コンピューターのUSB 端子とプロジェクターのUSB-B 端子をUSB ケーブルで接続する
- 3 リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押したまま、プロジェクターに電源コードを接続する

ステータスインジケーターと電源インジケーターが青色に、ランプインジケーターと温度インジケーターが橙色に、それぞれ点灯します。

プロジェクターのインジケーターがすべて点灯したら、【戻る】ボタンを離してください。



コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

- 4 リムーバブルディスクを開き、一括設定ファイル（PJCONFDATA.bin）をコンピューターに保存する

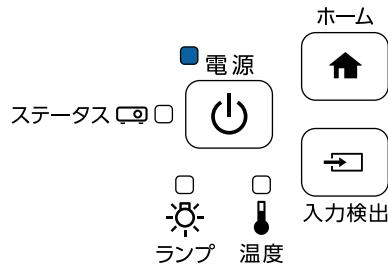
 一括設定ファイルのファイル名を変更するときはPJCONFDATAの後に任意の文字列を追加してください。他のファイル名に変更すると、正しく認識できないことがあります。2バイト以上の文字は、ファイル名に使えません。

5 コンピューター上で「USBデバイスの取り外し」を行ってから、USBケーブルを抜く



OS Xをお使いの場合は、「"EPSON_PJ"の取り出し」を行ってください。

プロジェクターの電源がオフになり、電源インジケーターのみが青色に点灯します。

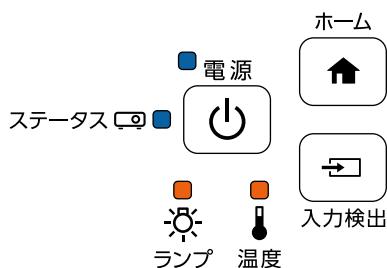


■ 保存した設定値を他のプロジェクターに反映する

- 1** プロジェクターから電源コードを抜いて、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認する
- 2** コンピューターのUSB端子とプロジェクターのUSB-B端子をUSBケーブルで接続する
- 3** リモコンまたは操作パネルの【メニュー】ボタンを押したまま、プロジェクターに電源コードを接続する

ステータスインジケーターと電源インジケーターが青色に、ランプインジケーターと温度インジケーターが橙色に、それぞれ点灯します。

プロジェクターのインジケーターがすべて点灯したら、【メニュー】ボタンを離してください。



コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

- 4** コンピューターに保存した一括設定ファイル (PJCONFDATA.bin) をリムーバブルディスクの最上位フォルダーにコピーする

 リムーバブルディスク上に、一括設定ファイル以外のファイルやフォルダーをコピーしないでください。

5 コンピューター上で「USBデバイスの取り外し」を行ってから、USBケーブルを抜く



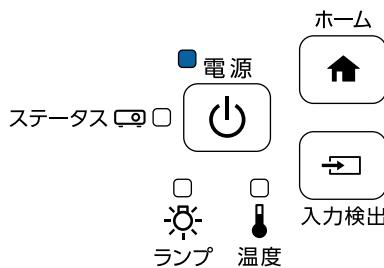
OS Xをお使いの場合は、「"EPSON_PJ"の取り出し」を行ってください。

すべてのインジケーターが点滅すると、設定値の書き込みが始まります。

⚠ 注意

設定値の書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜かないでください。電源コードを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

書き込みが正常に終了すると、プロジェクターの電源がオフになり、電源インジケーターのみが青色に点灯します。



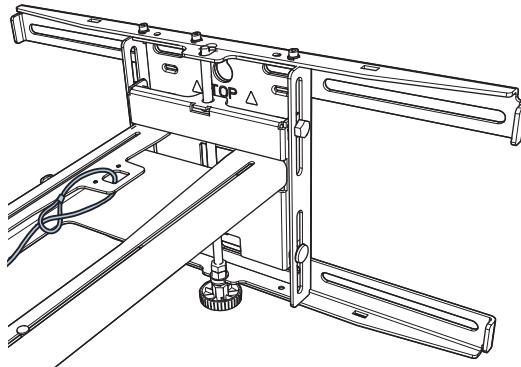
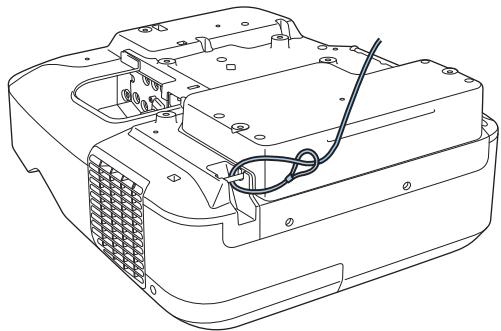
設定がうまくいかないときは

確認	対処法
ランプインジケーター、温度インジケーターが、橙色に速く点滅していませんか？	一括設定ファイルに異常があるか、USBメモリーまたはUSBケーブルが正しく接続できていない可能性があります。USBメモリーまたはUSBケーブルを取り外し、プロジェクターの電源コードを抜いて差し直してから、もう一度お試しください。
電源インジケーターとステータスインジケーターが青色に、ランプインジケーターと温度インジケーターが橙色に、それぞれ速く点滅していませんか？	設定値の書き込みに失敗して、プロジェクターのファームウェアに異常が生じた可能性があります。ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。

セキュリティーケーブルの取り付け

本製品には、市販の盗難防止用ワイヤーロックを取り付けられます。

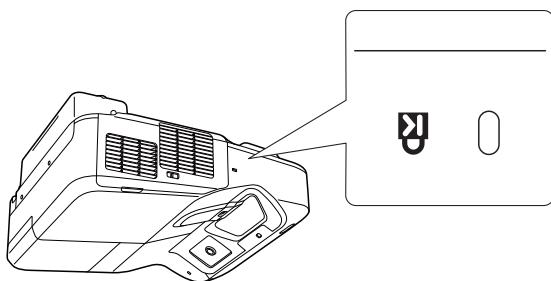
盗難防止用ワイヤーロックのワイヤーをプロジェクターとセッティングプレートのセキュリティーケーブル取り付け部に通します。ワイヤーロックの施錠方法は、ワイヤーロックに添付の取扱説明書をご覧ください。



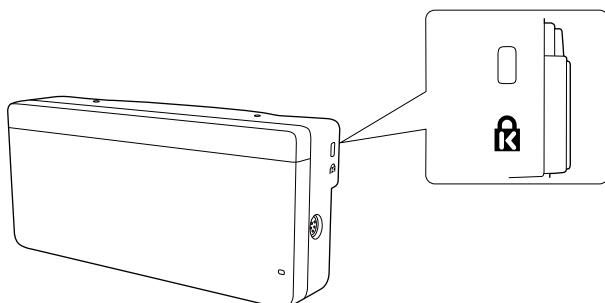
本製品は、Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティーシステムに対応したセキュリティースロットを搭載しています。マイクロセーバーセキュリティーシステムについての詳細は、以下をご覧ください。

<http://www.kensington.com/>

プロジェクター



タッチユニット（取り付け金具装着時は使用不可）



商標について

OS Xは、Apple Inc.の商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における商標または登録商標です。

©SEIKO EPSON CORPORATION 2016. All rights reserved.